

わたしたちの記録



アート・サポートセンター神戸

■ 所在地 〒650-0003
神戸市中央区山本通2-4-24
リラースゲートB1階
■ 電話/FAX 078-262-8058
■ URL <http://www.gallery-shimada.com>

[設立年月日] 1995年2月18日

[会員数] 約100名

[活動内容]

1.芸術発表活動にたいするコンサルテーション。アドバイス。2.文化活動全般に関する調査研究。提言。3.文化支援基盤整備(財源確保のためのシステムづくり)。提言。4.上記事業にかんするインターネット、出版物、セミナー、講演などによる情報発信。5.各種市民活動とのリンクによるアウトリーチ・ネットワーキング。6.「サロン」を通じての交流、創造、発信、市民力の養成。7.特定公益増進法人・マンション型文化コミュニティ財団設立の研究などを行います。



震災直後の1995年2月18日、高速道路も、ビルも、港湾も、住居も崩壊し、焼き尽くされ、一人一人の生活も壊滅状態のなかで、私たちは文化の復興を目指して、「アート・エイド神戸」の運動を始めた。

ネーミングについては神戸の文化は自分たちの手で守るという決意と、芸術家自身も神戸の復興のために力を結集するという願いをこめた。

基本的に活動は芸術文化活動支援が中心であったので最終的な財政の状況だけ報告すると、7年間に寄せられたご寄付と事業収入の合計は約8,000万円、残高338,000円、芸術文化活動支援に直接使われたものが4,400万円となった。

アート・エイド神戸終了後、基金残高はアートサポートセンター神戸に寄付され、活動は引き継がれた。アート・エイド神戸の主な活動は芸術家緊急支援(総数82名に支援総額7,300,000円) 建築仮囲いに壁画を描く壁画キャンペーン、震災詩集の刊行(第3集まで)、詩画集の刊行、震災で生まれた芸術を広く発信する「兵庫アートウィーク」を東京、福岡、釧路などで開催するなど活動は多岐にわたった。

(アート・エイド神戸からアートサポートセンター神戸へ)

アート・エイド神戸は震災を契機に生まれただけに震災との関係において語られ、活動が制約されることが多い。しかし7年を経て、新しいアートサポートセンター神戸へ移行した。ここではすでに100回を超える文化交流のサロン活動が活発に展開され、ここを拠点にNGO/NPOのファンドレイジングのためのMSI(Mutual Supporting Institution)事業をスタートさせ、様々な文化活動を通じて活動財源の確保を試行している。

(代表 島田 誠)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] メモリアル・コンサート in KOBE(企画)
[実施年月日] 2005年1月15日(土)10:30～17:00
2005年1月16日(日)10:30～12:00
[実施場所] Memorial Conference in KOBE(人と防災未来センター)
[内容] ナスターシャ・グジー(パンドゥーラ)、岡田征士郎(バリトン)、李浩麗(ソプラノ)、摩耶はるこ(シンガーソングライター)、神戸国男(フォークシンガー)、リメンバー神戸プロジェクト、市民朗読劇「50年目の戦場神戸」、劇団「夢サーカス」、金関環(ヴァイオリン)、弓張美季(ピアノ)大阪音楽大学卒業生有志によるコンサート
- [行事名] 竹下景子 トークと音楽の夕べ(協力)
「すべての地にまた陽はのぼる」
主催:ぼたんの会実行委員会
[実施年月日] 2005年1月18日(火) 18:30～
[実施場所] 神戸新聞松方ホール
[内容] 第1部 「希望の明日へ」
金関 環(ヴァイオリン)、高島春樹(ピアノ)
第2部 「信じ合うこと 繋がっていくこと」
竹下景子、黒田裕子(しみん基金こうべ理事長)
- [行事名] 津高和一 没後10年記念展
ブラジルから34年ぶりに故郷に帰る
[実施年月日] 2005年1月17日(火)～27日(木)
[実施場所] ギャラリー島田
[内容] 津高先生が震災で亡くなられてから10年の今年、先生が1971年にブラジルで発表された作品が故郷へ戻されることになった。30号から100号までの作品16点を日本で初公開することにより、先生を追悼する。



1999年以来毎年「復興支援コンサート」で詩の朗読を続けておられる竹下景子さんをお迎えしてトークと音楽の夕べが開催。(2005年1月18日 神戸新聞松方ホール)

わたしたちの これまで

1996年 津高和一追悼展
 1997年 津高和一追悼展
 1998年 津高和一追悼展
 1999年 津高和一追悼展 復興支援コンサート(協力)
 2000年 津高和一追悼展 復興支援コンサート(協力)
 2001年 復興支援コンサート(協力)
 2002年 津高和一追悼展 復興支援コンサート(協力)
 2003年 津高和一追悼展 復興支援コンサート(協力)
 2004年 津高和一追悼展 復興支援コンサート(協力)
 天満敦子メモリアルコンサート



アートサポートセンター神戸の101回目のサロン
 ジャズピアニスト 板橋文夫さんによるライブ
 「戦争はイヤだ!」詩人や横笛とのセッション
 (2004年 12月 23日)



「兵庫アートウィーク・イン東京」より
 「そして、フォークソングが生まれた、大地は、まだ
 揺れている。」
 写真は岡本光彰&ひょうたんなまズ
 (1997年 1月15日 安田生命ホール)



■ 所在地 〒651-2147
神戸市西区玉津町田中483-5-104

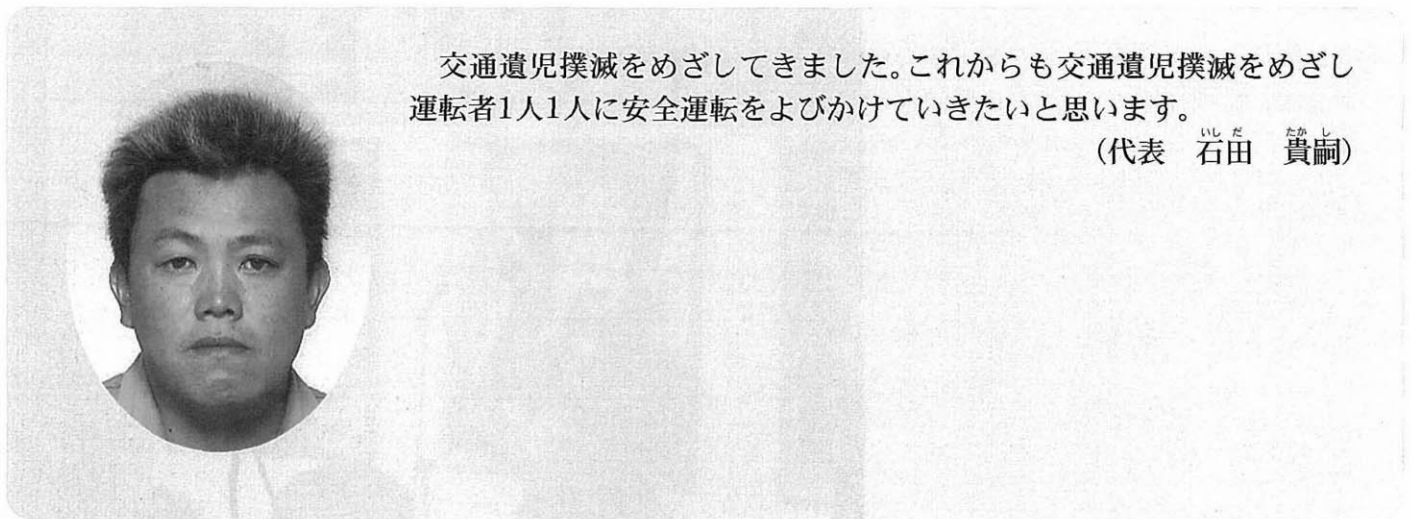
アートトラックファミリー魁一家

■ 電話/FAX 078-925-0709

[設立年月日] 1998年3月21日

[会員数] 25名

[活動内容] 交通遺児をみまもる会。神戸すばるの会支援。各アートトラッククラブチャリティー撮影会参加。



阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 阪神淡路大震災10年追悼イベント
[実施年月日] 2005年3月20日
[実施場所] 神戸ポートアイランド内
[内容] 阪神淡路大震災10年を節目にあの震災を風化させぬよう参加者全員で黙祷をささげ、当時の様子などの写真・語りを含めた追悼イベントを行う予定



当クラブでは、阪神淡路大震災10年追悼イベントを開催しました。
第一回チャリティー撮影会を神戸にて開催する事になりました。
2005年は阪神・淡路大震災から10年という、節目の年であり
あの日の記憶を風化させない為の追悼イベントを開催しております。

みんなで楽しみながらイベントにしたいと考えております。
みなさまのご来場をメンバー、一同心よりお待ちしております。
なお、会場整備費として、一台1,000円のご協賛をお願い致します。ご了承下さい。

※ 会場内でのバーベキューは禁止となっておりますので、ご注意ください。

11:00	開会式 各クラブ代表挨拶	(魁一家会長挨拶)
11:15		
11:30	参加者全員による黙祷	(1分間の黙祷)
11:40	子供参加による お菓子配り	
11:50	ラジオ関西パーソナリティ	(藤原正美さんの語り)
12:30	アートクイズ	
13:00	ビンゴゲーム	
14:00	トラックオークション	
15:00	名刺紹介	
17:00	閉会式	
18:00	ナイトシーン	

★ 時間についてはあくまでも、予定です。

当日のルートが変更しております。詳しくは各会場内に係員を
配置しておりますので、指示に従って下さいませお願い致します。

主催 アートトラックファミリー 魁一家



わたしたちの これまで

1999年 毎年5月神戸すばるの会の子どもをよんでバーベキュー大会

2004年

2004年 毎年12月神戸すばるの会のもちつき参加
新潟中越地震ボランティア参加



子どもたちによる材料切り

わたしたちの これから

交通遺児撲滅及び被災者支援

私たちは日本中の交通遺児を1人でもなくするため、運転者1人1人に安全運転をよびかけ交通遺児撲滅を目指します。

ならびに全国の被災者の方々にも支援していきたいと思ひます。

きくらに会ひする子ども

「おまぐら」屋敷の山崎さん

尼崎琴の浦ライオンズクラブ

■ 所在地 〒660-0882
尼崎市昭和南通3-1 第2松本ビル203号
■ 電 話 06-6413-3274
■ F A X 06-6412-3264

[設立年月日] 1970年2月10日

[会員数] 37名

[活動内容] 社会奉仕



恩と愛

社会の恩恵に感謝し、人類愛に燃えた活動

(会長 佐野 正仁)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 「鎮魂の祈りとかまくら」
「尼崎からの発信」がんばろう新潟”
- [実施年月日] 2005年1月16日～19日
- [実施場所] 尼崎市南七松町1-1 橘公園
- [内容] 阪神・淡路大震災犠牲者の霊を慰める
1、「かまくら」を造り祈りを捧げる
2、新潟中越地震被災者を激励する



わたしたちの これまで

- 1970年 尼崎学園中学校卒業生に記念品贈呈(～2004年)
1977年 あこや学園、田近野園へ プール贈呈
1978年 チャリティ映画 「陸軍・海軍」 上映
1982年 尼崎学園香住海水浴(～2004年)
チャリティ映画 「泣きながら笑う日」「高畑恭子コンサート」
1984年 リサイクルブックフェア(～2004年)
1985年 「わたぼうしコンサート」
1988年 「楽団 あぶあぶあコンサート」 尼崎学園中学生広島体験旅行
1990年 「楽団 あぶあぶあコンサート」
1994年 尼崎学園中学生広島体験旅行 「いわさきちひろ展」
1999年 「いわさきちひろ展」
2000年 市内高校生11名 交換学生として マレーシアに派遣
チャリティ映画「アイ・ラブ・ユー」



ミニかまくらに点灯する子ども



「かまくら」見学の小学生たち

わたしたちの これから

鎮魂の祈りとかまくら

阪神・淡路大震災10年目にあたる今年1月16日から19日、尼崎市橘公園において実施する。

秋田県横手市から、かまくら造りの職人を招き、県下、美方町提供の雪で製作。市内49名はじめ震災犠牲者の霊を慰める。

同時に、新潟県中越地震被災者激励のため—尼崎からの発信—“がんばろう新潟”のメッセージを送る。

これには市内小学生から、新潟の小学生へ宛てた手紙を送り、また、1月17日には それぞれの思いを込めた雪像などを造りエールを送る。

ほかに、高校生によるイルミネーション製作なども制作する。

すでにマスコミ関係へも事前発表し、新聞等で報道されている。

当日は横手市長の来訪も予定されており、この計画が、今なお復興への努力を続けている多くの人々を励まし、少しでも心の癒しになればと願っている。

1.17 KOBEに灯りを in ながた実行委員会

■ 所在地 〒653-0016 神戸市長田区北町3丁目4番地の3
長田区総合庁舎2F 長田ボランティアセンター内事務局

■ 電 話 078-574-2408

■ F A X 078-574-2427

■ E-mail nagatavc@aqua.famille.ne.jp

[設立年月日] 1997年4月吉日

[会員数] 10名

[活動内容] 「1.17ながた」の竹文字へのろうそくによる点灯、鎮魂ライブ、炊き出し、FMわいわいによる放送、募金など

「やっと、竹筒のろうそくに灯りをともせる勇気がでてきた」という方々のお気持ち。
ああ復興、まだまだですね。 (代表 和田 幹司)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 1.17 KOBEに灯りを in ながた
- [実施年月日] 2005年1月17日
- [実施場所] 新長田駅前広場
- [内容]
- ・「1.17ながた」の竹文字へのろうそくによる点灯
 - ・鎮魂ライブ
 - ・炊き出し
 - ・FMわいわいからの放送
 - ・募金
 - ・ろうそくづくり
 - ・竹の募金箱づくり

わたしたちの これまで

- 1997年 1月17日 新長田駅前広場にて、「1.17KOBEに灯りをinながた」竹文字への点灯
FMわいわいによる放送
- 1998年 1月17日 新長田駅前広場にて、「1.17KOBEに灯りをinながた」竹文字への点灯
FMわいわいによる放送
- 1999年 1月17日 新長田駅前広場にて、「1.17KOBEに灯りをinながた」竹文字への点灯
FMわいわいによる放送 ステージ 炊き出し
- 2000年 1月17日 新長田駅前広場にて、「1.17KOBEに灯りをinながた」竹文字への点灯
FMわいわいによる放送・ステージ・炊き出し・募金
- 2003年
- 2004年 1月17日 新長田駅前広場にて、「1.17KOBEに灯りをinながた」竹文字への点灯
FMわいわいによる放送・ステージ・炊き出し・募金・ろうそくづくり



日中に竹文字を並べるボランティアの皆さん



竹筒に氷を入れて準備をするボランティアの方々

わたしたちの これから

伝える

この行事は年々、様々な地域・年齢の方々に当日はもちろん、様々な所で、いろいろな参加をして頂けることが、実行委員会としては大変嬉しい事の一つです。

3年程前から、震災時には、生まれていなかった保育園児や、生まれてすぐに震災にあった中学生が、ろうそく作りや当日の会場手伝いなどを行ったり、親子で点灯式に参加をしてくれたりしています。この様に、震災を知らない子どもたちに、「震災を忘れずに、これからもこの行事を続けて下さい」と伝えていく為にも、また、全国へ阪神淡路大震災の記憶を風化させない為にも、この行事は、「伝える」をテーマに、実行委員会が続く限り、長田では行っていきたいと考えます。

ヴィオリラ大正琴愛好会 (ヴィオリランパール)

■ 所在地 〒655-0006
神戸市垂水区本多聞5-1-160-101
■ 電話/FAX 078-783-6671
■ URL
<http://homepage2.nifty.com/violyre-taishogoto/>

[設立年月日] 2001年6月1日

[会員数] 12名

[活動内容]

ヴィオリラの演奏を通じて交流を行なうことを目的に設立。内部組織として音楽講師中心の演奏グループ「ヴィオリランパール」がある。ステージ活動のかたわらボランティアコンサートを行なっている。



震災記念コンサートとしては神戸大正琴ソサイアティの名で初参加した4周年より継続しております。それ以前に仮設住宅でボランティア演奏をさせていただいた折に大変喜ばれ反対に勇気をいただいて帰りました。音楽を通しての心の交流、また音楽だからこそできるという不思議な力を感じ、その後始まった兵庫県の音楽療法士の養成講座も受講し、音楽療法的手法を用いたコンサートを続けています。震災から得た多くのものを後世に伝えるためにも…
(代表 今野 厚子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 阪神・淡路大震災10周年記念事業/震災10年神戸からの発信
「ひびけ！空までーヴィオリラ大正琴と歌おうー」
- [実施年月日] 2005年1月16日(日) 13:30～15:30
- [実施場所] 兵庫県立神戸生活創造センターパフォーマンススペース
- [内容] 第1部「ヴィオリラの調べにあの日あのときあの人を
思い出しながら」(語りと演奏)
第2部「空まで響くように大きな声で歌いましょう」
(ヴィオリラの伴奏で聴衆と一緒に歌う)
出演:(ヴィオリラ演奏)ヴィオリランパール
(語り)今野厚子



わたしたちの これまで

- 1999年 1月9日 阪神・淡路大震災4周年記念事業「天までとどけ！ー大正琴と歌おうー」(フェニックスプラザ)
2000年 1月9日 阪神・淡路大震災5周年記念事業「天までとどけ！ー大正琴と歌おうー」(フェニックスプラザ)
2001年 1月7日 阪神・淡路大震災6周年記念事業「天までとどけ！ー大正琴と歌おうー」(フェニックスプラザ)
2002年 1月6日 阪神・淡路大震災7周年記念事業「ひびけ！空までーヴィオリラ大正琴と歌おうー」(フェニックスプラザ)
2003年 1月5日 阪神・淡路大震災7周年記念事業「ひびけ！空までーヴィオリラ大正琴と歌おうー」(垂水勤労市民センター)
2004年 1月18日 阪神・淡路大震災7周年記念事業「ひびけ！空までーヴィオリラ大正琴と歌おうー」(県立神戸生活創造センター)



地域の給食会でのボランティアコンサート

わたしたちの これから

音楽を通してできること

音楽では何かできることがあるのかと疑問を感じていたが仮設住宅でのコンサートを機に「音楽だからこそできる」ことというものが少しずつ見えてきはじめた。人々との心を癒し勇気づけ、しかも言葉を介さず心の交流を行うことができる。さらに、音楽があるこそ訴えることも容易にできるといった素晴らしい側面も認識できるようになった。兵庫県が震災後音楽療法に着目し音楽療法士を養成し始めたが、期せずして同じ発想を震災から得たのである。もちろん今はその課程を経て資格を取得し音楽療法的活動の一環として震災記念コンサートも行い被災者の心を癒しさらに風化を防ぎ、この震災で得た人の心のやさしさや人と人とのつながりの大切さを忘れずにいたいと思い、この10年で区切りをつけて終わりにすることなく今後も続けていきたい、いくべきと考えている。

また高齢化社会に向けて健康維持のためにも音楽療法を広めたいと思う。ヴィオリラという持ち運びの便利さを生かして地域に根ざす音楽活動も是非続けていきたいと思っている。

会下山ラジオ体操会

■ 所在地 〒652-0043

神戸市兵庫区会下山町2-17-4 (代表者宅)

■ 電話/FAX 078-531-5040

[設立年月日] 1958年7月21日

[会員数] 248名(2003年)

[活動内容]

年中無休、早朝 6 時 30 分よりラジオ体操後、有志の民謡・フォークダンス約 40 名、バドミントン約 30 名、公園管理会月 2 回集団清掃に約 65 名、毎日の清掃に 7～8 名、季節折々の除草剪定に 5～6 名が参加。元旦の祝賀式、1/17 の震災犠牲者慰霊、7 月海の日海員萬霊塔慰霊



健康は人生の目的ではないが、健康でなければ何事も成し得ないし、健全な社会参加も個人・家庭のしあわせも得ることが出来ない。又震災での教訓の近隣の人々による助け合い、いたわり合い、はげまし合って、元気を出してこれたことを思い体操のみでなく知人、友人の輪を拡げて行くことの効果も無視出来ないものがある。更に行事や遊びを加えることで日々の楽しさをつくり出していることも効果の一つである。その明るい雰囲気づくりのために、朝の“あいさつ励行”運動を提唱している

(代表 山中 敏夫)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 阪神・淡路大震災犠牲者追悼のつどい

[実施年月日] 2005年1月17日

[実施場所] 会下山公園北広場海員萬霊塔前

[内容] 海員萬霊塔前に手造り祭壇と切文字行燈を設け、5時30分頃点灯、5時46分、同時刻参加者の黙祷後、各人祭壇に参詣。6時40分、ラジオ体操終了直後、体操参加者全員で再度黙祷後、各人祭壇に参詣して頂き、全員参詣終了後、祭壇及び行燈撤去、収納。



海員萬霊塔前の手作り祭壇

わたしたちの これまで

- 1995年 1958年以来の年中無休ラジオ体操会は1月17日～22日まで中断
23日より5名で再開 3月中旬約100人、7月には約200人復帰
5月22日会下山仮設住宅の人々と『ふれあい朝食会』開催。
- 1996年 仮設住宅建設のため体操会場を北広場から中広場に移動 1月
17日5時46分「阪神・淡路大震災犠牲者慰霊と復興祈念のつどい」
の看板を掲げて5時46分黙祷、約300人参加。NHKラジオ第1で全
国中継放送
- 1997年 同じく中広場で掲示板に小さな棚を設け、ローソクを灯し、1月
17日5時46分黙祷、焼香、約100人参加 6時40分約200人参加
- 1998年 前年と同じく1月17日5時46分約60人 6時30分約200人 今回
より行事名を「阪神・淡路大震災犠牲者慰霊・追悼のつどい」とした
- 1999年 前年通りに小さな祭壇を設け、犠牲者慰霊の霊位標柱と灯籠を
立てた 5時46分、13人に激減 6時40分約180人
- 2000年 前年通りの横に90㍑×180㍑のベニヤに1995.1.17.5.46の形に
釘を打ち、ローソクを立てて、この年から火文字供養を始めた
5時46分14人 6時40分約180人
- 2001年 仮設住宅撤去により北広場の元の会場に復帰 海員萬霊塔前
に新たに組立式祭壇を設け、ベニヤ製のローソク立60ヶで1月
17日会下山の火文字供養 5時46分約50人、6時40分約150人
- 2002年 前年と同じく、ローソクの火が消えるので、幅30㍑×奥行45㍑、
間口180㍑の組立式行燈に『1995.1.17.5.46. KOBE会下山』の切文
字で火文字供養を行い、5時46分40人 6時40分230人
- 2003年 前年通り 5時46分、35人 6時40分、約160人
- 2004年 前年通り 5時46分、43人 6時40分、約120人



2004年1月17日6時40分
体操参加者全員の黙祷



2004年1月17日6時40分
体操参加者の祭壇参詣

わたしたちの これから

続ける

家族や、知人、友人を失った悲しみと苦しみ。恐かったこと。困ったこと。淋しかったこと。隣人と国の内外の多くの人々に助けられ励まされて嬉しかったこと、有難かったこと。あの不自由な中で考え、教わった生きるための智慧と方法。年々薄れて行く記憶を呼び起し、日頃の備えと住居の点検をこの1.17を中心に行い、犠牲者のご冥福を祈り、あの時助けて頂いた方々への感謝を忘れず、未体験の世代と地域に発信して行くために、この慰霊追悼の行事をささやかでも続けて行きたいと思います。



平成16年1月17日丹波市萬松山慧日寺(ばんしょうざんえにちじ)では、仏殿から聞こえていた和尚の慰霊の読経が終わり、阪神・大震災が発生した同日の同時刻に第1の釣り鐘の音が響きました。

阪神・淡路大震災から丸9年目の節目に震災でお亡くなりになった方の人数分6,433打ちの鎮魂の鐘を連続して撞いてめい福を祈ろうという他ではなかなか考えられない(深夜も続く鐘の音…住居の近くでやれば…苦情の山となるでしょう)人里を少し離れた丹波のやま寺でしか実施できない追悼イベントのスタートです。

確実に数えるため、お盆に基石が100個用意され、鐘が撞かれるたびに1個ずつ別のお盆に移していきます。吊り鐘は15秒に1回の割合で撞きます。100回撞くのに25分かかります。計算では6,433回を撞き終わるのは26時間48分15秒後、翌18日の8時34分15秒です。

お参りの皆さんに今まで撞き終わった数を知らせるため和尚の手製の大きなパネルを鐘楼(鐘の設置してあるお堂)に掲げました。その下には被災地への義援金募集の箱も置きました。

暗い参道には、若手の村おこしグループ(さつき会や遊友会)などの会員が手作りした竹灯ろうにローソクの灯がゆれています。境内では、薪能の舞台のようなかがり火があたりを照らし、寒さを凌ぐ焚き火にも人の輪ができています。薪もお寺の裏山で汗を流して調達したものです。庫裏(くり…お寺の台所)ではお参りの方にと雑煮やぜんざいも用意されました。このようにして忙しいようなノンビリしているような…長丁場の行事が動き始めました。

夜明けとともに参拝客も増えてきました。新聞などで知り、参加された方もあって、氷上郡(現丹波市)の各町はもちろん篠山市、三田市、神戸市、多可郡、三木市、京都の綾部市など、合わせて230人以上のお参りがありました。飛び入りで御詠歌の会の人たちが鈴を鳴らし、奏詠されたり、思わぬ方からの手作りお菓子の差入れに舌鼓を打ったりして盛り上げました。

鐘の撞き手はドンドン変わります。檀家も檀家でない人も、地元の人も、遠くからきた人も…お参りになった方はみんなが主役です。お気のすむまで撞いてもらいました。もちろん鎮魂の願いを込めて鐘の数の数え手(原則二人)や諸準備の裏方も疲れる少し前に交代です。

こうして、17日の未明から文字通り日に夜を継いで翌18日の朝8時半過ぎまで、集落総出の行事を通じて、みんなが6,433の鐘を撞くうち、いのちの重さ、尊さを実感し、多くの感動や感銘を得ることができたと思います。誰も一言のお願いもしなかったのですが、被災者支援の募金箱を開けてみますと、3万2,525円が入っており、神戸新聞厚生事業団に阪神・淡路大震災義援金として寄託しました。

このようにして18日の8時半過ぎ、今年の追悼行事は成功裏に終わりました。

(代表 門脇 靖巖)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 阪神・淡路大震災鎮魂をこめて
[実施年月日] 2005年1月17日～18日
[実施場所] 慧日寺
[内容] 和尚の読経と亡くなられた方と同数の鐘撞きで、今年も亡くなられた方の霊を慰めると共に昨年は世界的にも自然災害が多く、自然に対する畏敬の念を感じると共に、今ここに生きていることに感謝し、生命の重さをかみしめることができました。
今年は、昨年より参加者も多く、被災者支援の募金箱にも4万4,084円が入っており、神戸新聞厚生事業団に阪神・淡路大震災義援金として寄託することができました。



わたしたちの これまで

- 1996年 毎年1月17日の正午に被災者の冥福を祈って、慧日寺の和尚が読経し寺総代が釣り鐘を撞いて、慰霊
2003年 供養を続ける
2004年 地震の発生した1月17日5:46から鐘を撞き始め、亡くなられた方と同数の6,433回を撞き終えたのは翌、18日の8時半過ぎ 和尚の読経は17日の5:30過ぎからと18日鐘撞き終了後の2回
2005年 昨年同様、6,433回の鐘を休まずに撞き続けた 撞き終えたのは、翌日18日の9時半過ぎ その後、全員が和尚の読経に合わせて焼香、合掌し、震災で亡くなられた方のご冥福を祈ると共に行事の無事終了を感謝した



撞き始めて26時間余、あともう一息('04.1.18)

■ 所在地 〒651-2116
神戸市西区南別府1-11-12

NPOヒューマンサポート ■ 電話/FAX 078-978-0775

[設立年月日] 1992年4月1日

[会員数] 21名

[活動内容]

情緒的支援網(ヒューマンサポート)とそれを支える自然・環境とを心身両面から大切にしていこうとする活動が阪神・淡路大震災という大きなストレス負荷を受けている状況下でも役立ちました。



わが国にはクライシスケアセンターの存在がみあたりません。人間探求と心豊かな人格形成を目指すためには、人間が人間らしく有るためには、常に自然・環境の保全につとめ、学ばなければなりません。

自然は父であり、母ですから、防災の前に“いのちの大切さ”を知らねばなりません。樹がなくなり器(機)になって、世界中が、地球が温暖化して自然災害が多発しています。環境と人の問題がテーマです。

(代表 藤井 敏幸)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 黙とう
- [実施年月日] 2005年1月16日
- [実施場所] 地域ステーション・憩いの家「ゆとり路」
- [内容] 人間と自然を大切にするとともに、自然を生かし、育て、守りながら、共生するための資源を開発し、身近な生活の中に自然を取り入れ、仲間と親交をはかり、併せてあらためて命のとうとさ、安全ですこやかな環境づくりについて考える。



わたしたちの これまで

- 1992年 植物・昆虫・水辺の生き物などの自然観察会
- 1993年 ネイチャーアート、ボタニカルアート講習会
- 1995年 阪神・淡路大震災により「自然と心のケア」の活動を展開する藤井敏幸(精神保健福祉士)、物資提供づくり、義援金づくりのためのリサイクル活動とバザー(循環型社会づくり)
- 1998年 鳥の絵大賞募集(展覧会)
- 1999年 魚の絵大賞募集(展覧会)
- 2000年 花の絵大賞募集(展覧会)
- 2001年 自然と私(作文・論文)募集(発表会)
- 2002年 障害者共同作業所での自然を活用した製品づくり
- 2003年 児童施設、母子・父子家庭の方をまねいて、運営する農園でのイモ掘りとイモ料理
- 2004年 アニマルセラピーを高齢者宅やフリースクールで実験的に取り組む



自然とふれあって活動のエネルギーをキープ

わたしたちの これから

今こそ自然環境と人間性を大切にする社会へ

過酷な緊張にあふれた社会では、ストレスコーピングとして自然の大切さが一番にあげられています。自然の中でこそ、Humanity(人間らしさ)、Understand(相互理解)、Mind(精神)、Ability(能力)、Navigate(参加)が可能となります。その大切な自然が病み、地球がストレスに対処出来なくなってしまうようにすることが、阪神・淡路大震災の教訓、新潟中越地震の教訓ではないかと思えます。災害は時・所を選ばずに発生するという見方も出来ますが、地球生命体としての今後の検証と、この地球に生まれたことが嬉しい、楽しいと感じられるように、その人がその人らしく生きることができるよう、自然の中で自分を発見することの意味をあらためて問う必要が有るでしょう。

被災した人たちの恐怖と苦しみ、すべての家族や友を失った人たち、社会的弱者のために生活圏域にクライシスケアセンターが必要です。

「大若」神戸の壁跡1.17の集い実行委員会

■ 所在地 〒653-0038

神戸市長田区若松町3-1-2-1106

■ 電話/FAX 078-611-3206

[設立年月日] 2001年12月17日

[会員数] 100名

[活動内容]

大若地区第1期再開発ビルが2001年6月24日に竣工。その記念に、神戸の壁の基礎を台座にした、震災復興記念碑「明日へわがまち」を設置した。その前で震災の日、1月17日には地域住民が「鎮魂と復興」をテーマに震災記念の集い行なう。



大若地区(若松地区3,4丁目・大橋3,4丁目)4ヶ町は全壊、全焼によって、17名の尊い命が奪われた。この地に残った市場の防壁を「神戸の壁」と命名し、住民と神戸の壁保存実行委員会らのメンバーによって保存活動が続け、震災の1月17日には追悼の集いを催していた。壁が津名町へ移築したあと住民が中心となり「大若」神戸の壁跡1.17の集い実行委員会を発足させた。「明日へわがまち」の前で追悼の集いを続け、「震災の思いを風化」させない様にすることがこの地の住むわれわれの責務であると思っています。
(代表 千葉 康広)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名]

「大若」神戸の壁跡1.17の集い

[実施年月日]

2005年1月17日午前5時20分～6時

[実施場所]

フレール・アスタ若松(ビル北入口)大若地区震災復興記念碑「明日へわがまち」前(JR、地下鉄長田駅東南へ徒歩3分、神戸市長田区若松町3丁目)

[内容]

大若(若松町3,4丁目・大橋町3,4丁目)の住民を中心に、1月17日に「鎮魂、復興、防災」をテーマとして、神戸の壁の基礎を台座にした記念碑「明日へわがまち」の前で記念の集いを行なう。震災10年として「忘れない 1995.1.17」のイルミネーションに点灯。参加者は1.17の思いを半紙に書いて、ペットボトルに貼り付けた灯ろうをつくる。東遊園地の希望の灯を分灯した火を点灯する。順次、「街の希望を願うことと鎮魂の色、ピンクのカーネーション、17本(この地で亡くなった方17名)を献花。5時46分黙とう。この街を歌った「明日わがまち」の詩の朗読とテープ演奏など。

[協力]

リメンバー神戸プロジェクト神戸の壁保存実行委員会・長田区まちづくり支援課
フレールアスタ若松自治会・アスタピア新長田駅前自治会・若松町3丁目自治会
若松町4丁目自治会・大橋町3丁目自治会・大橋町4丁目自治会
この町花の街作戦実行委員会



震災10年目の追悼行事(2005.1.17)

わたしたちの これまで

- 2001年 6月24日 大若地区第1期再開発ビル完成。記念碑「明日へわがまち」を建立
 12月17日 「大若」神戸の壁跡1.17の集い実行委員会の発足 地域住民により震災記念1.17行事を推進する組織をつくり、2002年1月17日追悼の集いの準備開始
- 2002年 1月17日 「大若」神戸の壁跡1.17の集い 参加者の震災の思いを半紙に書き、ペットボトルに貼り、灯ろうを制作、希望の灯を分灯、献花、黙とう、「明日へわがまち」の歌の演奏
- 2003年 1月17日 「大若」神戸の壁跡1.17の集い 同上
- 2004年 1月17日 「大若」神戸の壁跡1.17の集い 同上
- 2004年 9月25日、11月14日 「大若」神戸の壁跡1.17の集い震災10年実施について打合



実行委員会の世話役 (2002年1月17日)



復興記念碑「明日へわがまち」(2001年6月建立)

わたしたちの これから

震災復興記念碑「明日へわがまち」に希望の灯を

阪神・淡路大震災では、大若地区は全壊、全焼して17名の方をなくした。この街は再開発事業施行区域である。2001年6月に第1期再開発ビルが竣工した。順次復興ビルが建ち、新しい町が出来、新しい人たちが住んでいく。昔の下町の温もりを忘れていくと、同時に、震災から得た教訓も忘れられていく。第1期再開発記念碑「明日へわがまち」を住民の募金で建立した。記念碑は形があるので風化せず永久に残るので、震災の日の1月17日には記念の集いを催すことが出来る。1月17日は新旧住民の集うことが街のコミュニティーの場として発展すると思う。正に町のお地蔵様のように住民が守り、思い出深い街のモニュメントとして生きていくものと思っている。(副代表 笹野晴資・事務局 三原泰治)

加古川健康福祉事務所 管内いずみ会

■ 所在地 〒675-0017

加古川市野口町良野1740
加古川健康福祉事務所健康増進課内

■ 電 話 0794-22-0002

■ F A X 0794-22-7589

[設立年月日] 1974年4月1日

[会員数] 495名

[活動内容] 食生活改善を中心とした健康づくり活動をすすめているボランティア団体です。



平成8年(1996年)1月17日より、毎年震災の日には、この日を忘れないようにと「防災のつどい」を行っています。

備蓄食品を活用した調理実習を行ったり、震災体験談を聞いたりしています。
今後も継続して実施していく予定です。(代表 山本 英子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 防災のつどい
[実施年月日] 2005年1月17日
[実施場所] 播磨町中央公民館
[内容] ①講話「防災準備は家族みんなで」
②調理実習「備蓄食品を活用した調理」
③グループワーク「我が家の防災対策」



備蓄食品を活用した調理

わたしたちの これまで

- 1974年 加古川保健所管内いずみ会発足(同年全県組織の結成)、高血圧予防食講習会
1975年 食生活改善講習会(年代別・疾病別～現在)、食卓コンクール(～現在)、貧血講習会
1976年 よい食生活をすすめるためのグループ講習会(～現在)、魚介類についての講演
1977年 兵庫県いずみ会大会(加古川市民会館)、いわしを使った家庭料理講習会
1978年 保健栄養学級「神戸学院大学公開講座『環境汚染の人体影響について』」

1979年 機関紙「いずみ1号」発行(～1985年)、走る県民教室、町と村を結ぶ食料教室
1980年 元気で長生き食生活を見直すグループ講習会(～2001年)、食生活アンケート調査の実施
1981年 母と子の料理教室、牛乳料理講習会、目で見える歯の衛生展、植物油講習会
1982年 肥満児の正しい食生活、減塩食調理実習、高齢者食生活状況調査、健康道場
1983年 歯と骨を守る「いわしと成人病」講話、健康と食生活アンケート調査の実施
1984年 発足10年、米と日本人の食を考える会、日本型食生活の見直し
1985年 米と日本人の食生活を考えるつどい、肥満予防の移動健康センター
1986年 機関紙「管内いずみ会だより1号2号」発行、歯科医師会からの依頼で母と子の歯の衛生教室
おやつ展示と試食)の開始
1987年 食生活アンケート調査の実施、健康づくりと生活展、健康づくりの運動会
1988年 「ふるさと料理いまむかし」(1,500部発行)、ビタミンB₁摂取強化推進
1989年 高齢者の食事講演会、神戸検疫所見学
1990年 ふれあいの祭典料理コンクール(～現在)
1991年 骨粗しょう症予防教室、東西播磨の地区組織強化推進会議を実施
1992年 「大豆・さかな料理」(700部発行)
1993年 カルシウムの効果的なとり方、運動実践と健康づくり、腰痛センター見学
1994年 発足20周年記念誌の発行、成人病予防講習会、ゆうゆうシルバー料理教室
1995年 被災者支援活動(～2001年)、骨粗しょう症予防教室
1996年 漁業協同組合「魚料理教室」、食と健康教室新春(防災)のつどい(～現在)
1997年 こつこつヘルシー教室、子どもの健康週間大会、米料理教室
1998年 兵庫県食生活実態調査に協力、おいしいごはんを食べよう県民会議
1999年 すこやか県民減塩運動「すこやかライフセミナー」(～現在)
2000年 がん予防講習会、米料理講習会、在宅介護食講習会
2001年 ヘルスサポーター21事業(～現在)
2002年 食生活指針普及講習会、まちの子育て広場事業
2003年 兵庫県いずみ会大会(加古川市民会館)、兵庫県食生活実態調査協力、スローフード運動

わたしたちのこれから

食べることは生きること

食は命を保ち、健康を維持する最も基本的な要素です。

食生活の改善を中心とした健康づくり活動を地域ですすめている「いずみ会」としても、震災の記憶を風化させないよう、これからも毎年震災の日には「防災のつどい」を開催し、災害時には迅速に対応できるよう、普段からの備えの必要性を広く地域住民に周知していきたいと思っています。

また、災害時の炊き出し等が必要な場合には、迅速かつ主体的に炊き出しを実施するとともに、他の炊き出し実施機関・団体に協力するなど、支援活動に積極的に参加していきたいと思っています。

株式会社エフエムわいわい

■ 所在地 〒653-0052
神戸市長田区海運町3-3-8

■ 電話 078-737-3196

■ FAX 078-737-3187

■ E-mail fmyy@tcc117.org

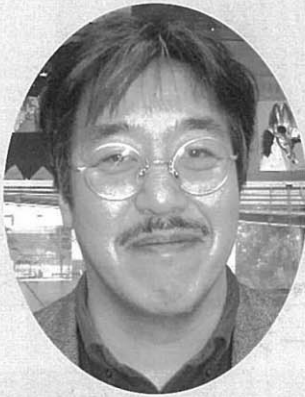
[設立年月日] 1995年5月7日

[会員数] 放送関係ボランティアスタッフ:80名

支援団体会員:50名 映像関係制作スタッフ:20名

[活動内容]

FMわいわいは神戸市長田区およびその周辺を放送エリアとする8言語で放送するコミュニティ放送局。まちには異なる文化、価値観を持った人が暮らしている。その人達が出会い、時間を共有することで、多様な社会がいかに懐が深く豊かなものであることを知る。「生活条件」が多数者とは異なる人々への配慮と尊重の気持ちはそこから生まれてくる。それを普段から放送やイベントを軸に築いていくことがFMわいわいの活動である。



震災から間もない焼け野原の長田にラジオから流れてくる母語に涙したベトナム人の友人の姿こそが、このラジオ局の原点である。難民として海を越えて日本に渡り、言い尽くせないほどしたであろう苦労が、その涙の中に見えた気がした。地震で壊れ、焼けてしまった長田。新しいまちは、生活条件が多数者とは異なる人々への配慮と尊重の気持ちが溢れる多文化・多民族社会でありたい。それがFMわいわいに携わるすべての人が取り組むまちづくりである。

(代表 日比野 純一)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 1.17KOBEに灯りをinがた

[実施年月日] 2005年1月17日

[実施場所] 新長田駅前広場(ピフレ前広場)

[内容] コンセプト:阪神・淡路大震災で亡くなられた方々への供養と思い出を振り返り、鎮魂と復興を灯りに託す。流れ:毎年実行委員会を立ち上げ市民によるイベントとする。地域の商業者・ボランティアセンター・学校・地域コミュニティ放送局などが個人として参加。また年数を経たことから、地域の学校や保育園そして公共施設での「語り部」と「ろうそくづくり」を展開。当日の行事:《放送》FMわいわいの震災10周年特別番組放送 《ステージ》音楽家のライブ、地域の中学校の有志コーラス、小規模作業所とその支援団体による和太鼓の演奏
地域への灯りイベント参加者との灯り分灯 《竹文字づくり》実行委員会と当日参加ボランティアと地域中学生 《炊き出し》地元企業、定住外国人コミュニティ、小規模作業所が協力 《点灯》実行委員会/当日ボランティア/地域中学校/地域高校/通行人



震災10周年特別番組放送中

わたしたちの これまで

- 1995年 1月30日大阪生野からの在日コリアンの支援で韓国・朝鮮語と日本語で「FMヨボセヨ」放送開始、同じく在日コリアンの支援で4月16日ベトナム語／タガログ語／英語／スペイン語／日本語で「FMユーマン」放送開始。その後2局が合体して7月17日「FMわいわい」となる
- 1996年 国の正式認可をとり、1月17日12:00地域コミュニティ放送局として日本語を含む韓国・朝鮮語／ベトナム語／タガログ語／英語／スペイン語／中国語の7言語での放送開始 4月からポルトガル語を加えて8言語での放送となる。
- 1997年 震災2周年特別放送・開局1周年特別放送 3月19日市民と市長のふれあいトーク特別番組放送 12月神戸市役所と災害情報の緊急放送に関する協定締結
- 1998年 震災3周年特別放送・開局2周年阪神淡路大震災特別番組「あれから3年」全国のコミュニティ放送局82局をネットして放送 サンテレビとの共同制作番組「癒し、そして…」をTVラジオで同時生放送。1月17日からインターネットによるリアルタイム放送開始 災害時多言語情報発信システムの開発着手 6月4日長田区総合防災訓練に参加・緊急割込み放送訓練・多言語での災害情報放送 10月16日兵庫県地域ラジオネットワーク連絡会によるネットワーク放送「ラジネットひょうご」放送開始
- 1999年 震災4周年記念事業「第1回1.17KOBに灯りを in ながた」イベント企画・番組制作・中継・震災4周年特別放送・開局3周年特別放送 1月29日「多言語で災害情報を！」シンポジウムを共催 11月台湾大地震で台湾に住む外国人のために震災情報を6言語でインターネット放送
- 2000年 震災5周年記念事業「第2回1.17KOBに灯りを in ながた」を開催 震災5周年・開局4周年特別放送 5月24日長田区総合防災訓練に参加 緊急割込み放送訓練・多言語災害情報放送・防災訓練実況生放送。
- 2001年 震災6周年記念事業「第3回1.17KOBに灯りを in ながた」を開催・震災6周年特別放送 4月14日くらしに役立つ多言語情報誌「東西南北」発表会 5月5日東大「災害と人権」ゼミフィールドワーク 5月26日長田区総合防災訓練に参加 特別番組「防災について」制作 10月6日「同時多発テロ」市民支援委員会募金告知5パケ英語版制作
- 2002年 震災7周年記念事業「第4回1.17KOBに灯りを in ながた」特別番組「1.17FMわいわい設立記念番組」番組放送中「5年生放送/復興支援特別番組/ふるさと元気への提言！～コミュニティ放送と一緒に～」AM神戸と地域コミュニティ放送局5局による同時生放送 5月20日秋田コミュニティ放送局防災週間特集特別番組と中継 6月29日FMみしま防災特別番組出演 7月3日FMとよはし防災特別番組出演 7月15日FMいかる防災特別番組出演 9月8日長田区総合防災訓練参加・特別番組「京都大学防災研究所巨大災害防災センターからの提言」
- 2003年 震災8周年記念事業「第5回1.17KOBに灯りを in ながた」を開催・震災8周年特別放送 3月再建委員会発足 再建開始
- 2004年 震災9周年記念事業「第6回1.17KOBに灯りを in ながた」を開催・震災9周年特別放送 10月30日～新潟県中越地震、台風23号の被災地のラジオ局に多言語による音声情報の提供支援

わたしたちの これから

音のもつ癒しの力で新しいまちづくりをめざす

緊急時の被災外国人支援のひとつとしてFMわいわいは神戸に生まれました。被災し未来に対する不安を抱えた心に優しい呼びかけ・楽しい音楽・笑いをよぶ娯楽は、人々の心に灯りをともすという体験を実感しました。そしてその言葉や音楽がそれぞれの耳に心地よい自分の国のものであればなおさらです。それは日本人が、思いがけない時に聞くふるさとの言葉に胸を熱くするのと同じでしょう。FMわいわいは、この音の持つ力を利用して暖かな音の渦を巻き興し、まちに住むたくさんの人達の心の糸をかき鳴らしまちづくりという交響楽を奏でます。そのためにいろんな地域へ出向き、神戸での経験を元にその地域にあった五線譜の書き方を共に考え探るという事をしてゆきたいと考えています。そのひとつひとつの音の渦が日本中を包み、やがて世界中が大きな喜びの歌を奏でる未来社会になるよう世界の言葉で長田から放送をつづけます。

か や いん 伽 耶 院

■ 所在地 〒673-0513
三木市志染町大谷410

■ 電話/FAX 0794-87-3906

[設立年月日] 大化元年(645)

[活動内容]

天台系統の山伏の寺。重文4件(本堂、多宝塔、鎮守社及び毘沙門天木像)を持ち、秋の紅葉、冬の金水(池の水面が虹色に輝く)などで知られている。



私は阪神淡路大震災の時、黒衣に手甲脚半をつけて板宿から長田の一带を歩きまわった。崩れた家や焼跡のそこそこに花が手向けられている。その花を求めて鉄筋をのりこえ瓦を踏みくだきつつ私は歩いた。花を見つけては経をとねえ、小さな御幣一本を手向けた。

おつとめをすませふっと人の気配にふり向いたら御夫婦が手を合わせておられた。そちらの花は父と母です。こちらは息子……。これは娘です……。気になっていたんです。死んだこの場でお経が頂けたら、と気になっていたんです。ほんとうに有難うございました……。私は返す言葉がなかった。

懸命に歩いたつもりなのに、6000余の方が亡くなられたというのに、中陰を終えた時点で私がおまいり出来たのは僅か292霊だった。それが心のこだわりとなって、私はその年から8月23・24両日の自坊の送り盆に6000本のローソクを捧げることにしている。
(代表 岡本 孝道)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 送り盆万燈会と山寺ライブ
- [実施年月日] 2005年8月23・24日
- [実施場所] 伽耶院境内
- [内容]
1. 6000本(23、24各3000本)のローソク及び境内に吊られた700個の手描き灯籠に灯を入れる(19:00点燈)
 2. 星空の下 かがり火をたきつつ「追善鎮魂山寺ライブ」として23日は李曙華(京都)による楊琴、24日はグルージャ坂口(三木)によるハーブの演奏を実施する(20:00ごろ開始)



鎮魂の灯(2004年8月)

わたしたちの これまで

- 1995年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯
 1996年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏を始める。ハープ(グルージャ坂口)
 1997年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏
 23日:オカリナ(鄭光均) 24日:ハープ(同) 仮設住宅(西神12・西神13・桜が丘・押部谷・月が丘)住居者を招待
 1998年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏
 23日:のこぎり音楽(のこぎり音楽協会関西支部) 24日:ハープ(同)
 1999年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏
 23日:馬頭琴(守田光輝) 24日:ハープ(同)
 2000年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏
 23日:マンドリン(桑原マンドリン研究所) 24日:ハープ(同)
 2001年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏
 23日:ハンドベル(東浦凜々クラブ) 24日:ハープ(同)
 2002年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏 23日:二胡(張剣) 24日:ハープ(同)
 2003年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏 23日:オカリナ(鄭光均) 24日:ハープ(同)
 2004年 8月23日・24日 ローソク6000本 灯籠700個点灯 奉納演奏 23日雨天中止 24日:ハープ(同)



境内に吊るされた灯籠



祈りを込めた6000本の灯り

(写真提供:村岡秀雄)

わたしたちの これから

小田実氏は著書「殺すなと共生」の中で、小学校3年の子が戦争や空襲について聞いていらっしやい、という宿題を持ち帰った時のことを書いておられる。

どう教えればいいのか迷っていた時に阪神淡路大震災に会った。家が崩れ、あの人もこの人も死んだ、電気も水道も破壊され、寝る所も食べるものもない、どうすることもできぬまま、ただ身を寄せ合うしかない世界がある、ということを小3の子は身をもって知ったという。

今、イラクの戦火の下で一般の人々がどういう状況に置かれているのか。そして人道支援という名の下に自衛隊の海外派兵が強行された今、60年間守り続けてきた「殺さない」という平和の理念がどうなっていくのか。戦争体験が風化して行く中で、地震の体験を伝えていくことの意義は私たちが考えている以上に大きいと信じつつ、私は6000本のローソクをともし続けて行こうと思っている。

環境美化を進める会

■ 所在地 〒662-0915
西宮市馬場町3-17
■ 電 話 0798-34-4187
■ F A X 0798-34-4188

[設立年月日] 1994年4月1日

[会員数] 90名

[活動内容]

①地球温暖化防止活動として、ワイルドフラワーの無償配布 ②阪神淡路震災犠牲者1142柱慰霊の為、リンゴ樹の植栽管理 ③国道43号西宮市本町上り線東川橋、橋上のボランティア花壇の植栽管理 ④西宮宮っ子キッズパーク管理棟屋根上を草屋根にて緑化実施



1996年1月17日21世紀を目の前にして、打ち鳴る警鐘の如く大自然は阪神淡路大震災を与えられた。時に市内犠牲者、1142柱同胞の死傷せるをよそにして、私、未だ生かされていた事に感謝し何故か生かされ残されたと思えば、これからは世の中へのお返しだ。こうしては居られない。この想いは何かの形で残して置きたいと思うのは人の世の常である。私も、幸い生き永らえて83才、そして天職とした造園、園芸歴は50年、やがては枝もタワワに実るだろうリンゴを夢みて、ボランティアであって、それでよし。此の世に阪神大震災とリンゴの思い出、大自然の教を残して置きたいものです。
(代表 渡邊 邦也)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 西宮市、市内震災犠牲者1142柱この中既植810本、差引き未植分332本の10年目の追悼植栽(90本)
- [実施年月日] 2005年1月17日～2月28日
- [実施場所] 西宮市内全域
- [内容] 過年度西宮リンゴ並木後援会で植栽完了したリンゴ樹は810本。残り332本については2005年度以後3年に分けて植栽する。2005年度は90本を目標とし平成17年1月17日以降2月28日迄に植栽完了。年月を掛けても1142本の追悼行事の完了する事を祈って居ります。



追悼植栽

わたしたちの これまで

- 1994年 1994年4月1日西宮市馬場町3-17に於いて有効微生物菌、EM菌の普及を目的とし、環境美化を進める会を設立し社会に向け活動を始めた
- 1995年 偶然と云うのか1月17日、阪神淡路大震災に遇う これが大自然の意図であったのか、地震の犠牲者1142柱の同胞を失った
- 1996年 故南野三郎会長の主催する西宮リンゴ並木後援会の事業に参画、植栽実践を行う
- 1997年 同上
- 1998年 同上 1998年1月17日(交付日2月25日)に兵庫県知事より震災復興特別賞を頂く
- 1999年 リンゴ並木後援会は全国津々浦々よりの津軽の果てからリンゴ苗の寄贈を受け植栽活動は更に大きく広がる
- 2000年 同上
- 2001年 西宮リンゴ並木後援会会長南野三郎氏逝去によって後任として西宮神社権宮司吉井貞俊氏会長に就任
- 2002年 平成14年9月30日に諸般の事情止むなくリンゴ植栽800本完了を以て西宮リンゴ並木後援会解散 解散後の維持管理は環境美化を進める会にて引継ぐ
- 2003年 植込み済み生育中のリンゴの補植メンテナンスを毎年1月17日より2月末日にかけ環境美化を進める会が行う
- 2004年 同上 本年1月17日には滋賀県伊賀郡高月町の西宮リンゴ並木植栽を支援する会(会長平井茂彦氏)より寄贈されたリンゴ苗10本を西宮宮子キッズパークに植栽させて頂いた(西宮市芦原町7-32 0798-67-7321)



99.3.8
リンゴふらん病防除の為の幹巻き



04.1.17 高月町よりリンゴ10本寄贈受

わたしたちの これから

タワワに実れ震災犠牲者慰霊のリンゴの木

あれから十年が経とうとしてます。生きる希みも失った大震災でしたが生を享けてる生き物、人間はその文字の通り人と共、生きてる者である。生きる望みを失ふな。この十年を生き抜いて体験し今も家族そろって生かさせて頂いてゐると思う。有り難い。今は亡き犠牲者の慰霊世の復興のため、世のため人のために、後世のために、そして引いては自分のために自分の健康で長生きのためにも慰霊のリンゴの木を植える実践活動を始めませんか。思へば皆あらゆる人の心に組み込まれた(DNA)か、すばらしい思いやりの心の現はれです。阪神淡路大震災西宮市内犠牲者を弔う1142本のリンゴよ枝もタワワに実れ。そしてリンゴの木の下を逍遥する若人達よ。後世を担ふ者達よ。一体誰が何時何の為植えたのかと思ってくれ。私は生きてゐる限り、この運動を続けたい。総てのために！後世おそるべし。21世紀を一寸でも長生きしたいと思ふ年寄りの抱負を述べました。

銀のスプーンペンクラブ (銀のスプーンネットワーク)

■ 所在地 〒666-8691

川西市花屋敷1丁目10-3
(司法書士三宅総合事務所)

■ 電話/FAX 072-759-3938

[設立年月日] 1987年11月23日

[会員数] 21名(アクティブ・ペン友)

[活動内容]

自由参加による生活記録の共同自主出版活動『銀のスプーン』の編集発行。平成16年、25集発行、この間、参加者601名、915点、6700頁。カウンセリング活動(銀のスプーンネットワーク)平成7～12年、現在休眠。学び・語らい・遊び活動(銀のスプーンだべりんぐ茶論・つぼみ会)の開催

「人の世、やちまた。人と人とのつながりは、いくつにも分かれながら、つながっている。」「ガバッと許し合い、バカになり合ったとき、確かな未来をつくるエネルギーが生まれる」

上手下手は別として自分の生きざまを率直に表現する、書きとどめることは、それが個人的な、ささやかな体験でも、その積み重ねは国、民族、社会の歴史にもなる(『銀のスプーン』1集)と考えます。

そして、自然・人間・言葉と郷土史と非宗教・非政治・非営利の原則の尊重は昭和35年1月の「だべりんぐ茶論・つぼみ会」の前身「いちご会」から、「啓政会」「重陽会」「円満会」を経て現在まで一貫して変わらない考えです。
(代表 日本ペンクラブ会員・元川西市議 三宅 啓正[筆名 啓弘])

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名]

- ①『銀のスプーン』26集(「1.17記憶の断片」、「ボランティア活動へのアドバイス」ほか)の発行
- ②『阪神・淡路大震災から100学んだ』(2004年・海文堂出版)著者、村山茂と語る「だべりんぐ茶論」

[実施年月日]

- ①震災10年記念行事の後、一般公募。2005年9月(繰上げの見直し)
- ②1月16日18:00～

[実施場所]

- ②川西市栄町パルティ川西1階

[内容]

- ①被災、ボランティア体験手記等を公募し、選考の上、掲載
但し補助金や募金等により可能な限り全て掲載
- ②例年通り犠牲者への黙祷のあと、参加者の被災体験、小学校現職教員の村山共同編集者の新著『阪神・淡路大震災から100学んだ』(海文堂出版)をめぐっての話し合いと会食など

わたしたちの これまで

1987年 1986年10月、読売新聞紙上、「中高年者の年刊行誌を」と呼掛け、三宅啓正(当時[美能勢正明]行政書士)と野原久、折目康夫(共に故人)らにより、四六版上製箱入『銀のスプーン』1集を発行 尾島生子の看取り体験「ああ、心筋梗塞」、矢島政夫『造船所で過ごした私の青春』、忌部眞司、[山村香]の疎開体験「雪の声」や水本務の満州からの引揚体験「赤い夕陽の脱出行」はじめ、池上正宗、守部義男、恩田怜、宮本忠雄、田藤新、吉津宣英や稲垣ヒサ、永井信吉らの作品も高く評価された

1995年 震災直後の11集から被災体験記の掲載を開始。担当大臣、知事、市長や永六輔さんらも特別寄稿。三宅啓弘や磯田昇、[桂俊介]、雨森育代らの被災体験等は、震災関連の著作にも多数引用され、NHKのラジオ深夜便で朗読され、菅原巖「川西活断層」、村山茂「地震から学んだこと」なども注目を集めた また、「銀のスプーンネットワーク」を立ち上げ、茶匙庵での1. 17追悼会のほか臨床心理士、宗教者らによる心の相談、夏には淡路全島巡回 田藤新ら震災体験交流会 前原基金設立 被災障害者支援「ゆめ・風基金」募金、被災者生活再建支援立法運動など参加推進

このほか、船地慧らによる「松本清フォーラム」に続いて、川西市商工会等ひろく市民に呼び掛け、西行法師が詠んだとも伝えらる「音にきく鼓が瀧」歌碑を猪名川中流・下滝公園に建立 その地中には一般公募による「震災のうた」等を埋設した 一方、西野康雄、[旭堂小南陵]「講談『鼓が瀧』について」、三宅啓弘「『西行鼓が瀧』伝承」や辻優「講談『鼓が瀧』と小南陵師匠」、忌部眞司「花と西行幻想」など、西行法師に纏わるエッセイが説話文学や講談関係者の間で反響を呼んだ また、「西行の歌碑を愛する会」(岡康栄会長)設立以来、西行所縁の弘川寺、勝持寺などへの「西行を歩く」バスツアー、西行歌にも因み、天野礼子ら「川と環境フォーラム」企画、レポ掲載

2004年 川西市制50周年『白百合文芸賞』を企画。西行の歌碑を愛する会と実行委員会を組織 川西市や兵庫県民局などの後援で詩、短歌、俳句を全国公募 神戸大学名誉教授の眞方忠道、天理大講師の梓加依や川西市立清和台南小前校長で共同編集者の豊嶋晃らが審査、大賞に宮崎県の上村由美子さん 9月に『銀のスプーン』25集(210ページ)刊行 (国会・兵庫県立・川西市立中央図書館、ひとと防災未来センターなど収蔵)



大地震で家屋全壊の永井老ら編集スタッフ

わたしたちの これから

新風を吹込みたい

自分がこの世を去ったあと、恐らくは批判せずには置かないであろう子どもたちの目に偽りのない像を結ばせたい。内部の声に忠実であろうとするあまり、子らへの弁解となっているかもしれないが、単なる半生記ではない広い意味での個人体験記を纏めておきたい。

そこから悲鳴に類したものが聞こえたなら、それを反面教師として立派に歩んでほしい。

「本」の体裁をとれば、大切にされ永く遺こると思うが、纏まった量の原稿と相当な費用を要する。しかも、必ずしも多くの人には読んで貰えない…。皆で共同出版すれば労力、時間や費用負担は軽減され、しかも、一人でも多くの人に読んで貰えるのではないか。

同人誌システムを採りながら、誰でも何時でも自由に参加できる自主出版を続けているが、常連の高齢化と代表者自身のポリオ後遺症、呼吸器障害による重複障害(2級)、要介護(4級)。

年齢制限の撤廃なども含め、いかに新風を吹込むかが課題。

■ 所在地 〒662-8501
西宮市上ヶ原1番町1-155

関西学院ヒューマンサービスセンター

■ 電話 0798-54-6400
■ FAX 0798-54-6148

[設立年月日] 1995年4月17日

[会員数] 約120名

[活動内容]

ボランティアコーディネイト: 学生へ地域からのニーズに対するボランティアのコーディネイト
学童保育ひまわり: 大学近隣の児童館や育成センターへ学生が行き、小学生や地域の方と交流する企画団体すびねっと: 新しい企画をどんどんたてて、学生らしい活動をしていく

関西学院直属のボランティアセンターとして、地域に密着した活動を展開させています。学生の主体性を大切に今後も継続させていければと考えています。
(代表 近藤 加奈)



阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 白いリボン運動

[実施年月日] 2005年1月

[実施場所] 西宮市内

[内容] 2002年をもって、震災の次の年から追悼、感謝、再生をコンセプトの白いリボンを胸につけて、市民の意思表示の方法としての活動を行っていたのですが、いったん中止となりました。2005年1月からは第2次白いリボン運動として、祈念、感謝、創生というコンセプトの下に市民社会を支えるNPOへの募金活動として再出発いたします。



白いリボン運動

～新しいNPOに新しい民間団体の仕組みを～

阪神淡路大震災の被災地では、震災の翌年から復興、復興、再生の願いをこめて白いリボン運動が始まりました。震災10周年を前に、地域再生やコミュニティの創出という手であるNPOに対する民間資金運動として新しい白いリボン運動を組織します。

この運動は、「祈念、感謝、創生」という3つのコンセプトのもと、あの時は助けられなかった人々を次の災害には助けられる力を持つようにしたいという願いをこめて、民間的な人々の自発的な取り組みと人々とのつながりを確立するために、NPO法人を中心とした新しい市民社会を構築することを目的とする民間資金運動です。

被災者、被災、被害者、活動など公益活動の支援するNPO、また被災地復興・支援23年などの被災者を支える活動活動を行ったNPOへの支援を支援しつつ、同時に幅広い活動領域のNPOを支援します。また被災地、被災者の復興に必要となる民間性と民間資金を支援します。

白いリボン運動を推進する委員会 委員長 岡本 仁彦(関西学院大学名誉教授)

祈念・感謝・創生 普段から支えあい・助けあう社会を!

白いリボン運動全国実行委員会事務局

NPO法人 プラン・シー・マニエー内 西宮/室(28)
〒662-0832 兵庫県西宮市甲山園1丁目2番12号 カミヤビル2階

☎0798 83 4442 ☎0798 83 5551
ribbon@brainhumanity.or.jp

<http://www.brainhumanity.or.jp/whiteribbon/index.html>



わたしたちの これまで

- 1995年 関西学院ヒューマンサービスセンター発足、学童保育開始、ボランティアコーディネート開始
- 1996年 第1回白いリボン運動
- 1997年 第2回白いリボン運動、仮設住宅プロジェクト(仮設の写真をとって記録して残す)
- 1998年 第3回白いリボン運動、仮設住宅プロジェクト
- 1999年 第4回白いリボン運動、仮設住宅プロジェクト
- 2000年 第5回白いリボン運動
- 2001年 第6回白いリボン運動
- 2002年 第7回白いリボン運動



関西学院の校門前での活動風景

わたしたちの これから

震災をきっかけとして発足した関西学院ヒューマンサービスセンターは、現在は学院のボランティアセンターとして、学生にボランティアを知ってもらい、実践をしてもらえるように様々な活動をしております。諸先輩方の残してくださった、様々なつながり・ノウハウを生かし、学生の主体性をもとにした活動の中で、出来たつながりを大切にしながら地域に密着した活動を心がけております。

また、他大学のボランティアセンターとの交流や勉強会などを通して、大学生同士がお互いに切磋琢磨しながら高めあっていければと考えております。

わずか4年という短い期間の中で、活動を通して学生に多様な価値観を身につけて貰い、これからの社会への人材輩出の一端を担えればと考えております。

神戸市役所センター合唱団

■ 所在地 〒652-0882
神戸市兵庫区芦原通2丁目1-23

■ 電話 078-672-1015

■ FAX 078-672-1014

■ URL
<http://ha3.seikyoku.ne.jp/home/center-choir/>

[設立年月日] 1963年11月6日

[会員数] 50名

[活動内容]

1963年11月、神戸市役所に勤める若者が中心となって創立。“平和で健康な音楽を多くの人々に広げる”ことを目的に掲げ、人々の願いや要求を音楽の源泉とした音楽演奏・教育・創造活動を展開している。

96年混声合唱組曲『阪神大震災鎮魂組曲1995年1月17日（原詩／森村誠一、編詩／池辺晋一郎・神戸市役所センター合唱団、作曲／池辺晋一郎）の制作・初演をはじめ、これまで早乙女勝元、故寺原伸夫、青島広志、三枝成彰、新実徳英氏など多くの専門家と協力共同して新作を発表しており、意欲的な活動を繰り広げている。現在は誰でも入団できる。

私たち神戸市役所センター合唱団が、震災以降、一貫し「震災」にこだわり続けて実行していることが二つあります。

ひとつは、団の太鼓衆団「輪田鼓」として震災翌年から毎年1月17日の午後5時46分に全国一斉に太鼓を打ち鳴らす「鎮魂と希望の太鼓」運動を神戸から発信していることです。

もうひとつは、阪神大震災鎮魂組曲「1995年1月17日」を歌い続けていることです。この組曲は、原詩を作家の森村誠一氏に、作曲を池辺晋一郎氏に委嘱した、全8章からなる混声合唱組曲です。96年1月に被災者300名をご招待して開いた「阪神大震災船上メモリアルコンサート」での部分演奏、同年4月の全曲初演以降、8月には日本と同じ地震国であるニュージーランドでの公演を成功させ、97年4月から7月にかけて県下被災地11ヶ所で開いた「阪神淡路縦断人間復興コンサート」の全ヶ所でも上演。2000年3月には初の東京公演を成功させ、この間に70回を越える演奏活動を展開してまいりました。

犠牲となられた方に心より追悼の意をあらわすとともに、尊い犠牲を無にしないことを胸に刻み、人と街の復興への誓いをあらたにしたいと思います。

そしてこれからは、人々の再生と心の癒しという意義だけではなく、震災を風化させることなく真の復興を検証していくという二つの想いを胸に、鎮魂と希望の「太鼓」、そして「歌」を神戸から発信し続けていきたいと思っています。

(代表 田中 嘉治)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 一震災10年 神戸からの発信 森村誠一・池辺晋一郎・南風洋子を迎えて一

阪神・淡路大震災10周年メモリアルコンサート

[実施年月日] 2005年1月15日(土) 18:30～

[実施場所] 神戸新聞松方ホール

[内容] 第1部／和太鼓 太鼓衆団「輪田鼓」ほか

第2部／記念トーク

森村誠一 & 池辺晋一郎 & 南風洋子

第3部／阪神大震災鎮魂組曲原詩(一部)の

朗読 南風洋子

阪神大震災鎮魂組曲「1995年1月17日」

指揮／山本収 ピアノ／井上由子



合唱組曲「阪神大震災組曲1月17日」を歌う

わたしたちの これまで

- 1995年 ●「くちびるに歌を、こころに勇気を」を合言葉に、歌と太鼓で避難者を励まそうと2月11日に避難所コンサートを開始、6月までの間に30ヵ所をまわる
- 1996年 ●1月18日「阪神大震災一周年・メモリアルコンサート」をクルーズ船「パルデメール号」上で開催。以降毎年メモリアルコンサートを実施 ●4月7日に阪神大震災鎮魂組曲「1995年1月17日」(原詩／森村誠一 編詩／池辺晋一郎・神戸市役所センター合唱団、作曲／池辺晋一郎)初演 ●8月、「阪神大震災鎮魂組曲」ニュージーランド公演 ●10月、全日本合唱連盟関西コンクール金賞受賞 ●11月、「阪神大震災鎮魂組曲」等で神戸の音楽文化の向上に努めたとして平成8年度神戸市文化活動功労賞受賞
- 1997年 ●4月～7月、「阪神・淡路縦断『人間復興』コンサート」を被災地 11市町(神戸市長田区、兵庫区、東灘区、北区、西区、中央区、明石市、芦屋市、西宮市、尼崎市、津名町)で開催
- 1999年 ●合唱団の震災からの立ちあがりを綴った『炎と涙の底から一鎮魂と再生のハーモニー』(かもがわ出版)を出版 主に震災後の5年間の活動を記し、改めて5年間の活動を振り返るとともに今後の指針とした
- 2000年 ●3月9日阪神大震災鎮魂組曲東京公演(東京紀尾井ホール) ●12月23日『「20世紀から21世紀へ」～鎮魂と再生のメッセージ～阪神大震災鎮魂組曲上演60回』として、定期演奏会を林英哲とともに行う(神戸国際会館こくさいホール)
- 2001年 ●全日本合唱連盟関西支部より、震災後の創造演奏活動等に対して、同連盟の権威ある「長井賞」を受賞
- 2002年 ●混声合唱組曲「沖縄の雲へ」委嘱初演 ●阪神・淡路大震災7周年メモリアルコンサート「炎と涙の底から」を新神戸オリエンタル劇場にて開催
- 2003年 ●「悪魔の飽食」全国縦断コンサート神戸公演で合唱団京都エコーと共演 ●「鎮魂と希望のうた・太鼓」として酒心館(酒蔵)で阪神・淡路大震災8周年メモリアルコンサートを開催
- 2004年 ●「沖縄の雲へ」ニュージーランド公演 合唱構成「二つの海」初演(木下牧子委嘱初演含む) ●阪神・淡路大震災9周年メモリアルコンサートを神戸新聞松方ホールにて開催

わたしたちの これから

これからも「震災組曲」を歌いつづけたい

■本年、被爆・終戦60年、震災10周年を迎えるにあたり、団では実行委員会を組んで環境と平和を考える「グリーン&ピースコンサート」を4月29日みどりの日に、神戸新聞松方ホールで開催。指揮／浅井敬壹(合唱団京都エコー指揮者) ■84年に団で委嘱・初演した混声合唱組曲『悪魔の飽食』(原詩／森村誠一 作曲／池辺晋一郎)が、この10年来、全国縦断コンサートとして取り組まれており、全国の同組曲をうたうメンバーとともに約300人で本年8月に第2次中国公演を行う(名誉団長／森村誠一 団長／池辺晋一郎) ■震災10年の記念事業の一環として11月23日、神戸ポートピアホールにおいて、大阪センチュリー交響楽団のオーケストラ伴奏、池辺晋一郎指揮によるカンタータ『1995年1月17日』を上演 ■一昨年建設された自前の神戸音楽センター会館を地域に根ざした地域文化発信の核としながら、合唱・太鼓文化の発展、創造に寄与したい。

阪神大震災鎮魂組曲
「1995年1月17日」
ー混声合唱とピアノのためにー
原詩 森村 誠一
編詩 池辺 晋一郎
神戸市役所センター合唱団
作曲 池辺 晋一郎

第1章 激震

平成7年1月17日午前5時46分
神戸はまだ眠っていた
光の似合う美しい街に
黎明が揺れ始めている
今日もまた
平和な朝
心地よい暁のまどろみ
蒲団の温もり

突然、平和の底が割れ
地表から突き上げられた
筆筥、食器棚、本棚、次々に倒れ
砕けるガラス
落下する天井
家が潰れる
暗闇の中に交錯する悲鳴と怒号

停電
電話不通
ガス、水道停止
新幹線、高速道路、幹線道路、私鉄寸断
高架橋落下、電車横転、駅倒壊、橋桁落下
岩壁陥没、港湾機能麻痺

死者、行方不明者、増加の一途をたどる
マグニチュード7. 2
直下型大地震が阪神地方を直撃

第2章 慟哭

街が燃えている
父が、母が、
兄が、妹が
夫が、妻が
倒れた家の下敷きになっている
「待っている」
「頑張れ」
「いま助けてやるぞ」
火がくるぞ、火がくるぞ
火の粉の雨、炎の柱
髪がくすぶる
衣服が焦げる

火の手が迫る
消防車はまだか
ホースから水が出ない
消火栓全滅
大型火災、各所に同時発生
火の手が迫る

目の前の生き埋めを救うべきか
火の手に向かうべきか
手が足りない
体を二つに引き裂きたい
「戻ってくるから待っている」
心を鬼にして
火の手に向かう
手が足りない
体を二つに引き裂きたい
火の手が迫る

瓦礫の下にまだ人がいる
「そこにだれかいるか
いたら返事をしろ」
救いを求める声が聞こえなくなった

生き埋めの声なき人を後にして
火の手に向かう我は鬼なり

第3章 生還

神戸市長田区 私立西市民病院
コンクリートの天井落下
暗闇のとじこめられた
43人の患者と3人の看護婦

「みなさん、落ち着いて
看護婦がついています」
「必ず助かる、がんばりましょう」
「胸が重い」
「押しつぶされる」
「苦しい」
「必ず助かる、がんばりましょう」
暗闇の中、声をたよりに
点呼をとる
「いち、に、さん、し、ご」
10分おきに、暗闇の点呼は
繰り返された
「いち、に、さん、し、ご」

5時間ほどして、5の返答が消えかけた
「しっかり、しっかり」
消えかけた声を、皆が励ました
誰かが
身の上話を始めた
しりとりもした
救出を信じて待ち続けた
声を合わせて歌う赤とんぼのうた

ああ私は一人ではない
この閉じ込められた暗黒の中
落ちてくる天井を
共に支える仲間がいた

16時間

突然、暗闇に穴が開いた
助かった

第4章 手紙

東灘区役所市民課
死亡届 1日300件
市民課係長
おもわず仕事の手を止めた
息子と同じ年頃の少年が
両親の死亡届を差し出していた
「頑張れよ」
「有難う」
少年の後姿が人混みに消えた

少年の手紙
父、母、祖母が死んでしまったとき
ぼくはいつまでも沈んでいないで
新しい人生を歩いて行こうとおもいました
ぼくは自分だけが助かったとき
父、母、祖母の三人が
自分の生命を使って助けてくれたと
信じていました
ぼくは三人の分
強くいきていかなければならないと
おもいました
ネバー・ギブアップ、あの言葉
今後、人生の教訓にさせていただきます
本当に字が汚くて
申し訳ございませんでした
澤野健太郎

第5章 ボランティアが
やってきた

なにかしなくてはならない
なにをしたらいいんだ
なんでもいいからできることをしよう

たこやき屋、焼き芋屋が
屋台を引いてやってきた
理容師が来た
学生が来た
僧侶が来た
霊柩車が列をなしてやって来た
淡路島、四国経由で
バキュームカーがやって来た

なにかしなくてはならない
なにをしたらいいんだ
なんでもいいからできることをしよう

右翼がカップラーメン、握り飯、
味噌汁を配った
自衛隊は仮設風呂を建設

米軍はテントを張った

ミュージシャンやアーティストの慰問
タカラジェンヌも来た
人形劇を見せるボランティア
避難所での映画会
青空コンサート、餅つき
マッサージ師も来た
救援物資が、洪水のようにやって来た

なにかしなくてはならない
なにをしたらいいんだ
なんでもいいからできることをしよう

韓国から十万人分の下着
在日コリアンはおでんの手料理
雑炊、手打ちラーメン、豚汁
全国からの炊き出しボランティア
スイス、フランス、イギリスからの
レスキュー部隊
アメリカからただ一人の女性が
救助犬を連れてやってきた

なにかしなくてはならない
なにをしたらいいんだ
なんでもいいからできることをしよう

第6章 南っ子新聞

小学生もジュニアボランティア部隊を結成
避難所新聞を発行した
南っ子新聞特別号

ドドドドドーンと音が鳴って
びっくりして
ふとんの中にもぐり込んで
地震がおさまるのを待った
おさまってから外に出たら
前の店が2階が1階になっていて
すごくこわくなって
おじちゃんたち、大丈夫かなとおもった

恐さがすごく残っている
すごくすっごく、恐いのが頭にうかんで
恐くて寝られないくらい
すごく恐い地震だった
それで、私に一番、一番優しくしてくれた
おばあちゃんが亡くなって
とってもと～～～っても悲しくて悲しくて
夜になって寝る時
どうして死んじゃったの

ただでさっぱり
床屋さんはわざわざ京都から
電車と車で
ぼくたちひさいしゃのために来てくれました

残ったパンをすぐに捨てないでください
うさぎ小屋のうさぎたちも
えさがなくて困っています
あんパンでもいいです
あとで中のあんこだけ抜きます
うさぎが待ってます

自分のよく馴れている街からひっこすって
すごく悲しいな
お店の人、学校とも、
みんなとも別れたくないし
この街とも離れたくないし
もっと他人に親切にして
先生の話もしっかり聞いて
勉強も帰ったらすぐにして
親こうこうをもっとする小学生になる

以上、南っ子新聞特別号

第7章 私の息子

息子の名前は上仲^{うえなか}大志
1993年7月15日出生
1995年1月17日死去
1年6ヶ月の人生を
あっという間に駆け抜けていった

生まれた時はハスキーボイス
しっかりとぎった小さなこぶしを

そっと開いた
乳房に吸いつく小さな口
すべすべした肌を抱きしめてほほずり
人間の命をまるごと預かっている
責任と幸せと

大志ちゃん
私の胸に、まだあなたの温もりが
残っている
あなたに会いたくなったら
ママはひとりで涙を流すの
涙の底に、あなたの笑顔が映るから

どうぞお願いします
ほんのひととき思ってください
大志という命が
この世にあったことを
短い命を一生懸命生きた
あの子のことを

逝ってなお
生きていく意味を私に教えてくれた

神様の選んだ
とびっきり上等の
私の息子、大志

生まれてきてくれてありがとう

第8章 とわ わが街よ永遠に

死者六千三百人
負傷者三万三千人
損壊家屋十万九千棟
避難者三十二万人
三百万人の運命を変えた阪神・淡路大震災

太陽は明るく輝いているのに
山はいつも変わらない姿を見せているのに
そして浜や川には
水鳥たちが今年も
にぎやかに、楽しげに群れているのに

私たちは見た
私たちは忘れない

全国、そして世界から駆けつけた
ボランティアの献身を
人と人の助け合いの
尊さを

私たちは見た
私たちは忘れない

みんなで分けあった
たったひとつのおにぎり
手を取りあい、励ましあった
あの長い暗闇

六千三百の魂よ
安らかに眠れ

炎と涙の底から立ちあがろうとする街で
今、仲間たちとこの歌を歌っています
死者の魂に届けと
力を合わせたすべての人に
届けと

私たちはいま
誓いと再生の歌を歌います

太陽が明るく輝いているから
山がいつもと変わらない姿を見せているから
そして浜や川には
水鳥たちが今年も
にぎやかに、楽しげに群れているから

私たちはいま
誓いと再生の歌を歌います

わが街よ
永遠に

神戸復興塾

■ 所在地 〒651-0076

神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所内

■ 電話 078-230-8511

■ F A X 078-230-8512

■ E-mail LET07723@nifty.ne.jp

[設立年月日] 1996年4月1日

[会員数] 34名

[活動内容]

●被災地で活動を行う個人・団体のネットワークづくり ●まちづくりのための調査・研究・提言活動 ●市民交流事業 ●市民大学・講座、研修活動 等



兵庫県がまとめた「復興10年総括検証」の中間報告を読むと、「県民満足度を最大化する参画・協働型行政システムの構築」が提言されている。耳ざわりは悪くないが、震災を契機に被災地の復興に取り組んできたわれわれにはなにか納得できないものがある。どんな指標なら満足度が計れるのか、個人の満足度の総和が県民満足度なのか、そのあたりの説明が欠けているのはともかく、われわれの周囲には県民満足度の向上を目指して活動に飛び込んだメンバーは見当たらない

NPOの多くは不幸な人びとに手を差し伸べることから始まり、この不幸や不運を生んだ不公正な社会の仕組みや既存の制度の欠陥に挑むために立ち上がった。政治の世界では「最大多数の最大幸福」が原則で行政も地縁団体これに従うが、NPOは「県民不幸度の最小化」が行動原理である。常に少数者の立場を擁護するNPOとの協働は、決して奇麗事では収まらないことを銘記すべきであろう

神戸復興塾は、早くから「まちの復興は人口や出荷額だけではなく、以前住んでいた人がどれだけ戻ったかという尺度を取り入れた復興指数が必要」だと主張してきた。こうした観点は、これからも避けられない災害の復興についても重要ではなかろうか。

(代表 塾長 小森 星児)

わたしたちの これまで

1996年 公開講座(東洋大学工学部建築学科内田研究室)

1997年 公開講座(京都府立大学家政学部住居学科上野研究室、愛知県建築士会、朝日新聞大阪本社社会部企画報道室、地域安全学会震災調査会)
勉強会「仮設住宅から災害公営住宅へ」(堀内正美)

1998年 災害公営住宅入居者交流事業(北舞子台第4団地、鹿ノ子台南団地、ルネシティ魚崎中町団地、ベルデ玉津団地、HAT神戸団地、井吹台団地)

公開講座(龍谷大学社会学部西光ゼミ、大阪市立大学生生活科学部住居学科藤田研究室)

アメリカ／サンフランシスコNPO視察(17名参加)

勉強会「生活型復興計画における復旧・復興都市計画のあり方」(広原盛明)

1999年 第1回こうべウォーク(事務局として実施、約3,500名参加)

災害公営住宅入居者交流事業(HAT神戸団地・灘区)

公開講座(ドイツ・ハンブルグまちづくりNPO、英国まちづくりNPO／東京ランポ)

アメリカ／サンフランシスコNPO視察(13名参加)

委託調査報告書「災害復興期におけるNPOの役割－阪神大震災・被災地での取り組みに関する調査－」
(京都市消防局より)

勉強会「被災地におけるNPOの役割について」(実吉威、井上隆文)、「これからのNPO 阪神・淡路コミュニティ基金の3年間を振り返りながら」(今田忠)、「復興まちづくりとコミュニティづくり」(辻信一)、「住民主体で進める住まい再建とまちづくり」(野崎隆一)、「まちと商業の再生を考える」(三谷真)、「震災5年の検証」(室崎益輝)

復興塾通信発行(創刊号、2号)

2000年 第2回こうべウォーク(事務局として実施、約2,300名参加)

公開講座(タイズ財団パイク会長講演会、日本建築士会連合会、墨田区川の手倶楽部、朝日新聞大阪支社記者研修)

アメリカ／サンフランシスコNPO視察(13名参加)

委託調査報告書「市民活動モデル調査－神戸市における中間支援組織に関する調査－」(神戸復興塾と神戸市への平成11年度経済企画庁委託調査)

復興塾通信発行(3号、4号)

2001年 第3回こうべウォーク(事務局として実施、約1,500名参加)

勉強会「防災・復興・まちづくり」(室崎益輝)、「災害復興公営住宅のコミュニティ支援」(石東直子)、「まちづくり協議会連絡会の今後」(中島克元)

復興塾通信発行(5号)

2002年 ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画会議への協力開始

復興塾通信発行(6号、7号)

2003年 アメリカ／シアトルNPO視察(7名参加)

勉強会「東海・東南海・南海地震等にいかに備えるか」(室崎益輝)、「震災後8年間で感じたこと」(上田耕蔵)、「震災復興現地体験型修学旅行」(森栗茂一)

ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画会議への協力

復興塾通信発行(8号、9号、10号)

2004年 勉強会「震災復興まちづくり10年」(宮定章)、「震災10年で多文化共生社会はどうなったのか?」(田村太郎)、「災害救援とボランティア」(菅磨志保)、「神戸の被災と復興の経験はどう生かせるか」(相川康子、石東直子、磯辺康子、上田耕蔵、浦上忠文、大津俊雄、喜多陽太郎、黒田裕子、小林郁雄、小森星児、島田誠、菅真志穂、田村太郎、東末真紀、中島克元、野崎隆一、野崎瑠美、松原永季、松本誠、三谷真、村上忠孝、室崎益輝、森栗茂一、山口一史、山田和生 ほか)

日中友好・復興クルーズ2004(実行委員会団体として実施)

ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画会議への協力

復興塾通信発行(11号、12号、13号)



第3回こうべウォーク



公開講座(日本建築士会連合会)

わたしたちの これから

神戸復興塾の特色は、多彩なネットワークを駆使して経験豊かな人材を動員できる点にある。このため、新しい課題に柔軟に取り組む能力に秀でていた。しかし、10年の歳月は、否応なしに足腰の動きの鈍さに現れる。したがって、今後の活動方針を議する前に、いかに世代交代を進めるかが課題かもしれない。

それはともかく、震災直後からの塾生の活躍は特筆すべきものがあつた。いささか世俗的ながらその活動を裏付ける実例をあげると、たとえば震災に関連した学会や新聞社などの表彰の少なくとも半数は神戸復興塾のメンバーが受賞したと思われる。またその活動は国内にとどまらず、トルコ、台湾、アメリカ、中国など海外の被災地にも及んでいる。こうして蓄積された現場の知をいかに伝達するか、

グループたまねぎ

■ 所在地 〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町1丁目
兵庫区役所 兵庫区ボランティアセンター内

■ 電 話 078-579-3304

■ F A X 078-579-3374

■ E-mail t.minoura.@03a3.mn.ne.jp

[設立年月日] 1996年2月

[会員数] 29名

[活動内容]

仮設住宅訪問・昼食会・餅つき会・日帰り旅行・住宅での清掃・大工工事・車イス介助など。その他身体障害者団体への応援、ボランティアセンターからの依頼の活動など。



グループの前身は震災直後湊川公園に設置されたたまねぎテント。当時は、兵庫区ボランティアと称していました。全国から救援に来て下さったボランティアは、1,200名。平成8年に再発足したものです。震災ボランティアですが、支援という語句は使いたくありません。“困った時はおたがいさま”それを基本方針として、全員が活動してきました。お旅仮設住宅は、地域型高齢者障害者向住宅という関係もあります。グループは解散しましたが10年を経た今でも親子のような付き合いがあり、得難い体験、何ものにも替え難いものを得られたと思っています。亡くなられた方も少なくないのですが、これからも手を取り合って生きたいと思っています。

(代表 箕浦 隆)

わたしたちの これまで

1998年 会下山・湊町・下三条・お旅仮設など訪問。茶話会・バザー
2000年 など

高齢者障害者型仮設住宅を主体に定期訪問週2回 第3土曜日は軽食会(解散するまで) 日帰り旅行・南淡町福良・比叡山・淡路花博・しあわせの村・大山寺保養所など観光バスで グループ会報年4回各1,000部 解散するまでNo.26号、A4平均12ページ 会報は救援に来てくれた各地のボランティアへお礼の意味で発送(会費は関係なく) 12月は毎年仮設でもちつき大会、約60k 他の仮設、母子寮にも分配 浜崎通に復興住宅完成 完成後毎日曜日の喫茶・夏祭りなどに応援

ボランティアセンターからの依頼を受けて大工仕事・車イス・通院介助、あらゴミ出しなど、障害者作業所等の応援。その他、グループに関する冊子出る 『ボランティアへの招待』『はたちの頃』『神戸発いのち輝く都市へ』など

2001年 仮設住宅解消に伴いグループ解散



お旅仮設住宅もちつき(1998年)



軽食会準備の人たち(お旅仮設住宅)

こころ豊かな人づくり500人委員会 神戸OB会

■ 所在地 〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3
青少年本部神戸事務局
■ 電話 078-382-8249
■ FAX 078-360-8536

[設立年月日] 1991年4月1日

[会員数] 216名

[活動内容]

2年間の研修の経験をもとに会員相互の交流や啓発を図り、青少年の健全育成を通じて、こころ豊かな美しい兵庫をめざす県民運動の推進につとめる。



兵庫県・(財)兵庫県青少年本部主催により全県下を対象に平成元年に発足したこころ豊かな人づくり500人委員会。その修了生からなる神戸ブロックのOB会員が震災10年の記念事業としてわかものを主体に発表や表現できる場をつくり、青少年や市民が共に震災からの学びを思いを伝えあうことを大事にしたい。

(代表 大滝 重俊)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名]

わかもの発！未来につなげ1.17

[実施年月日]

2005年2月13日

[実施場所]

新長田ピフレホール & 駅前ひろば

[内容]

〈記念講演〉NHKアナウンサー古屋和雄氏
〈震災から学ぶコミュニティと防災〉県立舞子高校
〈制作映画上映 愛と絆～支えてくれる人がいる～〉
映像クリエイター倶楽部
〈煙から逃げる知恵〉携帯煙フードの提供と実演
〈写真展〉あの日の神戸は…昔と今の境目
〈人の力、地の力展〉まさかの備え、あの時それから
〈和太鼓演奏〉「鎮魂と希望の太鼓」はたっこ太鼓
〈にぎわい広場〉
たき出し鍋、丹波特産品などや防災グッズなどの販売、
アトラクションやバザーetc

**わかもの発！
未来につなげ 1.17**

阪神・淡路大震災から10年を前に、青少年や市民が、震災の経験と教訓を生かし、「震災からの学び、思い」を未来につなげよう。

開催日時・場所
平成17年
2月13日
新長田 ピフレホール

ステージの部
（土曜）12:30～16:30

- 記念講演
経道かつむく未来へのメッセージ
NHKアナウンサー古屋和雄氏
（15分）開演直前
- 写真展
「震災と希望の未来」
（15分）開演直前
- 制作映画上映
「愛と絆～支えてくれる人がいる～」
映像クリエイター倶楽部
（15分）開演直前
- 和太鼓演奏
「鎮魂と希望の太鼓」
はたっこ太鼓
（15分）開演直前

野外広場の部（にぎわい広場）9:30～16:30

- たき出し鍋・バザーetc
- 防災グッズの提供と実演

観覧料 無料（A席）500円（B席）300円

お問い合わせ先
神戸市青少年本部神戸事務局
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3 TEL:078-382-8249
FAX:078-360-8536

わたしたちの これから

経験や教訓を未来につなげよう

阪神・淡路大震災から10年。これからも青少年や市民が震災の経験と教訓を生かし「震災からの学び、思い」を次代につなげるとともに、それが神戸の文化、神戸のパワーになればと願う。

コープ活動サポートセンター住吉 (旧住吉コープ福祉・ボランティアセンター)

■ 所在地 〒658-0081
神戸市東灘区田中町5-3-18
■ 電話 078-412-7850
■ FAX 078-412-9674

[設立年月日] 1995年2月24日

[会員数] 福祉分野の登録人数1023名(サークル数70)

[活動内容]

震災をきっかけに設立した住吉コープボランティアセンター(芦屋市・東灘区・灘区)が、2004年4月、現在の名称に変わりました。福祉・環境・子育て・平和・食生活など、いろいろな分野のサークルが元気に活動中です。



自らも被災した組合員がボランティアとして震災直後から活動。「心のケア」を中心に、息長く活動をつづけ、仮設→復興住宅→地域と対象を広げてきました。これからも組合員の思いを形に、活動にするための支援やネットワークづくりのお手伝いをしていきたいと思ひます。

(組織統括 大川 保・ボランティア活動担当職員 林 律子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 震災モニュメントウォーク

[実施年月日] 2005年1月17日

[実施場所] コープこうべ生活文化センター～JR芦屋駅

[内容] 生活文化センター鎮魂碑を起点に東灘から芦屋にかけて点在する震災モニュメントを巡ります。コープこうべの鎮魂式に参加する全国の生協の仲間30人と地元からの参加者をボランティア活動担当職員がガイドとして歩きます。



精道保育所のモニュメントの前で

わたしたちの これまで

- 1995年 4月14日 生活文化センター、仮設住宅友愛訪問のための学習会を実施、5サークルを結成し、活動開始
11月12日 生活文化センター「震災300日ボランティア大会」
- 1996年 7月1日 生活文化センター「友愛訪問1周年全体会」仮設訪問サークルをはじめ、ニュース作りボランティアなど震災支援関係者が集合
- 1997年 1月29日 生活文化センター「わ・わ・わコンサート～震災2周年」仮設住民やボランティアなど350人が参加し、皆の心がひとつになったコンサート 平和・和やか・仲間の輪からわ・わ・わと名づけました
- 1998年 1月28日 生活文化センター「わ・わ・わコンサート～震災3周年」
- 1999年 1月17日 生活文化センター「メモリアルデイのつどい」仮設解消を目前に、友愛訪問サークルやコープしが、さいたまコープのボランティアが集まり、これからも震災を風化させず、私達の活動の原点にすることを確認しあいました
5月11日 生活文化センター「電話お話し相手ボランティア講座」そこから復興住宅入居の高齢者に向けて毎週電話をかける話し相手の活動『さわやかコール』スタート 現在も毎週100名にかけています
- 2000年 1月29日 震災支援活動の記録「あなたをたずねて…5年～被災の中から芽生え育った～」1000部発行
4月8日 「震災モニュメントウォーク」第1回開催。JR芦屋～本山までの10ヶ所のモニュメントを巡ります
- 2004年 11月20日 生活文化センター例年開催しているボランティア大会のテーマを、「震災10年・ひろがり物語」にメインに創作劇「ボランティアひろがり物語」を上演し450名が来場しました



震災で学んだ「傾聴」の大切さ。施設で発揮。



ふれあい喫茶には毎回大勢がつどいます。

わたしたちの これから

震災から10年を経て、地域活動の大切さが実感されます。地震直後には救命や生活支援上重要だった、地図上の「地域から、そのときどきのテーマや目的、ネットワークの組み方で変化するファジーな「地域」に、活動の立地が変わってきています。

“仕事や学校”“家庭”に並ぶ自己実現や仲間づくり、また居場所としての第3のステージ「地域」がイキイキ、キラキラとして身近にあれば…。そこにコープこうべの組合員活動の親しみやすさ、敷居の低さがお役に立てるかも知れません。

「福祉」だけではなく環境・子育て・食生活・学習・平和・国際交流・芸術などいろいろな分野の活動の拠点、相談、コーディネート、情報発信の場として、「活動サポートセンター住吉」は、オープンにまたいつも楽しく運営していきたいと思ひます。

コリアボランティア協会

■ 所在地 〒544-0033
大阪市生野区勝山北3-8-31

■ 電話 06-6717-7301

■ FAX 06-6717-7302

■ URL <http://www1m.mesh.ne.jp/~korea-v/>

[設立年月日] 1994年1月30日

[会員数] 9000名

[活動内容]

「民族・国境・ハンディをこえて」を掲げ、身寄りや支援のない高齢者・障害者・困窮者の無償ケアを柱に、災害支援やボランティアの啓蒙、ネットワーク作りをすすめる。



コリアンは日本社会のマイノリティの代表なので、一般市民とともに、同じ弱い立場の人たちを支えていきたい。競争で勝ち取るのではなく、「愛」の力で、人がやさしくなる社会にしたい。“戦争の反対はボランティア”、いつでも寝泊りできるケアセンターの建設とネットワーク作りをすすめ、さらに10年、20年と震災支援を続けたい。

(代表 ^{カン} 康 ^{スボン} 秀峰)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 阪神大震災合同慰霊祭

[実施年月日] 2005年1月17日

[実施場所] 神戸市長田区大道通「フレール長田」集会所

- [内容]
- ① 主催は「長寿友の会」(長尾代表、事務所は「フレール長田」内、代表自宅)、コリアボランティア共催で10年を節目に、合同の慰霊祭を行う。
 - ② 震災の風化を防ぎ、慰霊とともに多くの犠牲をムダにしないために、人のつながりの大切さと防災を呼びかける。



いのちつないで……

わたしたちの これまで

- 1994年 「コリア文化ホール」(1992年7月設立)より発展、1月に300以上の団体・個人の賛同を得て、高齢者・障害者の無償ケアを柱に発足。「民族・国境・ハンディをこえて」を掲げる
- 1995年 震災発生と同時に支援を開始、被災全域を対象に巡回、協会フロアを被災障害者の避難所として開放、支援センターを立ち上げる 神戸市長田区を中心に各地を訪問
- 1996年 前年よりつながりのあった「長寿友の会」(神戸市長田区「西代仮設」内、長尾代表)に出張所を置き、仮設などの独居老人、障害者のケアや支援にあたる。大阪より訪問
- 1999年 仮設全廃とともに、復興住宅「フレール長田」に移転した「長寿友の会」の応援を継続、訪問ケア、食事
- 2000年 会、行事などに参加、共催する
- 2004年



神戸市長田区神楽小学校での炊き出し(1995年2月25日)



コリアボランティア協会スタッフ

わたしたちの これから

人のつながりこそが防災

震災直後より、多くの人が何の分けへだてもなく助け合う姿を目にしました。また特に、人の集まる市街地になるほど、隣の住人すら分からず、救援が遅れ犠牲となった話をよく耳にしました。

震災はいつ時に多くの命を奪ってしまいましたが、同時に、埋もれていた多くの社会的側面、特にその問題点も浮き彫りにしました。自助努力が唱われ、個人補償のないまま取り残された人たちは、被害がそのまま重荷となり、日が経つほどに復興格差が広がっています。孤独死、自殺者が後を断たないことがその事実を物語っています。

震災の風化が進めば、ますますその孤立化が深刻になってきます。当協会はこの10年を機に、今後も全国に励ましのお便りを呼びかけるとともに、震災の教訓を生かすために、さらに支援のネットワークを広げながら、被災地に通い続けたいと思っています。「困った時はお互いさま」。人のつながりこそが防災です。

在宅福祉サービス団体 わくわく神戸

■ 所在地 〒650-0015
神戸市中央区多聞通1丁目1-4-3F
■ 電話/FAX 078-382-0385

[設立年月日] 1996年1月17日

[会員数] 利用会員・協力会員199名、
賛助会員23名

[活動内容]

非営利で住民互助型の在宅福祉サービス、会員制の組織で有償のボランティア団体です。介護保険でカバーされない部分も承ります。活動内容)外出介助・通院介助・通学介助・買い物・掃除・洗濯・食事づくり・食事介助・産前産後のお手伝い・車イス介助・身辺介助・トイレ介助・庭の手入れ・朗読・代筆・話し相手・散歩・その他

今、私たちは急速に進んでいる高齢社会、少子社会の中で家族だけでは老いを支え切れない時代を実感しています。

人は誰でも歳をとり、病を得たり、やがては死を迎えます。たとえ病んでも安心して生きることのできる地域社会を自分たちの手でつくりあげたいと切に考えています。

私たちは「お仕着せでない」「施しでない」「金儲けでない」3ないをモットーにサービスを「提供する者」と「受ける者」がいつもおなじ立場でお互いに支え合い、人の心を大切にしたい社会を目指した「非営利組織の活動」を実践していきます。

(代表 神代 尚芳)

わたしたちのこれから

わくわく神戸の今まで、またこれからも、障害で、病気でこまってしまう方、様々の困難を抱える家庭へ、介護保険の枠外にても、お手伝いしていくことです。介護保険もいろいろと見直しがされ、予防医学により力を入れていく方針とか。わくわく神戸の枠外での活動の必要性も実感しております。しかし現実には、まだまだ認知度も低く、反省もしています。今後も、スタッフ、ケアワーカー(協力者)さんの質的向上と対外に対して、福祉事務所、介護支援センター等へのPRもしていくことが必要と思っています。



(財)神戸学生青年センター

■ 所在地 〒657-0064
神戸市灘区山田町3-1-1

■ 電 話 078-851-2760

■ F A X 078-821-5878

■ U R L <http://www.ksyc.jp>

[設立年月日] 1972年4月1日

[会員数] 約600名

[活動内容]

「平和・人権・環境・アジア」キーワードにセミナー等を開催し、ユースホステル・貸会議室・ホール等を運営しています。阪神大震災時の被災留学生・就学生支援活動を契機に「六甲奨学基金」を、04年度からは三木原奨学基金を運営しています。



センターは、アメリカ南長老教会および日本キリスト教団によって、1972年4月に設立された財団法人で、広く市民に開かれた「出会いの場」です。センターをとおして人と人、人とテーマ、テーマとテーマが出会えるセンターでありたいと思います。
(代表 理事長 辻 建)

わたしたちの これまで

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1995年 2月-4月 | 被災留学生・就学生支援活動、フロン回収活動、 |
| 5月 | 報告集会「阪神大震災と被災留学生・就学生」、 |
| 6月 | 日本語サロンスタート |
| 1996年 4月 | 六甲奨学基金第1期支給開始 |
| 1998年 3月-5月 | 六甲奨学基金のための第1回古本市 |
| 2002年 1月 | 兵庫県ボランティア賞受賞 |



六甲奨学基金古本市 (毎年3月15日～5月15日)

わたしたちのこれから

阪神淡路大震災以前の神戸学生青年センターは、朝鮮史セミナー、食料環境セミナー、キリスト教セミナーを3本の柱としたセミナーを中心に活動をしてきました。震災時、ユースホステルを運営しているセンターは、幸い利用可能な状況であったので、被災留学生・就学生のための避難所として開放しました。また、全国の仲間に義捐金を募って留学生・就学生のための生活一時金(一人3万円、767名、計2301万円)を支給することができました。震災を契機に留学生センターとしての活動も始まり、義捐金をもとに六甲奨学基金が1996年度よりスタートしました。2004年度からは三木原奨学基金も始まりました。センターのテーマである「平和・人権・環境」を「アジア」に視点をおいて活動を進めていきたいと思います。



「日本語サロン」のクリスマスパーティ(2004年12月4日)



1995年5月26日に神戸学生青年センターで開いた
「報告集会・阪神大震災と留学生・修学生・被災の実態、
そして救援のために、何ができ、なにができなかったか-」

(財) 神戸 Y M C A

■ 所在地 〒650-0001
神戸市中央区加納町2丁目7-15
■ 電 話 078-241-7201
■ F A X 078-241-7479
■ E-mail info@kobeymca.or.jp

[設立年月日] 1886年5月8日

[会員数] 12700名(2004年9月現在)

[活動内容] 青少年社会教育活動、野外教育活動、体育・スポーツ・健康教育活動、児童福祉活動、国際協力活動など



阪神淡路大震災では、私たち自身も大きな被害を受けながらも全国また海外のY M C Aや多くの方々の支援を与えられて、救援物資の受入れ・調査・配達の活動、子どもや高齢者のケア、市民を励ますイベントなどの活動をしました。その中心は半年及び1年後には終結しましたが、今尚、人の苦しみや哀しみを感じ、自らの生き方を変えようとするボランティアの働きは様々な分野で継続されています。「その時から新しい生き方が始まった」これがそのスローガンです。 (代表 総主事 水野 雄二)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 神戸YMCA・阪神淡路大震災追悼音楽礼拝
[実施年月日] 2005年1月19日
[実施場所] 日本キリスト教団 神戸栄光教会
[内容] 震災10周年を記念し亡くなられた方々を追悼する音楽礼拝
〈出演者〉神戸Y M C Aベルクワイア 神戸Y M C A混声合唱団「くさぶえ」 モレ弦楽四重奏団 リコーダーアンサンブル
「Ensemble "PIOVER"」
パイプオルガン



阪神淡路大震災追悼音楽礼拝(2005年1月19日)

わたしたちの これまで

1995年 救援物資・食事サービス・医療・診察・情報収集発信、子どもの

心のケア、生活ボランティアなど

1996年 1周年記念追悼礼拝

2003年 追悼の夕べ



救援物資配達ボランティア(1995年)



炊き出しサービス(長田区)(1995年)

わたしたちの これから

その時から新しい生き方が始まった

私たちの震災に関する活動は半年、あるいは1年をもってほぼ終結しました。言い換えれば、それは日常の中に吸収されていきました。まだまだ被災のダメージが癒えることはありませんが、私たちは日常の活動の中にそれを受け止めようとしてきました。災害のような悲惨な状況に心を動かされて、他者のために他者と共に生きようと身体を動かした多くの人々がありました。今までの生き方と異なる新しい生き方にチャレンジした人々の群れをYMCAは受け止めることができました。それらは活動の形としては、また日常活動に戻っていきましたが、それぞれの生き方においては大きな変容があったと信じます。神戸YMCAはこれからも様々な日常活動の中にそのような自己を変容させた多くのボランティアを内包しつつ、また心を動かされ、身体を動かす必要に迫られる事態の時、勇気をもって行動できる群れでありたいと願っています。

■ 所在地 〒650-0046 神戸市中央区港島中町
2-5-1369

サン・コーポラス住宅(FS) ■ 電話/FAX 078-302-7437

[設立年月日] 1997年 4 月

[会員数] 40名

[活動内容] 保険、医療、福祉、まちづくり、国際協力 子どもの健全育成、団体の助言



人間関係や家族を支える地域のネットワークの大切さを認識し、更なる拡大を目指す事を基本理念に活動しています。 (代表 こばやし 小林 しょうへい 正平)

わたしたちの これまで

1999年 1月17日 i ウォーク参加

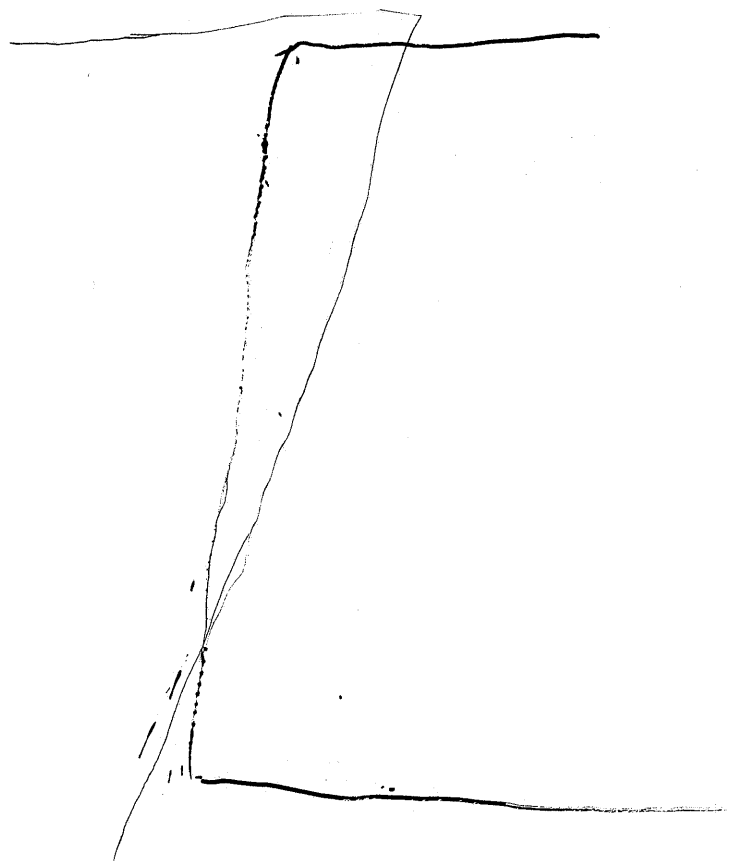
2000年

2001年 メモリアル ウォーク 県行事ボランティアとして参加

2004年



メモリアルウォーク参加の記念



社団法人 神戸青年仏教徒会 (神戸JBクラブ)

■ 所在地 〒650-0017
神戸市中央区楠町5-4-16ー102号
ワコーレ大倉山フラッツ1階

■ 電 話 078-382-2224

■ F A X 078-382-2245

■ U R L <http://homepage2.nifty.com/kobejb/>

[設立年月日] 1973年

[会員数] 70名

[活動内容] 青年の心をもったブuddiズムの活動団体。僧俗一体の仏教ボランティア団体。

世代を超えた教化活動、健全な福祉活動、楽しいボランティアを实践するための会員交流。

「世代を担う青少年の教化とリーダーシップの育成」の実現ー『創立10周年記念誌』よりー

(代表 高橋 恵信)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] ①阪神・淡路大震災10年遠夜法要
②阪神・淡路大震災10年慰霊行脚
- [実施年月日] ①2005年1月16日18:00
②2005年1月17日5:30
- [実施場所] ①神戸青年仏教徒会事務所
②JR鷹取駅集合
長田区周辺行脚後、兵庫区福厳寺にて法要
- [内容] 長田区兵庫区周辺を種々の宗派の僧侶が
それぞれのお経を唱えながら慰霊して歩く

わたしたちの これまで

1974年 毎年設立より8月15日に湊川公園にてお盆の「精霊送り」を行なっています

1995年 5月27日 避難所兵庫中学での「たそがれコンサート」

6月 例会「ながた支援ネットワーク」の活動研究会

7月 簡易仏壇無料配布

7月24・25日 サマーキャンプ 被災した子ども87名を無料招待

12月9日 約200名のチャリティゴルフコンペ 収益金を「あしなが育英会」に

1996年 1月17日 「阪神・淡路大震災一周忌全国仏教徒慰霊行脚、神戸結集」神戸市内を7コースに分け、全国からの青年僧、大学生、一般信者の方々、約100名ずつ一斉に行脚。朝、5時46分寺院の鐘とともに被災地を讀経、回向しつつ歩く。午前11時兵庫区真光寺境内にて集結。合同法要を営む

1997年 1月17日 大震災三回忌法要 「灯りをともしませんか！震災で亡くなられた方々のために」と音楽追悼と献灯式(ローソクの点灯)仏教、キリスト教、神道の宗教者やNGOボランティアグループも含め、参加者全員による約6,000本のローソク点灯(兵庫区真光寺)

1998年 1月17日 大震災3年追悼法要(湊川公園)

各宗派30分ずつの法要と「震災を生きる宗教者のつどい」のメッセージ読みあげ、採択

1999年 1月17日 大震災4年追悼法要(湊川公園)

各宗派30分ずつの法要と金峯山修験宗青年僧による護摩法要

2000年 1月17日 大震災5年追悼法要(湊川公園)

各宗派30分ずつの法要と金峯山修験宗青年僧による護摩法要

2001年 1月17日 大震災7回忌年追悼法要(中道公園)

各宗派30分ずつの法要と金峯山修験宗青年僧による護摩法要

2002年 1月16日 大震災7年逮夜法要

1月17日 午前5時半より慰霊行脚(長田区・兵庫区)

2003年 1月16日 大震災8年逮夜法要

1月17日 午前5時半より慰霊行脚(長田区・兵庫区)

2004年 1月16日 大震災9年逮夜法要

1月17日 午前5時半より慰霊行脚(長田区・兵庫区)



三回忌法要。約7,000本のローソクの献灯



阪神・淡路大震災物故者一周忌慰霊行脚

J B ≥ J 一次世代への継承ー

30周年記念事業「神戸 J B ≥ J クラブ」発足。

私たちは10年まえ、20周年の記念構想として、これからの J B の教化活動の中で、次代を担う子どもたちが学べる「J B スクール」の開設を志しました。このスクールは勉学・スポーツ・一般常識・礼儀作法・遊びなどを通して、子どもたち自身に、よりバランスのとれた正しい価値観を構築してもらう事を目的としていました。

今回創立30周年を迎えるにあたり、発足する「J B ≥ J」はまさしくその構築の具現化であります。この会は「子ども研修会」の中で出会った子どもたちや、将来の J B を担ってくれる青少年に幅広く呼びかけ組織します。そしてその青少年が J B クラブの事業への参加や独自の活動を通して社会に貢献し、やがては地域のリーダーとして、すばらしい地球市民として生き生きと活動していけるようになる。これこそが J B J の発足理由なのです。（「神戸 J B J ≥ J クラブ」発足趣旨より）



週末ボランティア

- 所在地 〒654-0142
神戸市須磨区友が丘7-154 東條気付
- 電話/FAX 078-795-6499
- URL <http://www.weekend-kobe.jp/>

[設立年月日] 1995年1月28日

[会員数] 約1500名

[活動内容]

1. 避難所では炊出し
2. 仮設住宅、復興住宅ではお話し伺いの訪問と季節に応じたイベントなど
3. 特定住宅での移送サービスも

ボランティアの本質的な役割は被災者の中に人間的尊厳を見出すことだ、との指針に従って、一人一人の方を大切に正面から対話することで、ボランティアの側も新しい人間観を得られるよう、はじめのレクチャー、終りのミーティングを重視した。

心から被災された方に、人間としての真心をこめて接し続けることで、この大災害の犠牲者の方に報いることができると思い続けた。

(代表 東條 健司)



阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 週末ボランティア10年目の集い
- [実施年月日] 2005年1月16日
- [実施場所] 神戸市勤労会館特別会議室
- [内容] 10年間のお伺いしたお話しを記したプリントを読みながら、大震災を振り返り、これからの事を考える。



古い方、新しい方も来られ、10年目を語り合った。

わたしたちの これまで

- 1995年 1月28日 初めて組織的な炊き出しを行なった
5月31日 最後の避難所炊き出し
6月 仮設の訪問開始(須磨区)
10月 仮設住宅の訪問、西区へ移る
12月 国際防災フォーラムに参加(ポートアイランド)
- 1996年 1月 はじめての正月行事、甘酒配りと音楽行事
12月 国際防災フォーラムに参加(ポートアイランド)
- 1999年 1月17日 1・17学んだ4年、追悼討論集会
『ボランティア手帳(1.17学んだ4年)』を発行
- 2000年 8月～2004年1月 ベルデ名谷住宅へ坂道移送者
「ちょっとカー」を週5回各3時間走らす 移送者数1万数千名
- 2004年 1月10日 被災者宅にて追悼討論会
「この街は生きていてよかったといえる街になったか」
6月10日 第39回総会にて「被災者高齢者見守りオンブズマン」の役割を果たす事を決定
- 2005年 1月8日 第383回訪問活動(HAT神戸協の浜住宅)
これまで延15,000名で各30,000戸の訪問と概算した



仮設住宅の訪問に向かうメンバー達



復興住宅へのイベントも幾度となく

わたしたちの これから

10分の2世紀を目指して

10年と言えば10分の1世紀となる。週末ボランティアの10周年記念小冊子に寄稿された 被災者にして週末ボランティアのメンバーの女性は、震災の後遺症で夫君をなくされた口惜しさをこう表現された。「10分の2世紀をこの1月18日から始めよう!」と。

震災の年からもうボランティアはいらない、いつまでやっているのだ、と言われ続けた。しかし、今ではそう言われない。なぜ続けるのだ、なぜ続けてゆけるのだ、と問われる。

そこに被災の心と言葉があれば、ボランティアは常に耳と心を傾けにそこに行くだろう。新潟でスマトラで新しい目をおおうばかりの災害が起こればいっそう、この阪神・淡路の大震災が問われるだろう。ホンの少しの事前情報があれば防げたものを。ありうる事と知らされていれば減災が可能であったろう事を。新しい災害報の度に想い出し指摘したい。もって10分の2世紀の新しい追悼の日々が始まるのだ。

この1月17日もまたそういう日なのだ。

震災復興長田の会

■ 所在地 〒653-0036
神戸市長田区腕塚町2丁目2-10
神戸医療生活協同組合内

■ 電 話 078-641-1651

■ F A X 078-641-1654

[設立年月日] 1996年1月20日

[会員数] 団体15団体 個人105人

[活動内容] 被災地長田から、ひと、町、くらしの復興を求める運動



震災復興長田の会は、結成以来、「人・町・くらし」、「人間復興」を掲げて運動を続けてきました。しかし、新潟県中越地震はじめ、スマトラ島沖巨大地震・大津波など、地球規模での大自然災害が想定される今、長田の町の真の復興—生活・住宅・営業の再開—へ、国や自治体の更なる公的支援制度の拡充を求める運動とともに、防災対策の強化を求める運動が重要になってきます。

長田の町が大きく変わっていています。全国から寄せられた支援に応え、被災地長田の声を全国に発信しつづけること、私たちの思いや体験が、今後の災害の対策に生かされるように微力ながら運動を続けていきます。

(代表者 上田 耕蔵)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] ①10周年メモリアル 1・17長田ウォーク
②記録集『あれから10年 ひと・街・くらし』発行
- [実施年月日] 2005年1月17日
- [実施場所] 長田区内
- [内容] ①全国各地から150人が参加して長田区南部から中部にかけて、再開発地域、区画整理地域など3コースにわかれて、犠牲者を偲びながら、復興の現状を歩いて、見て、語り合いました。
②長田に住む人、働く人、関わってきた人など67人から手記を寄せていただき、記録集としてまとめました。



2005.01.17
新長田勤労市民センターに集合、出発前にビデオで現状の事前学習も

わたしたちの これまで

1996年 震災から1年目に結成(1月20日)

1996年 2月～8月 ●長田区に低家賃の災害公営住宅の大量建設を求める署名運動(自治会、老人会はじめ広範な方々と)

1996年 11月～12月 ●長田から永田町への自転車キャラバン(公的支援の拡充を求め、各地と交流しながら10日間かけて)

1997年 ●自転車キャラバン報告集会 ●長田のまちづくりを考える集会

1998年 ●3周年メモリアル集会、バザーとつどい、ウォークに取り組む ●まちづくり学習会 ●県、市へ要請行動

1999年 ●長田メモリアルウォーク ●復興基金学習会 県、市へ要請行動

2000年 ●長田メモリアルウォーク ●文集『あれから5年、今思うこと』発行

2001年 ●長田メモリアルウォーク ●県、市への要請行動

2002年 ●長田メモリアルウォーク ●公的支援見直しへ要請行動

2003年 ●長田メモリアルウォーク ●復興住宅入居者実態調査

2004年 ●長田メモリアルウォーク ●公的支援、政府への要請行動



長田から永田町へ自転車で10日かけての要請行動



毎年1月17日は長田区内を歩いて復興検証も

わたしたちの これから

人間復興めざして

長田区では、地震とそれによる火災で多くの犠牲者が出ました。日本列島に、世界各地次々と大自然災害が起こり、被災状況を目のあたりにして胸の痛む日々です。

あれから10年、震災経験が温度差はあるものの風化しようとしています。私たちは、長田区で体験したことを発信し続けています。しかし、住民らの苦勞と努力にくらべ「ひとり、まち、暮らし」の再建は厳しく、人間復興への道はまだまだ遠いようです。

春先になればイカナゴの釘煮が被災地長田から全国に届けられます。形はバラバラですが、おいしくて日持ちもして喜ばれる釘煮です。どんなことがあっても立ち上がってきた粘り強い長田の人々の生きざまにも似ています。長田に残れた人も、離れざるを得なかった人も、阪神、淡路大震災に負けることなく希望を持って暮らせるよう、「人間復興」を高くかかげて運動を続けていきます。

震災・まちのアーカイブ

■ 所在地 〒653-0022

神戸市長田区東尻池町1-11-4 神港金属(株)内

■ 電 話 078-681-6231

■ F A X 078-681-6232

■ E-mail archives_kobe@nifty.com

[設立年月日] 1998年3月14日

[会員数] 13名

[活動内容] 震災の記憶と記録を後世に伝える

「震災・活動記録室」の震災資料を引きついで発足した民間のグループです。メンバーは学生や勤め人から主婦まで年令もさまざまです。

会則もなく、週1回の活動日に事務所に集った人が、それぞれの得意分野で力を出して、資料整理、ミニコミ発行、研究会などの活動を続けています。
(代表 季村^{きむら} 範江^{のりえ})

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] someday,for somebody
いつかの、だれかに阪神大震災・記憶の＜分有＞のための
ミュージアム構想1展 2005冬 神戸
- [実施年月日] 2005年1月14日～1月23日
- [実施場所] CAP HOUSE
- [内容] 「棚へー＜未来＞の配達のためにー」
「震災・まちのアーカイブ」保存の震災一次資料の展示

わたしたちの これまで

- 1998年 3月「震災・活動記録室」の収集した資料を引きつぎ、「震災・まちのアーカイブ」設立 5月なまずブックレット『エチカ・震災精神史への試み―家族の崩壊・国家の崩壊』発行
- 1999年 1月鷹取中学校避難所、資料、現地整理開始 12月NHKテレビ「発信基地」でアーカイブの活動が放映される
- 2000年 1月読書会「『百合』を読む会」開催 2月佐々木幹郎氏講演会「資料のぬくもり―中原中也全集編集から見えてきたもの―」開催 7月「阪神・淡路大震災メモリアルセンター展示計画に関する公開提言」を兵庫県に提出 8月アーカイブ叢書『百合との往還』『震災と言葉』発行
- 2001年 7月フォーラム「阪神・淡路大震災をどう伝えるか―メモリアルセンターの問題を考える―」史料ネット主催・アーカイブ後援で開催 10月アーカイブホームページ開設
- 2002年 2月なまずブックレット『風景・記憶・建築』発行 8月「中央区ボランティア」一次資料の詳細目録作成開始 10月読書会岡真理著『記憶／物語』開催
- 2003年 7月国立歴史民俗博物館での「歴史・災害・人間」展見学 10月「アーカイブ前史」発行あわせて「中央区ボランティア資料」目録のCD-ROM化
- 2004年 9月和歌山県清水町合宿 12月震災一次資料をCD-ROM化



鷹取中学校にてNHK収録風景



「『百合』を読む会」読書会

わたしたちの これから

震災10年目をむかえて、7年間のアーカイブの活動の集大成ともいえる震災一次資料の展示を行う事が出来ました。活動でのさまざまな出会いが、次なる活動を生み、それが又新たな出会いを生み、やがて今回の展示へつながりました。

さらに展示のための資料整理がきっかけで、一次資料とミニコミのCD-ROM化が実現しました。資料の保存・公開にCDなどのデジタル化が有効であるという事は、発足当時には考えつきませんでした。

展示をやりとげた後、何が見えてくるのか、アーカイブにどのような転機がおとづれるのか楽しみにしています。

震災を生きる宗教者のつどい (わるがきの会)

■ 所在地 〒652-1175
神戸市兵庫区兵庫町2-1-38 済麟寺内
■ 電話 078-671-1175
■ FAX 078-651-4995

[設立年月日] 1997年

[設立呼びかけ人] 明石 和成 (浄土宗済麟寺 住職)
神田 裕 (カトリック鷹取教会 神父)
故草地 賢一 (日本キリスト教団神戸東部教会 協力牧師)
澤田 政泰 (弓弦羽神社 宮司)
別所 敬介 (湯泉神社 宮司)
矢坂 誠徳 (臨済宗瑞龍寺 住職)



故草地 賢一氏

「草地賢一と私」

震災約3ヶ月後、「関西アークス」という仏教ボランティア団体の代表をしておられた、大阪應典院秋田光彦氏から、「ぜひ会って欲しい人がいる」との依頼があった。私は当時、社団法人「神戸青年仏教徒会」という、僧侶、出家者だけではなく在家者も含めた仏教ボランティアの理事長をしていた。2月27日に新開地聚楽館跡地に大きなテントを張り、兵庫区仏教会主催の慰霊法要を手伝ったり、震災後手探りの状態での活動下にいた。

その人の名は、草地賢一。早速その当時「仮設住宅支援連絡会」の事務局になっていた「毎日新聞神戸支局」に出向いた。にこやかに握手をして出迎えていただいたその眼は真剣であった。彼は、12月に開催される『市民とNGOの「防災」国際フォーラム』の準備をすすめていた。

「実は私は、キリスト教牧師であり、このフォーラムに是非仏教者の力が欲しい」との要請であった。すぐさま私の脳裏には、神戸市仏教連合会を継いでいくことを思いうかべたと同時に、このフォーラムの巻頭にある「市民」という文字に共感した。少しずつ会を重ねるたびに私は、彼の考え方に引かれていき、まるで兄貴のような存在となっていく。「市民」という大きな土壌に根ざした活動は、檀家制度の温存ということもあり、私たち仏教者には少なかった。「オーバースタンド」ではなく、「アンダースタンド」に自らを置いてみる絶好の機会を、彼は私に与えてくれたのである。2000年1月2日突然の昇天。私たちの課題は山積みである。今だに災害があるたびに、「兄貴だったらこんな時、どう処理しているだろうか？」と思う。

以下は、草地賢一が代表を務めた「わるがきの会」の動きを、私たちが支援している「被災地NGO協働センター」がまとめたものである。「いのり追悼と新生—宗教者による神戸メッセージ」とともに提示しておく。

(浄土宗済麟寺住職 明石 和成)

設立の経緯

阪神淡路大震災から2年目を迎えようとする1996年の初冬、震災救援活動を通じて出会った宗教者(キリスト者・仏教者)の間にこの震災において宗教(者)の責任や役割について考える必要があるのではないかという認識が共有されていた。

1997年1月17日第2回『市民とNGOの「防災」フォーラム』を開催した時、フォーラムの組織委員会のメンバーである神戸市仏教連合会と協議し、連合会主催の追悼会終了後、“灯りをともしませんか”と題して仏教、キリスト教、神道の宗教者が、それぞれの服装で一般市民と共にローソクを持ち、多くの人々から寄贈された約6,000本のローソクに共同で点火した。この準備の話し合いを通じて継続的に震災における宗教(者)の責任や役割について考える場を持つ気運が具体化した。

1997年の晩冬、浄土宗済麟寺において第1回の会合が持たれ、以後、カトリック鷹取教会、臨済宗瑞龍寺、弓弦羽神社、有馬温泉神社などを会場に月1回のペースで開催した。当初は互いに知り合うことを心がけ、食事を共にし、かつさまざまな話題を自由に出し話し合った。この会は、メンバーが所属する宗教教団にとらわれず自由に語り合うこと、他の宗教を批判するのではなく、むしろそれらを理解することを主眼にして進められた。会の名称は所属教団にとらわれず、しかもそれを相対化する意味も込めて“わるがきの会”とした。

共同作業

集まりを始めて約半年後、震災4年目になる98年1月の記念日にむけてこの集いから何らかのメッセージを発信することを決定し、準備に取り掛かることにした。約4ヵ月をかけて震災後の被災地の状況と犠牲者の追悼、鎮魂、新生などについて話し合っていた。そこから「いのり 追悼と新生」というメッセージをまとめ被災地にある宗教法人約1,600団体に賛同を求めて連絡を取った。この時点(97年秋)で会の正式名称を「震災を生きる宗教者のつどい」とした。

98年初頭、約1割160の団体個人から賛同を得て1月17日神戸市湊川公園においてそれぞれの宗教の服装をした宗教者と一般の市民約200人が集い、このメッセージを採択した。なお、この集会は第3回『市民とNGOの「防災」国際フォーラム』と関連して実施された。

98年8月頃からメッセージの中で触れている被災地における宗教者の行動計画について協議を重ね、具体的な実践としてこの約4年間、主として被災地のNGOが取り組んできた国内外の緊急救援活動への支援協力をするということが各自が確認しあった。

今後の活動

これからも例会を地道に続け、メンバー間の相互理解を促進する。会として積極的に世論づくりを進めるというような形ではなく、宗教者として自らを省み各自が生き動いている現場で、その相互理解の促進を通じて得られたものを活用していく。とはいえ、例会の中で必要と考えた事柄があればその時々に応じて共同で取り組んでいく。



—宗教者による神戸メッセージ—

突然襲った阪神・淡路大震災は、私たちに未曾有の被害と絶望をもたらしました。犠牲になられた方々への無念は尽きることがありません。それと同時に、残された私たちの日常も苦渋に満ちたものでした。生きることの苦しさをいやというほど味わいました。しかし私たちは、それにもめげず微かな希望に支えられて、これまで生きてきました。その希望の源になったものは何か。それは自分の隣にいる人々との出会いそのものでした。

私たちは、不思議な体験をしました。なす術が分からない、そんな中にもお互い助け合うことができました。優しく声をかけることもできました。そこには普段、人と人とを隔てている壁のようなものは無くなっていました。隣との壁、国籍の壁、そして宗教の壁です。お互いが助け合うという自然にできた優しさが、そんな壁をも打ち壊したのです。そこには生きるために国籍や宗教の別は必要ありませんでした。生きていることそのものがすべてでした。

しかし、それは束の間の出来事でした。時がたつにしたがって街は少しずつ復興し、それと同時に人と人とを隔てている壁も戻ってきました。家族を越え、地域を越え、国籍を越え、そして宗教を越えて声を掛け合うことが難しくなってきました。つまり普段に少しずつ戻ってきたのです。

私たちすべての願いは地震から早く立ち直り、まちが復興することです。しかし今、復興という言葉にだんだんと取り残されてゆく人々がいます。私たちは決してそんな仲間たちのことを忘れてはなりません。最後の一人が震災から立ち直りまで地震は終わらないからです。

私たちは宗教者として、今一度この3年をふりかえり心を合わせたいと思います。自分が責任を持つ教団の利益や信徒への奉仕にのみ留まっていなかったか、そして世に開かれた宗教の働きを自らの生き方として担い得たかを問い直すことから始めなければなりません。そこからひとりひとりが壁を取り払い優しく声をかけ合い、わかち合えるひとづくり、まちづくりを目指してその働き(教化や布教、宣教)を担ってゆかねばならないと、こころざします。さらにまちが復興し単に普段に戻ることを願うのではなく、地震の中で体験した不思議な出来事に希望をおき、新しい世を創ってゆくことを願いそしているのりです。それが宗教者としての共通の使命と考え、そのことが犠牲になられた方々への追悼となり残された人々の新生となると固く信じるからです。

市民の皆さん、宗教を持つことは、一人一人の生き方が分けへだてられるのではなく、宗教の壁を越えて、つながり愛を分かち合うことなのです。自由な選択の中で人がよりよく生きる道を探す希望の宝箱を持つことなのです。また宗教者は、その事を教えるだけの教師ではなく、共に考え共に歩む人生の仲間です。もし宗教をもつことが一人一人のこころを狭くしたり、他を排斥したり権力や名誉に走るようなものであるならば、残念なことです。もしそうなら、それはそれぞれの宗教に携わっている私たち宗教者が宗教による壁の中で、それぞれのしきたり等に心を奪われているところに問題があるようです。それを本来の宗教として私たちは理解したくありません。被災地にあって復興を創ろうとする、すべての人々と共に震災を生きる者として、私たちも一つになりたいと願います。

自身に負けないで、勇気をもって新しい世を一緒につくってゆきませんか。

1998年1月17日

震災を生きる宗教者有志



真宗大谷派 照明寺

■ 所在地 〒658-0044

神戸市東灘区御影塚町2-5-1

■ 電話 078-821-0617

追悼法要・追悼の碑建立と震災遺児を励ますチャリティーコンサート



平成7年1月17日早朝、地鳴りと上下の揺れによって、6400名余りの尊い生命が奪われ、父を失い、母を失い、子を失い、親族を失いそして友を失った訳です。家は壊れ、財産を無くし、職場を失い、交通機関は不通となり、ライフラインもストップし、人々は、唯々途方にくれました。

浄土真宗の御開山・親鸞聖人は

煩惱具足の凡夫・火宅無常の世界は

よろずのこと、みなもって そらごと

たわごと まことあることなきに

ただ念佛のみぞまことにて在します。(歎異抄より)

とおっしゃっています。私はこの時ほどこの言葉を強く味わい、そして無常感を覚えたことはありません。

震災6年目の秋、2000年11月3日、阪神・淡路大震災犠牲者7回忌お待ち受け追悼法要を照明寺門信徒並びに地域社会の皆様と共に本堂でおつとめ致し、続いて、犠牲者の追悼の意をも含み、震災の記憶を風化させず形として残そうと思い、境内に「無常」の文字を刻み込んだ碑を建立し、碑の裏面に

追悼の記

平成7年1月17日早朝

阪神・淡路大震災は一瞬にして

親子 親族 知友らの

尊い生命 あまた

奪い去りました

人の命はかなきことは

夢まぼろしの如し

ここを以て 阿弥陀如来は

苦悩の衆生を哀れみて

南無阿弥陀佛の名号を

あたえて

われらを救いたもう

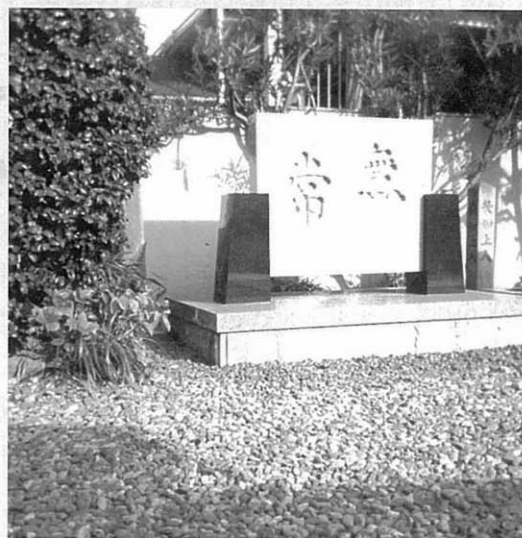
合掌

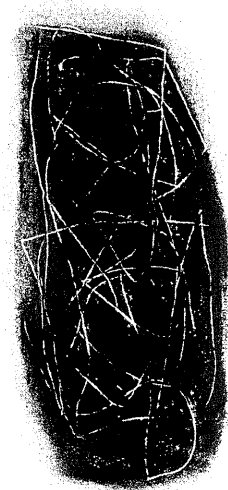
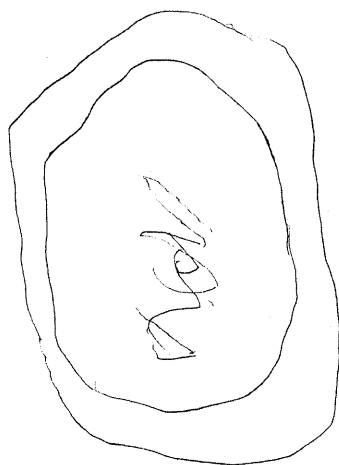
と記し除幕致しました。

また、当日 照明寺・元東明幼稚園(当寺経営)の有縁者有志と共に 震災遺児を励ますため龍谷大学合唱団を招いて チャリティーコンサートを開き、その収益金全額を東灘区の震災遺児・孤児のケア施設「レインボーハウス」に寄付させていただきました。

次回の企画は 佛式にのっとり 13回忌の年に「追悼の集い」を何らかの形で行いたいと存じます。

(真宗大谷派 照明寺住職 岡野 壽)





生活協同組合コープこうべ

■ 所在地 〒658-8555
神戸市東灘区住吉東町2-3-28

■ 電 話 078-856-1310(総合ネットワーク推進室)

■ F A X 078-856-1112(総合ネットワーク推進室)

■ U R L <http://www.kobe.coop.or.jp/>

[設立年月日] 1921年

[会員数] 1,231,240名(2004年12月現在)

[活動内容]

社会運動家賀川豊彦の提唱で1921年に「灘購買組合」と「神戸購買組合」が誕生しました。この組織の推進に大きな役割を果たしたのが、1924年発足の家庭会。自らの手でくらしと健康を守る生協の精神で、組合員の生活文化を高める活動は、現在に引き継がれ、より良いくらしを見きわめる確かな目を育て続けています。また、地域全体を視野に入れた相互扶助の精神による福祉活動も、早くから取り組まれていました。阪神・淡路大震災を契機として、より幅の広いボランティア活動に発展しています。

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

NO	行事名	実施年月日	実施場所	内容
1	ボランティア大会 震災10年ひろがり物語	2004年 11月20日	コープこうべ 生活文化センター	・ボランティア広がり物語の上演 ・グループディスカッション「ボランティアを10倍楽しくする方法」
2	震災10周年メモリアル展 「鎮魂と再生のために」	2004年 12月22日 ↓ 2005年 1月24日	コープこうべ 生活文化センター	・長尾和氏の震災直後の様子を伝えるスケッチ展 ・吉岡成朗氏の震災前の東灘風景の絵画も展示
3	震災10年フォーラム ～こうべからのメッセージ・市民福祉社会の形式をめざして～	2005年 1月16日	クリスタルホール (神戸クリスタルタワー)	・神戸市社協の今井鎮雄理事長とコープこうべの野尻武敏理事長による対談 ・コーディネーターは古山桂子氏(元神戸新聞論説委員)
4	ボランティアフェスタ 輝く未来に踏み出す一歩	2005年 1月16日	コープカルチャー宝塚	・朗読劇 ・宝塚市防災防犯課による学習会 ・バザー、教えあい、活動発表など
5	ボランティア大会2005 あの日を忘れない1・17 "つなげよう街・人・心 ひろげようボランティアの輪"	2005年 1月16日	コープカルチャー塚口	・震災体験談発表 ・震災当時の炊出しメニュー ・ボランティア体験コーナーなど
6	コープこうべ 全店舗での黙祷	2005年 1月17日	コープこうべ 全店舗155店	・正午に10秒間、来店組合員と職員で黙祷
7	震災モニュメントウォーク	2005年 1月17日	東灘区から芦屋市	・コープこうべ鎮魂式に参加の全国の生協仲間と、東灘から芦屋にかけて歩きました
8	あの日を忘れない1・17 "笑顔をあしたへ"	2005年 1月22日	コープデイズ神戸北町 セントラルコート	・震災当時の写真パネル展 ・95生まれの子どもたち写真展 ・炊出し再現一豚汁など
9	震災10年 みんなにありがとう 一緒にボランティア	2005年 1月23日	コープカルチャー西宮	・NPOブレンヒューマニティ理事長能島裕介氏の講演 ・映像によるふりかえり ・手作り品バザー、写真展など
10	防災フェア ～山崎断層は今～	2005年 1月23日	コープカルチャー姫路	・防災アドバイザー山下順正氏の講演 ・姫路市の防災対策学習 ・救援措置演習コーナー ・震災語り部コーナーなど

NO	行事名	実施年月日	実施場所	内容
11	震災メモリアルコンサート あなたの心に響く歌	2005年 1月23日	コープこうべ 生活文化センター	・西垣俊朗(テノール)、西垣千賀子(ソプラノ)、 佐田めぐみ(ピアノ) ・21世紀に伝えたい名曲…懐かしい歌、 癒しの歌、元気の出る歌など
12	震災10周年の集い	2005年 1月30日	コープカルチャー明石	・地域防災フロンティア研究センターの 牧紀男氏の講演会 ・白井真先生によるお話と歌 ・防災用品の展示、写真展など
13	震災10周年あの日を忘れない ボランティア交流会	2005年 2月23日	健康ライフプラザ	・10年間でしてきたこと ・これからすること ・写真展など
14	鎮魂と未来に向けての コンサート 復活	2005年 3月20日	神戸文化ホール	・10代～80代の110名からなるコープこうべ復活 合唱団と、神戸市民交響楽団によるコンサート



ボランティアフェスタ朗読劇(コープカルチャー宝塚)



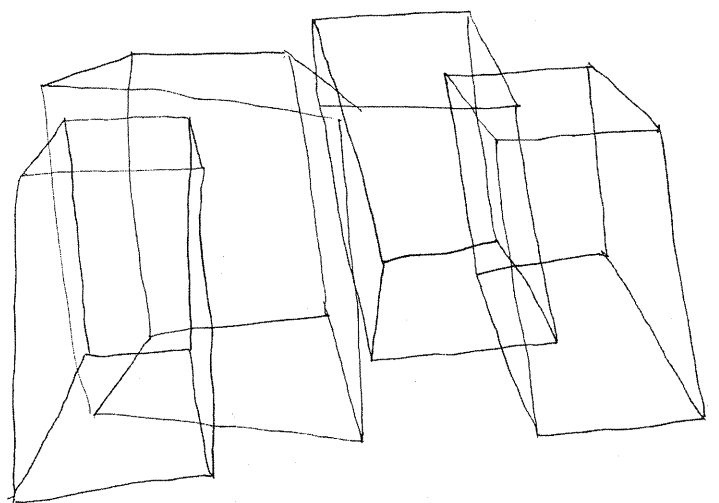
防災フェアの防災グッズコーナーで(コープカルチャー姫路)

わたしたちの これまで

- 1995年 ●1月 ボランティア支援窓口を設置。 ●2月 ボランティア本部の設置 宝塚、塚口、西宮、住吉、神戸北、兵庫、明石、姫路の8つのコープボランティアセンターが順次活動開始。 ●11月 全コープボランティアセンターでボランティア300日大会
- 1996年 ●2月 コープともしびボランティア振興財団設立。 ●9月 「地震災害等に対する国民的保障制度の確立」を求める署名活動 356万人分(全国で2500万人)
- 1997年 ●5月 「被災者生活再建支援法」成立 上記の署名に寄せられた組合員の願いに、具体的な第1歩が踏み出される
- 1998年 ●1月 コープ福祉・ボランティアセンターに改称 全国生協ボランティア活動交流集会を神戸で開催
- 1999年 ●1月 コープこうべ災害緊急支援基金を設置 兵庫県社協、神戸市社協、コープこうべの3者で、市民福祉社会への協働憲章を調印。
- 2000年 ●1月 震災5周年パネルディスカッション「助け合い、支え合うまちづくりに向けて」神戸市勤労会館にて開催 ●5月 神戸YMCA、NGO協働センターと海外支援活動についての情報交換会
- 2001年 ●1月 宅老所・グループホーム・グループハウス交流フォーラム
- 2002年 ●3月 (財)日本ユニセフ協会兵庫県支部を設立。 ●11月 コープ子育て支援フェスタ
- 2003年 ●5月 コープくらしの助け合いの会20周年記念総会
- 2004年 ●4月 コープ活動サポートセンターに改称 コープこうべと神戸市、地域の3者の連携で、「地域保育ルームあいあい」を本格オープン

わたしたちの これから

震災後のコープこうべのボランティア活動は、エリア内8か所に開設されたボランティアセンターを中心に広がってきました。04年からは、同センターを、福祉・ボランティア活動や子育て支援、環境、食生活、学習活動など、組合員の暮らしを総合的に支援する機能に再編。名称も「コープ活動サポートセンター」に変更し、ここを拠点として、さまざまな地域の組合員の活動をサポートしていくことになりました。これによって各地区で行われてきた震災に関わる行事も、活動サポートセンターによって受け継がれていくことになります。また04年に起こった台風23号や新潟県中越地震は、コープこうべの組合員にとっても、改めて10年前に受けた暖かい支援、ボランティア活動の原点を思い起こすことになりました。行政や社協、さまざまな団体やグループとのネットワークを大切に、地域に根ざした活動を今後も広げていきたいと考えています。



太鼓衆団「輪田鼓」

■ 所在地 〒652-0882
神戸市兵庫区芦原通2丁目1-23

■ 電話 078-685-3535

■ FAX 078-685-3536

■ E-mail center-choir@kamobawa.seikyou.ne.jp

[設立年月日] 1989年4月1日

[レギュラーメンバー] 8名

[門下教室生] 250名

[活動内容]

神戸市役所センター合唱団の民謡部を母体として、89年に産声を上げた。メンバーは、全員合唱団員。合唱団は日本の伝統文化を継承したいとの思いから、設立当初から和太鼓と民舞に取り組んできた。

94年、96年にはニュージーランド公演を成功させ、96年から毎年独自公演を開催。98年には神戸酒心館で年4回の酒蔵公演「四季の風音」を成功させる。02年6月には初のバリ島公演を行い、アートフェスティバルに出演の他、ガムランやジェゴグの民族グループとの共演を成功させ、好評を博す。

04年、NHK紅白歌合戦では、民謡歌手伊藤多喜雄さんの舞台に南中ソーランで、輪田鼓他5名が舞台出演した。

現在、兵庫区芦原通にできたこうべ輪太鼓センター会館で25教室250名が太鼓や民舞を学んでいる。

太鼓や民舞を通じて人材育成の一方、市内外の様々なイベント、学校公演などにも出演している。また、04年8月には第3次ニュージーランド公演を成功させた。

合唱団の定期演奏会はもとより、学校公演をはじめ、様々なイベントからの出演要請で年間70回近い太鼓・民舞での出演をしており、好評を得ている。太鼓衆団「輪田鼓」主催の和太鼓・民舞の公演も今年で10回目を迎える。

太鼓衆団「輪田鼓」は、震災翌年から毎年1月17日の午後5時46分に全国一斉に太鼓を打ち鳴らす「鎮魂と希望の太鼓」運動を神戸から発信し続けてきました。太鼓衆団「輪田鼓」はJR三ノ宮駅南で太鼓を叩き、聴いてくださる方々に勇気と希望を与えてきました。

今後
も犠牲となられた方に心より追悼の意をあらわすとともに、尊い犠牲を無にしないことを胸に刻み、人と街の復興への誓いをあらたにしたいと思います。

(代表 田中 嘉治)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 鎮魂と希望の太鼓
[実施年月日] 2005年1月17日(月) 17:46～
[実施場所] JR三ノ宮駅南
[内容] 「六甲風神」
「花がたみ」
「南中ソーラン」
「大楠公出陣太鼓」
「長良清流上り打ち」



「鎮魂と希望の太鼓」を打ち鳴らす

わたしたちの これまで

- 1995年 2月～ 震災後県下30ヶ所で避難所コンサート
- 1996年 1月「鎮魂と希望の太鼓」第1回 以後毎年1月17日午後5時46分に行っている
2月 合唱団とともに阪神大震災メモリアルコンサートを開催 以後毎年開催してきている
4月 こうべ輪太鼓センター太鼓道場開設
8月 ニュージーランド公演・日本祭に出演
11月 輪田鼓第1回コンサート その後、毎年輪田鼓公演を開催
- 1997年 4月～7月 阪神淡路縦断人間復興コンサートを行う 内容は太鼓と神戸市役所センター合唱団の制作した『阪神大震災鎮魂組曲1995年1月17日』をいれながら、被災地11ヶ所で実行委員会を組んで行った
- 1998年 神戸酒心館で、年4回酒蔵公演
- 1999年 1月「鎮魂と希望の太鼓 グローバルコンサート」を兵庫県立文化体育館で開催
- 2000年 3月 震災組曲東京公演のなかで太鼓をたたく
8月 伊藤多喜雄コンサートに取り組み、120人で南中ソーランを踊った
12月 阪神大震災鎮魂組曲演奏60回記念演奏会にて林英哲を迎えて、「歌びとのための序曲」を太鼓と合唱で演奏
- 2002年 5月 太鼓衆団「輪田鼓」&合唱団バリ島公演
- 2003年 1月 鎮魂と希望の太鼓・うたを酒心館ホールで開催
7月第1回「三響祭」を神戸で開催
8月 兵庫区にこうべ輪太鼓センター会館を建設 柿落とし公演を行う
- 2004年 8月 合唱団とともに第3次ニュージーランド公演を行う

わたしたちの これから

鎮魂と希望の太鼓を打ちつづけて

震災の直後、神戸市内外30カ所で避難所ミニコンサートを開催。輪田鼓のメンバーも全員が被災者であり、一部の者は避難所生活の中から演奏活動に参加。太鼓で励まそうという思いで参加した団員が、被災者の喜びと感激の涙で反対に元気と勇気をもった取組となった。96年以降、毎年1月17日午後5時46分に太鼓を打ち鳴らす「鎮魂と希望の太鼓」を全国に向けて発信。輪田鼓はJR三ノ宮駅南広場で同時刻に演奏を続けている。湊川神社からの依頼により代表の田中嘉治が作調した「悠心太鼓」(全3章)をはじめとするオリジナル曲のほか全国の郷土芸能を今日的なリズムも加味して、その“いのち”を伝えようと演奏活動を展開している。

本年5月15日には、郷土芸能として全国トップの位置にある「わらび座」「田楽座」とともに三者で「震災10年・大地の鼓動—ふるさとのにぎわい—」を新神戸オリエンタル劇場にて上演する。(昼・夜2回公演)

多言語センターFACIL

ファシル

■ 所在地 〒653-0052

神戸市長田区海運町3-3-8

たかとりコミュニティセンター内

■ 電話 078-736-3040

■ FAX 078-731-6927

■ E-mail facil@tcc117.org

[設立年月日] 1999年6月1日

[会員数] 226名

[活動内容]

多言語の翻訳・通訳・企画のコミュニティビジネスにより情報弱者への情報提供と在日外国人コミュニティの自立支援をし、地域社会の多様性を活かしたまちづくりを促進する。



自然災害などの緊急時に地域コミュニティの日常的なつながりがいかに大切かを震災で学んだ。その地域には多様な人が住んでいるという現状を認識し、少数者の視点を大事にしたまちづくりを、住んでいる人自身に関わる形でめざしていくよう、毎日の小さな活動でつみあげていきたいと思う。
(代表 吉富 志津代)

わたしたちの これまで

- 1995年 4月～阪神・淡路大震災の日本語が理解できない被災者のために外国語で震災情報を翻訳、通訳、あるいはアナウンスなどに協力
- 1998年 4月 多文化共生センター神戸の設立
- 1999年 1月 「多言語で災害情報を！シンポジウム」を震災周年事業として開催 実行委員会事務局を務め、ドキュメンタリービデオ「多民族社会の風」(震災後4年目の多文化共生のまちづくりの記録)を制作してシンポジウムにて発表
- 6月 多文化共生センター神戸の中で「FACIL」部門を設立し、これまでの活動をボランティアではなく、コミュニティビジネスとして展開することをめざす
- 2000年 4月 「FACIL」を「多言語センターFACIL」という団体として独立させると同時に、同じく部門のひとつであった子どもの活動プログラム「ワールドキッズコミュニティ」も団体として独立させて、FACIL 活動目的のひとつとして、ワールドキッズコミュニティを支えることと位置づける 多文化共生センター神戸は終了
- 2001年 神戸生活ガイドホームページの多言語翻訳をする(7言語)
- 2002年 兵庫県7市1町で構成する「兵庫県多言語生活ガイド作成実行委員会」と共に多言語の生活ガイドの全国的なデータベースを作成
兵庫県教育委員会の学校生活ガイドホームページの翻訳(7言語)
- 2003年 兵庫県神戸県民局の多文化共生調査報告書「グローバルな魅力ある神戸づくり」作成
- 2004年 兵庫県と協働で医療通訳システムの構築事業を展開中(セミナーや医師会のアンケートなども実施)



「多言語で災害情報を!シンポジウム」(1999年1月)

わたしたちのこれから

誰もが安心して暮らせるまちづくりのために、多言語を媒体とした情報提供とその技術を生かしたコミュニティビジネスを展開していき、在日外国人コミュニティの自立を促進する一助としたい。この段階を経て、地域に隣人として住んでいる外国人も住民の1人として参画できるまちづくりをめざす。多言語の背景にある多様性を認めあうことで、少数者の視点を大切にする多文化共生のまちづくりを実現したい。それは自分たちのまちが豊かになるチャンスであることを気づかせてくれた震災を忘れないためにも、さまざまな追悼行事に多文化・多言語の視点にかかわる協力は続けていきたい。

東方文化芸術団

■ 所在地 〒650-0003
神戸市中央区山本通2丁目12-3 3F

■ 電話/FAX 078-242-5132

■ E-mail tohobunka@yahoo.ne.jp

[設立年月日] 1997年1月17日

[会員数] 約30名

[活動内容]

音楽活動を続けています。国際都市である神戸市民として、異文化交流や日中友好文化交流に対して大きな貢献をしたいと思い、地域での草の根のスタイルでのボランティア活動がんばっています。



私は中国人、田偉です。美しい日本に来て、もう15年目になりました。日本人は私を「震災地の歌姫」と呼んでくれます。本当の事です。日中友好！がんばろう神戸！日本の被災者に歌声を伝えたい気持ちで一杯でした！

私は日本に来て5年間は普通の主婦でしたが、震災をきっかけに団長になりました。大きな目標と夢を持つ私は、使命の重さをよく感じました。私にとって第二の故郷である日本は、永遠の芸術人生であり、芸術舞台ではないでしょうか。

(代表 田 偉)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名]

- ①第16回チャリティコンサート「震災慰問コンサート」
- ②第17回チャリティコンサート「ふたりのビッグショー民族魂、民族音」

[実施年月日]

- ①2005年4月30日(土) ②2005年10月9日(日)

[実施場所]

神戸海洋博物館ホール

[内容]

忘れられないあの日、1995年1月17日の阪神・淡路大震災。国際都市、神戸に住んでいた私たち外国人は日本人と一緒に困難(災難?)を克服し、「がんばろう、神戸」の言葉を信じて、ボランティアチャリティコンサートを開催予定。

歌、踊り、モダンダンス、京劇、日本舞踊、民族楽器演奏…国境のないコンサートです。

アジア多文化共生を神戸の舞台で、感動のメロディーを神戸市民に！



第15回チャリティーコンサート(2004年11月)

わたしたちの これまで

—国内—

- 1996年 1月17日 西区仮設住宅の被災者たちと一緒に1周年を迎え、慰問コンサートを始め、東方文化芸術団成立。日中文化交流、多文化共生の町神戸での音楽活動が始まりました。
- 5月31日 第1回チャリティコンサート「アジア音楽・舞踊演奏会」(県民小劇場)
- 1997年 1月5日 第2回チャリティコンサート「アジア音楽・舞踊演奏会」(尼崎アルカイクホール)
- 5月3日 第3回チャリティコンサート「中国遊牧民女性の芸術世界」(兵庫県民小劇場)
- 1998年 1月18日 第4回チャリティコンサート「中国伝統京劇・湘劇・新春親子コンサート」(シーガルホール)
- 2月8日 第5回チャリティコンサート「中国伝統京劇・湘劇・日本琴・民族舞踊」(葺合文化センター大ホール)
- 1999年 1月23日 第6回チャリティコンサート「故郷の夢・異国の心」(兵庫県民小劇場)
- 2月27日 第7回チャリティコンサート「アジア音楽・舞踊演奏会」(中華会館大ホール)
- 3月27日 第8回チャリティコンサート「国際交流音楽舞踊芸術祭」(中華会館大ホール)
- 5月16日 第9回チャリティコンサート「アジア音楽・舞踊演奏会」(中華会館大ホール)
- 10月1日 第10回チャリティコンサート「東方文化芸術団訪中特別公演」(神戸文化ホール中ホール)
- 2000年 12月16日 第11回チャリティコンサート「アジア音楽・舞踊演奏会」(兵庫県民劇場)
- 2001年 2月24日 第12回チャリティコンサート「アジア・舞踊演奏会」(神戸文化大ホール)
- 9月2日 第13回チャリティコンサート「日中友好歌と踊り、動物音楽会」(神戸王子動物園ホール)
- 2002年 1月26日 第14回チャリティコンサート「海外帰国公演」(兵庫県民小劇場)
- 4月20日 第15回チャリティコンサート「アジア音楽・舞踊公演」(加古川アラベスクホール)
- 5月5日 第16回チャリティコンサート「日中友好二人のビッグショー」(兵庫県民小劇場)
- 6月16日 第17回チャリティコンサート「アジア音楽・舞踊演奏会」(大阪西成区民センター)
- 11月4日 第18回チャリティコンサート「偉々の世界」(神戸文化ホール中ホール)
- 2003年 8月30日 第19回チャリティコンサート「異文化交流コンサート」(県民会館県民ホール)
- 11月30日 第20回チャリティコンサート「中国美女の芸術世界」(神戸朝日ホール)
- 2004年 2月1日 第21回チャリティコンサート「震災魂日中友好コンサート」(相生市民会館)
- 9月26日 第22回チャリティコンサート「日中文化交流コンサート」(神戸王子動物園ホール)
- 11月3日 第15回チャリティコンサート「震災慰問コンサート—流転の王妃の昭和史—」(神戸文化ホール中ホール)
- 11月5日 日赤、有功会会長協議会出演

—国外—

- 1997年 中国公演(全8回)北京・上海・長沙・広州・四川・チベット・杭州・内モンゴル
- 2004年
- 2004年 2月10日～17日、フランス、ベルサイユ祭出演



震災後の仮設住宅で(1996年1月17日)



赤十字に義援金を渡す

震災魂 作詞 田 偉

忘れないあの日 忘れようか悲惨な日
世の恐怖は有るのか
愛しい人目覚めず
人影いない悪夢よ 来ないで欲しい
我家を造ろう 人間樂園
世の幸いずこ
勇気と希望 思い浮かべ 強く前進を
親愛なるともよ 新世紀へ前進しよう

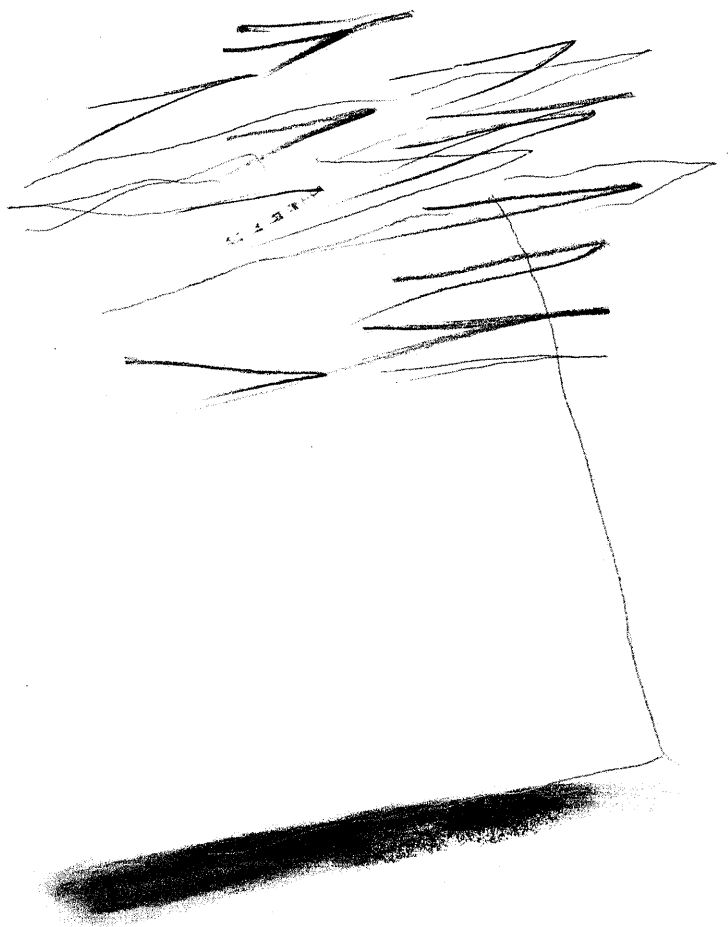
* 震災時に犠牲となった友人を思って作詞をしたミュージカルの主題歌の歌詞です

わたしたちの これから

私たちは日中友好の架け橋の人！

中国に「人有大志」という諺語があります。それは、どんな人も大きな夢を持ってその目標に向かって一日一日努力を重ねれば、必ず実現できるということです。このようにがんばる姿、永遠不屈の精神は素晴らしい事です。「東方文化芸術団」はこの言葉を信じて、一生懸命に日中友好交流の道を永遠に歩いていきたいと思っています。

震災地に誕生した歌姫、田偉。そして、震災地で結成された「東方文化芸術団」。これは信じられない事です。人間の情、人の愛、地域への貢献、異文化交流、国際都市の世界の人たちを喜ばせる音楽演奏活動は、私たちの大きな使命だと思っています。一曲一曲、美しい踊り姿、うれしい歌声、観客感動のメッセージ、感動の涙で、国境を越えて日中友好の虹が現れ出ました。日中友好の架け橋となることは私たちの任務であると思っています。その永遠の課題に向かって、努力したいと思っています。



特定非営利活動法人 Eウォーキング倶楽部

■ 所在地 〒655-0891
神戸市垂水区山手4丁目10番1号409(井上方)
■ 電話 080-1425-6211
■ F A X 078-753-1224
■ E-mail e-walk@kcd.biglobe.ne.jp

[設立年月日]

2004年2月29日に設立総会を、神戸クリスタルタワー10階の、ひょうごボランティアプラザで開催。6月21日、NPO法人設立認証。

[会員数] 23名(会員外の行事参加は可能)

[活動内容]

2004年4月10日より、「月例会」等のウォーキングを実施。「new神戸みぎわのみち」ウォーク、「new六甲北麓のみち」ウォーク、「青春18きっぷ」を用いた遠出ウォーク、ビール工場等の「工場訪問ウォーク」で、可能な限り平坦地を、12～30^分歩行。所要時間は、4～8時間(昼食・休憩時間を含む)。バス1台分程度のグループウォーキングを目指します。EウォークのEは「Exercise Walking」の「E」です。



・みんなで安全に楽しく安く、心身を適度に刺激するウォーキングを続けるため、各種のウォーキング行事の企画・実施や、ウォーキングに関する相談・指導・助言・情報の提供をし、ウォーキングを志す人びと及び潜在的なウォーカーの健康増進ならびに社会参加に寄与することを目指します。
・倶楽部名に「地域名」を冠しないのは、特定の地域に捉われることなく、自由に何処でもウォーキングができ、また何処からでも「地域」のこだわりなく参加していただくことを目指すためです。
・楽しく為になるウォーキング、に「専念」するウォーキング倶楽部を目指します。
・数百名となるようなウォーキングを実施して、歩かせていただく地元にご迷惑をおかけするような企画・実施は避けます。バス1台分程度での実施を目指します。
・アップダウンのきつい「歩き」を避け、平坦地を「無理のない大股で」長く歩くウォーキングを目指します。
・アフターウォーキングの「楽しさ」を積極的に追求します。

(代表 井上 徹)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] new神戸みぎわのみち・シリーズ①《震災10周年・追悼ウォーク「げんべいのみち」》・美しい日本の「歩きたくなるみち」500選/推薦応募記念・2005年NHK大河ドラマ『義経』放映開始記念
- [実施年月日] 2005年1月16日(日)
- [実施場所] 山陽電鉄本線・須磨浦公園駅
～神戸ハーバーランド・はねっこ広場間をウォーク。
- [内容] 次の要領で平坦地コースを約14^分、グループウォーキング。・午前10時、山陽電鉄本線・須磨浦公園駅に集合。黙祷の後スタート。・敦盛塚～戦の濱の碑～一の谷川～須磨の浦～須磨寺(青葉の笛)～平重衡とらわれの松跡～FMわいわい放送局～新長田ふれあい足湯～大正筋商店街～すがはらすいせん公園～薬仙寺(「萱の御所跡」の石碑)～清盛塚/琵琶塚～キャナルプロムナード～築島橋～兵庫港～神戸ハーバーランド・はねっこ広場。・午後3時15分、神戸ハーバーランド・はねっこ広場で解散。

わたしたちの これまで

- 2004年 ●4月10日(日)設立記念スタッフウオーク「しおのかのみち」約15*。 JR/山陽電鉄垂水駅(10時)～五色塚古墳～舞子公園～明石海峡大橋～マリニピア神戸～恋人岬～平磯緑地～垂水展望公園～垂水駅(15時)
- 5月23日(日)・new六甲北麓のみち・ウオーク①「しあわせのみち」約21*。 JR朝霧(10時)～きつね塚～舞子稜～垂水健康公園～コスモスの丘～白川～しあわせに至る階段～しあわせの村～神戸電鉄・西鈴蘭台駅(16時)
- 6月20日(日)・工場訪問ウオーク①「サントリー山崎蒸留所」約13*。 京阪・枚方公園駅(9時)～枚方宿～水面回廊～枚方大橋(淀川)～淀川河川敷公園～水無瀬神宮～サントリー山崎蒸留所(訪問)～阪急・大山崎駅(16時)
- 7月11日(日)・工場訪問ウオーク②「アサヒビール西宮工場」約15*。 阪急・宝塚駅(9時)～花の道～宝塚音楽学校～宝塚大橋(武庫川)～武庫川緑地～阪神国道～アサヒビール西宮工場(訪問)～阪急・阪神国道駅(15時)
- 8月22日(日)・青春18きっぷで行くシリーズ①「長良川のみち」約12*。 JR三ノ宮駅(7時)～JR岐阜駅～岐阜大仏～岐阜公園～索道～岐阜城～七曲登山道～長良川～高橋尚子ロード～JR岐阜駅～JR三ノ宮駅(20時)
- 9月13日(月)・工場訪問ウオーク③「アサヒ飲料明石工場」約16*。 山陽電鉄・西新町駅(9時)～浜辺の道～海がめ産卵地～東二見橋～明石海浜公園～アサヒ飲料明石工場(訪問)～二見大橋～山陽電鉄・西二見駅(15時半)
- 9月23日(木)・通年(イヤーラウンド)ウオーキングコース/基地[(社)日本ウオーキング協会公認]を神戸・垂水に開設。「しおのかのみち」約18・15・12キロの3コース JR山陽垂水駅前コンビニam/pm垂水天ノ下町店が基地 年中無休24時間受付は全国初
- 10月17日(日)・new六甲北麓のみち・ウオーク②「まきばのみち」約14*。 神戸電鉄・西鈴蘭台駅(10時)～洞川湖～布引林道～布引谷～二十渉～森林植物園～山田道～弓削牧場(訪問)～箕谷道～神戸電鉄・谷上駅(15時)
- 11月3日(祝)・new六甲北麓のみち・ウオーク③「ゆけむりのみち」約15*。神戸電鉄・谷上駅(10時)～農村歌舞伎舞台～有馬街道～六甲唐櫃台公園～有馬口～新有馬隧道～有馬川～太閤橋～神戸電鉄・有馬温泉駅(15時)
- 12月19日(日)・青春18きっぷで行くシリーズ②「吉備路を行く」約16*。 JR三ノ宮駅(6時45分)～JR備前一宮駅～吉備津神社～備中国分寺～やよい広場～まちかど郷土館～備中総社宮～JR総社駅～JR三ノ宮駅(20時)

わたしたちの これから

さあ、みんなで楽しくウオーキングしましょう。

「みんなで安全に楽しく安く、心身を適度に刺激するウオーキングを続けます。」①何事もみんなで、それぞれのもてる力を出し合って協力・協働して企画・実施します。②何をするにも安全が第一。危ない、と思われるコース・季節・天候は避けます。③何事も楽しくなければ、人が集まりません。④お金が掛かり過ぎると、人が集まりません。⑤手足体だけではなく、ウオーク中の「語らい」「耳目鼻の活用」が歩行効果を高めます。⑥短期決戦的な「歩き」を避け、長続きのする、各人の体力に見合ったウオークとします。⑦「歩くぞ!!」と意識した「歩き」を目指します。⑧これを続けることにより、心身に適度な継続的な刺激を受け、生活習慣病の予防と適度な「社会参画」ができると、期待します。

歩かせていただく地元の皆さん、ウオーキングに送り出していただく家族の皆さんに感謝して、みんなで安全に楽しくウオーキングを続けようではありませんか。

特定非営利活動法人 神戸西助け合いネットワーク

■ 所在地 〒654-0155
神戸市須磨区西落合2丁目1-6
■ 電 話 078-795-3786
■ F A X 078-795-4498
■ URL <http://www.kobewest-support.com/>

[設立年月日] 1995年7月21日

[会員数] 52名

[活動内容]

1. 給食サービス 2. 移送サービス 3. 街の便利屋さん活動 4. 家具などのリサイクル活動 5. ログ製品・竹炭・竹酢液づくり 6. ふれあい喫茶・食事会 7. すまいる大黒の委託管理 8. グループ農園 9. イベント活動



阪神・淡路大震災が教えてくれた多くの教訓を活かして、自分たちの町は自分たちでつくと云う考え方のもとに活動しています。地域の人が互いに助け合い・支えあっていく地域社会になるよう努力して、高齢者も障害者もだれもが安心して暮らすことの出来る社会を目指して頑張っています。今後、よりよい社会にして行こうとしているNPO等の団体が育ちやすく運営しやすい社会になることを心から望んでいます。

(代表 あり さと 在里 しゅんいち 俊一)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 須磨震災から10年区民の集い
[実施年月日] 2005年1月15日から16日
[実施場所] すまいるプラザ大黒
[内容] 第1部 避難所・宿泊体験
1月15日(土) 19:00～
①震災ビデオの鑑賞
②小中学生による作文発表と表彰
③震災体験発表
④加藤いつかさんのお話
⑤非常食の試食会・夜食
1月16日(日) 5:46～
①黙祷 ②ロウソクに点火
③炊き出しによる朝食
第2部 追悼式 1月16日(日)8:45～
第3部 震災コンサート 1月16日(日)10:00～



わたしたちの これまで

- 1995年 仮設住宅支援:ふれあい喫茶・食事会・移送サービス・家事援助・バザー・自治会づくり
- 1996年 仮設住宅支援:ふれあい喫茶・食事会・移送サービス・家事援助・バザー・自治会づくり・入浴ツアー・給食サービス
イベント:こいのぼり(20ヶ所)・七夕祭り・餅つき大会(9会場)
- 1997年 仮設住宅支援:ふれあい喫茶・食事会・移送サービス・家事援助・バザー・自治会づくり・入浴ツアー・給食サービス
イベント:新春復興祭り(1/12 室谷)・こいのぼり祭り・餅つき大会
- 1998年 仮設住宅支援:前年とほぼ同様の活動プラス引っ越し支援
イベント:新春復興祭り(1/30 室谷)・こいのぼり祭り(5/24 名谷)・餅つき大会・左義長(1/15 名谷)・鎮魂太鼓(1/17 名谷)
- 1999年 仮設住宅支援:前年とほぼ同様の活動プラス引っ越し支援
イベント:新春復興祭り(1/11 西神)・こいのぼり祭り(5/24 名谷)・餅つき大会・左義長(1/15 名谷)・鎮魂太鼓(1/17 名谷)
- 2000年 復興住宅支援:追悼式(1/17・ベルデ名谷)・給食サービス・ふれあい喫茶・食事会・バザー・移送サービス・家事援助
イベント:運動会(5/28 ベルデ)・夏祭り(8/5 ベルデ)・餅つき(12/17)
- 2001年 復興住宅支援:追悼式(1/17 ベルデ名谷)以降前年とほぼ同様の活動
コミュニティ支援:市の配食サービス・CB事業への取り組み
イベント:健康福祉フェア(3/18 ベルデ)・餅つき大会(4/4 飛松西公園)
- 2002年 復興住宅支援:ベルデ・若草・ルゼ等で前年とほぼ同様の活動
コミュニティ支援:配食サービス・CB事業・ミニデイサービス
イベント:健康福祉フェア(2/11 ベルデ)・夏祭り(8/4 若草住宅)
- 2003年 復興住宅支援:ベルデ・若草・ルゼ等で前年とほぼ同様の活動
コミュニティ支援:配食サービス・ミニデイサービス・街の便利屋さん
イベント:健康福祉フェア(2/1 ベルデ)・夏祭り(8/2 ルゼフィール)
- 2004年 復興住宅支援:ベルデ・ルゼ・名谷駅東等で前年とほぼ同様の活動
コミュニティ支援:前年同様プラスすまいるプラザ大黒の委託管理
イベント:健康福祉フェア(2/1 ベルデ)・夏祭り(8/2 ルゼフィール)



復興こいのぼり祭り



毎月恒例のリサイクルバザー

わたしたちのこれから

1. 高齢者・障害者などの生活支援活動

- (1) 給食サービス(安否確認・ほぼ毎日)
- (2) 移送サービス(外出介助)
- (3) 街の便利屋さん事業(家事手伝い、障子網戸の張替、草刈り、照明の球替え等)
- (4) デイサービス

2. コミュニティ支援(復興住宅・自治会・老人会・婦人会・子ども会等)活動

- (1) ふれあい喫茶・食事会
- (2) イベント活動(夏祭り・餅つき等)
- (3) コミュニティ塾(パソコン教室等)

3. 環境に優しい活動

- (1) リサイクル活動(家具・家電・自転車・日用品等)
- (2) ログ風の製品作り(桧の間伐材で)
- (3) 竹炭・竹酢液づくり
- (4) グループ農園

4. 行政等の受託事業

- (1) すまいるプラザ大黒の運営管理
- (2) リサイクル工房の運営管理



特定非営利活動法人 神戸まちづくり研究所

■ 所在地 〒651-0076
神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
■ 電話 078-230-8511
■ F A X 078-230-8512
■ E-mail LET07723@nifty.ne.jp

[設立年月日] 1999年7月17日
(2000年3月1日認証、3月15日法人成立)

[会員数] 14名

[活動内容]

● 社会教育の推進を図る活動 ● まちづくりの推進を図る活動 ● 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動 ● 様々な特定非営利活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動



阪神・淡路大震災は、専門家と市民とのリスクコミュニケーションのあり方に、大きな警鐘を鳴らした。地震などの危険性を正しく認識するうえで、またまちづくりなどの復興を考えるうえで、市民が必要な専門情報や防災知識を獲得することが欠かせない。それだけに、専門家は市民の側にたって科学的知識を共有する取組みに参画することが求められる。私たちの「神戸まちづくり研究所」は、防災だけではなく、福祉や環境、経済、文化などまちづくりの課題を幅広く捉え、様々な分野に係わる専門家が相互に連携して、市民的課題に取り組んでいこうとつくられた中間支援組織です。まちづくりでは、行政、市民、企業、専門家、メディア、NPOなど性格を異にする担い手が連携し協働することが欠かせませんが、その一翼を担うことができればと思っています。(代表 理事長 室崎 益輝)

わたしたちの これまで

- 2000年 地域活性化のためのパソコン教室事業(現在も実施中)
コレクティブオフィス事業(現在も実施中)
まち研ニュース発行(1号)
- 2001年 復興住宅・コミュニティ支援研究会事務局業務(2003年9月まで)
修学旅行受入事業(震災体験現地交流プログラムとして、名古屋市立日比野中学校)
研修受入事業(福岡県市町村協議会、東京都豊島区区会議員団)
NPOと神戸市の協働研究会事務局業務(2004年3月まで)
まち研ニュース発行(2号)
- 2002年 修学旅行受入事業(震災体験現地交流プログラムとして、名古屋市立日比野中学校)
研修受入事業(北海道北見地区青年団、人と防災未来センター、JICA)
被災地コミュニティ応援事業(生活復興のためのNPO活動支援事業／緊急雇用創出事業：兵庫県)
兵庫まちづくりプラットフォーム事業(HVPの行政・NPO協働事業助成にて現在も実施中)
まち研ニュース発行(3号、4号)
- 2003年 修学旅行受入事業(震災体験現地交流プログラムとして、名古屋市立津賀田中学校、名古屋市立日比野中学校、名古屋市立東港中学校、名古屋市立猪子石中学校、世田谷区立山崎中学校、湘南学園高等学校)
研修受入事業(東海大学防災研、関西ペンクラブ、小牧商工会議所、人と防災未来センター、ひょうごツーリズム協会)

まち・ひと つながり形成プロジェクト事業(生活復興のためのNPO活動支援事業／緊急雇用創出事業：兵庫県)新たな生活様式実現を柱とする多自然居住推進事業(HVPの行政・NPO協働事業助成にて現在も実施中)
NPO育成支援アドバイザー事業(現在も実施中／緊急雇用創出事業：神戸市)

明舞まちづくりワークショップ事業

居住者ニーズの変化に対応したニュータウンの再活性化方策検討調査(明石舞子団地)業務

まち研ニュース発行(5号、6号、7号)

2004年 修学旅行受入事業(震災体験現地交流プログラムとして、名古屋市立日比野中学校、名古屋市立東港中学校、名古屋市立豊正中学校)

中間支援による、ひと・まち元気アップ事業(生活復興のためのNPO活動支援事業／緊急雇用創出事業：兵庫県)研修受入事業(人と防災未来センター、湖西市商工会議所)

住民による防災まちづくりに向けた調査事業(全国都市再生モデル調査)

明舞団地街開き40周年記念事業(兵庫県、兵庫県住宅供給公社、都市基盤整備公団関西支社、神戸まちづくり研究所の4者で協働実施)

まち研ニュース発行(8号、9号、10号)



修学旅行受入(2002年日比野中学校)



JICA研修受入(2002年)

わたしたちのこれから

地域自治に向けて地域社会が変わりつつある現在、新しい担い手として現れた多様な市民、NPOなどの活動をどのように地域に根付かせるかが大きな課題である。私たちは、震災復興の経験と自らの専門性を活かし、政策提言を行うとともに、理論だけではなく現場での実践を通じて、これらの課題に取り組んで行きたいと考えている。

具体的には、専門家・住民・NPO・行政が恒常的にまちづくり課題について協議する場として「兵庫まちづくりプラットフォーム」を県下各地に展開して行こうと各地でのワークショップを開催している。

また地域再生の取り組みとしては、「明舞団地再生まちづくり」に平成15年度より取り組み、「まちづくりサポーター」の募集や空き店舗を利用した「明舞まちづくり広場」等を展開してきた。また今年度は、「街開き40周年記念シンポジウム」の開催や「明舞まちづくり講座」など、住民主体による再生の仕組みづくりを推進している。

特定非営利活動法人 こぐまくらぶ

■ 所在地 〒655-0048
神戸市垂水区西舞子8-1-1

■ 電 話 0120-666-415

■ F A X 078-785-4868

■ E-mail koguma@crocus.ocn.ne.jp

[設立年月日] 2002年11月11日

[活動内容] 乳幼児の保育・障害児の保育・障害者支援



10年前の震災の時、以前にこぐまで保育させて頂いてたお子様が淡路島で震災に会われ、お母様がその子をかばう為にタンスの下敷きになり亡くなられたことを思い出します。

我が子を想うあまりのとっさのことだったと思います。お母様の愛の尊さに合掌しつつ、追悼行事に参加したいと思います。

(代表 理事長 ^{まつもと} 松本 ^{あきこ} 昭子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 子ども達と追悼ウォーク

[実施年月日] 2005年1月17日

[実施場所] 長田区若松町近辺

[内容] 長田の駅前に震災後に出きた再開発ビルのこぐまプリスクール(託児所)の園児、職員、ボランティアの方と街を歩きながら、子ども達と作った白いリボンを道行く人に配ります。



追悼の白いリボンを手渡す子どもたち

わたしたちの これまで

1989年 9月に神戸市垂水区舞子に保育ルーム開園
1995年 震災直後も保育. 水や食料も保護者が協力
1996年 10月に神戸市須磨区若草町に保育ルーム開園. 障害児受け入れ
2000年 9月に神戸市長田区の再開発ビルに保育ルーム開園
2002年 11月にNPO法人設立
2003年 1月17日こぐまくらぶで正午のサイレンと共に職員児童全員で黙祷
2004年 同上



震災を忘れないために配るリボンを作っています



震災のあった1月17日にみなで黙祷しました

わたしたちの これから

忘れない、あの日の悲しみを!!

震災で大きな被害を受け、悲惨な状態になってしまった長田の街も10年を経過し、新しい住居やビルがたち並び、すっかり美しい街に生まれ変わりました。

人口が極減したこの街にも新しい命が生まれ又、にぎやかさを取り戻そうと息吹いています。

でも、この美しく生まれ変わった街の悲しみや苦しみを忘れない為に子ども達と一緒に手作りの白いリボンを道行く人達に毎年渡していきたいと思います(1月17日に)。

大きな苦しみをのりこえた街であることを忘れない為に!!



特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸

■ 所在地 〒658-0051
神戸市東灘区住吉本町2-13-1森田ビル3-4階

■ 電 話 078-841-0310

■ F A X 078-841-0312

■ E-mail info@cskobe.com

[設立年月日] 1996年10月1日

[会員数] 正会員:15名 賛助会員(個人):146名
同(団体):31団体

[活動内容]

中間支援を行なうNPOとして、福祉の充実、環境の整備等、便利で安心して暮らせるまちづくりを目指して活動している団体を支援し、自らも、この目的にあう行政等からの委託事業やネットワーク活動を展開します。



自分で考え判断し、実行する自立した市民。自分個人や組織の弱さを自覚し、他と補い合うことにより助け合う共生社会。「自立と共生」のバランスを生活や社会が自然に受け入れられるような環境作りを目指している。具体的には、NPOなどの自律・自立的な団体の支援をし、身近なところで容易に参加できるくらい、多数のNPOの創出を目指している。

(代表 なかむら じゅんこ 中村 順子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 白いリボン運動

[実施年月日] 2005年1月1日～

[実施場所] 阪神・淡路大震災の被災地である兵庫県内各域

[内容]

- ①震災10周年を機に「祈念・感謝・創生」というコンセプトのもと、地域再生やコミュニティづくりの担い手であるNPOを支援する民間募金運動を展開する
- ②特に初年度はボランティアや諸団体の協働により、防災、障害者、高齢者など災害弱者の支援を行なうNPOに重点を置きつつ、幅広い領域のNPO支援を実施します。



白いリボン運動

わたしたちの これまで

- 1995年 阪神・淡路大震災の発生 同年2月に母体となるボランティア団体「東灘助け合いネットワーク」が発足する
- 1996年 市民団体活動に対する中間支援を行なうことを目的として「コミュニティサポートセンター神戸」が誕生する
- 1997年 機関紙「市民フロンティア」の発行を開始
- 1998年 東灘区復興住宅自治会交流会や「トライやるウィーク」受入れ事業などを開始
- 1999年 特定非営利活動促進法に基づき、NPO法人格を兵庫県内で初めて取得
- 2000年 魚崎財産区からの業務委託により、「魚崎わかばサロン」の運営を開始 同サロン敷地内には震災犠牲者の慰霊碑があり、ひろく利用者にも開放されている
- 2001年 震災復興住宅である西宮石在団地において、住民を主体とするコミュニティづくりの支援事業を開始
- 2002年 生きがいある仕事づくりの支援を行なうべく、「生きがいしごとサポートセンター」事業をスタートさせる 震災の記憶の継承を目的に京都大学防災研究所からの委託を受け、インタビュー事業を開始
- 2003年 東灘区山麓部の急傾斜地における交通アクセス改善を目指して「くるくるお出かけネットワーク調査事業」を開始 7年誌である『コミュニティ・エンパワーメント』出版事業を開始
- 2004年 第2次「白いリボン運動」の実行委員会を立ち上げ、震災10年に当たる2005年1月を「白いリボン月間」に設定して準備を開始させる

わたしたちの これから

協働のまちづくりを目指して

人と街を一変させた阪神・淡路大震災から10年が経とうとしています。私たちは震災を原点と捉え、地域の人による、地域のための市民活動や市民事業を支援し、住み良い環境に基づく協働のまちづくりを行なっています。

私たちの活動は、支援事業・自主事業、そして行政・企業や様々な団体とのコラボレーションによる受託事業という3つの柱から成り立っています。そのほかにも収益にとらわれることなく、社会貢献に主眼を置いた事業も展開しており、白いリボン運動についてもその一環として実施します。

歳月の経過とともに記憶は薄れて行きますが、白いリボン運動などを通じて震災の犠牲者の方にも思いを馳せ、過去に戻るのではなく、地域の様々な人や団体とのネットワークを通じて新たな活力あるコミュニティの創生に向けて頑張っていきます。共に手を携えて協働のまちづくりを目指しましょう！

特定非営利活動法人

ソーシャルサポートセンターひょうご

■ 所在地 〒651-2116

神戸市西区南別府1丁目11番地の12

■ 電話/FAX 078-978-0775

[設立年月日] 2004年10月4日(法人設立)

[会員数] 正会員13名 準会員27名

[活動内容]

阪神・淡路大震災のような自然発生的問題や、社会形態の変化、価値観の変化からくる当事者の多様な問題について、社会的によりサポーターな関係を築き、ボランティアな活動を自己強化の源としています。



阪神・淡路大震災にとどまらず、地域社会の様々な課題についても、利潤だけを求めるのではなく、社会貢献ができる組織づくりと、人としての心の豊かさについても、共に話し合い、人生の危機に遭遇したときでも、その人の支えとなる相互的な関係が求められます。当事者を心理情緒的に、あるいは実質的社会的に支援・援助できれば、ストレスに陥っても具体的に問題の解決をはかるための手段を多くの人から受けることができるでしょう。残念ながらわが国では欧米や他の先進国のようなソーシャルサポートの存在が非常に希薄ですから、より健全な、より具体的な活動を大切にしています。

(代表 黒岩 ウノ)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 黙とう

[実施年月日] 2005年1月16日

[実施場所] グループホームひらの

[内容] 10年という時の流れの中で、あの時の決意を忘れることなく、1996年兵庫県震災復興基金によって出来ました「兵庫県こころのケアセンター・グループホームひらの」の設立からこの日までの運営の日々をふりかえりながら、多くの犠牲者とその遺族の方をしのびつつ、今からの10年にむけて、想いを新たに努力していききたいと思います。

わたしたちの これまで

- 1984年 心の病をもつ子どもの親有志8人により発足 自閉症などの勉強会を行なう
1992年 在宅ケアボランティアとして不登校児童の野外キャンプなど青少年の心のケアに自主的に取り組む
1995年 阪神・淡路大震災により地域ボランティア活動に入る
1996年 家族とボランティアがチームを組み専門職(看護師・心理士・PSW)と共に訪問活動を行なう 仮設住居における高齢者の孤独死をまのあたりにして、グループホームの必要性を知る 兵庫県震災復興基金を活用した兵庫県こころのケアセンターの事業に家族会として参画し、グループホームを設立する と同時に運営して今日に至る 同時にPTSD(心的外傷後のストレス症候群)など心のケア学習会を開催
1998年 高齢者・障害者・児童・青少年のひきこもり問題に取り組み、訪問活動・電話相談を開始する
2004年 震災以後毎年1月には犠牲になられた方を心から追悼し、その方達にはげまされて活動していける ミッションを大切にするために10年を前にNPO法人を設立



わたしたちの これから

心は無限の中に

震災や災害は阪神・淡路だけにとどまりません。ここで問題となるのは単なる物資、単なる経済援助という優しさではなく、財産も肩書きも、性差も、学歴も…すべてが脱落した当事者に対する本音の底で実際に動く(活動する)ボランティアの汗や涙や言葉だけが優しさとして伝わり、伝わったことで幸福を実感できるのではないのでしょうか。

様々なストレスによる児童・青少年の心理、社会的犯罪や社会的引きこもりにしてもソーシャルサポートの活動によって、当事者を取り巻く社会環境に働きかけてこそ、その固有性が発揮され、孤独や孤立、排除や摩擦から援護されながら、本来の自分を取りもどせると思います。これまで本人の問題、本人が自助努力で解決しなければならないとした多くの理論や手法は、今日の社会では通用しませんし、きわめて危険なことです。

阪神の当事者が新潟でボランティアとして活動するごとくソーシャルサポートを実現していきます。

特定非営利活動法人

阪神淡路大震災「1.17希望の灯り」

■ 所在地 〒651-1131
神戸市北区北五葉1-13-1
レ・アールビル3F

■ 電 話 078-595-2800

■ F A X 078-595-2801

■ E-mail kibou@family.plala.or.jp

[設立年月日] 2002年3月

[会員数] 正会員128名 賛助会員1002名
協力団体・企業66団体・社

[活動内容]

震災とそこから生まれた支えあう「いのち」を伝え広げるために、被災地に建立されている慰霊碑やモニュメントを巡り語り合う「震災モニュメント交流ウォーク」の開催、震災で気づいた「いのち」「お互いに支えあうこと」の大切さを語り合うフォーラムの開催、また1月17日前後には、「1.17希望の灯り」を全国の希望者へ分灯し「いのち」について語りあい、震災を語り継いでいく。

震災によって、私たちはかけがえのない多くの『いのち』を奪われました。しかし、国籍や宗教・肩書きなどの違いを超えて家族や隣人・地域で助け合いました。そして被災地の公園や街角・学校などには「慰霊碑」「追悼碑」「モニュメント」がつけられました。私たちはこれらを「震災モニュメント」と名付け、「震災モニュメントマップ」を1999年1月17日に発行しました。このマップ使ってモニュメントを巡り歩く『震災モニュメント交流ウォーク』が始まり、それらの活動を通じて、数多くの震災のご遺族との出会いがありました。2000年1月17日には、この活動に携わってきたご遺族やボランティアの働きかけによって、神戸・三宮の東遊園地に、47都道府県から寄せられた種火を一つにして点灯されたモニュメント「1.17希望の灯」が建立されました。これらの活動を通じて、震災のご遺族から「私たちはつらい時、悲しい時、泣きたい時に訪れることの出来る『震災モニュメント交流ウォーク』の仲間がいるけど、事件・事故でご家族を亡くされた方々はどうされているんだろう・・・」という声が聞こえてきました。愛する家族を奪われた悲しみは、震災でも事件でも事故でも変わらないはずです。そこで、2003年3月特定非営利活動法人「阪神大震災1.17希望の灯り」(略称:HANDS)を震災・事件・事故のご遺族と市民ボランティアとで設立しました。私たちは、亡くなられた方々の死をしっかりと受け止め、『いのちの大切さ』『お互いに支えあうことの大切さ』を、伝え広げていきます。

(代表 松浦 潔)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 阪神淡路大震災1.17のつどい
- [実施年月日] シンボルイベント:2005年1月17日(参加者60,000人)
「1.17希望の灯り」の分灯:2005年1月10日～17日
(分灯先:83箇所)
- [実施場所] 神戸市中央区加納町 東遊園地
- [内容] 東遊園地内「慰霊と復興のモニュメント」敷地内に設置されている「1.17希望の灯り」分灯を全国各地へ行い、また「いのち」の大切さを参加者で語り合う交流会を開催することにより、震災の風化を防ぎ、各地域とのネットワークづくりを行う。
- 当日、「神戸市震災10周年追悼のつどい」を始め、各「1.17希望の灯り」分灯先でも地域の様々な行事が開催されており、「灯り」を通して連携し、全体広報することにより、震災を風化させることなく「いのちの大切さ」を語り継ぎ、コミュニティネットワークづくりを行う。



阪神淡路大震災1.17のつどい

わたしたちの これまで

- 2002年 震災モニュメント交流ウォークの開催4月(西宮市)、6月(神戸市灘区・中央区)、9月(神戸市灘区)、11月(神戸市中央区)
ひまわりウォークの開催 7月 いのちの大切さを伝えるフォーラムの開催 「いのち むすび つなぐ」 11月
- 2003年 「阪神淡路大震災1.17のつどい」 1月17日 参加者33000人
震災でなくなられた方々の鎮魂・追悼とともに、震災で気付いた「いのち」「お互いに支えあうところ」を伝え広める
「1.17希望の灯り」の分灯を行う(1月8日～17日)分灯先:54箇所
震災モニュメント交流ウォークの開催
5月(神戸市東灘区)、7月(西宮市)、8月(神戸市兵庫区・長田区)、10月(芦屋市・神戸市東灘区)
ひまわりウォークの開催 7月 いのちの大切さを伝えるフォーラムの開催 「遺族がメディアに望むこと」 10月
- 2004年 「阪神淡路大震災1.17のつどい」 1月17日 参加者54000人
震災でなくなられた方々の鎮魂・追悼とともに、震災で気付いた「いのち」「お互いに支えあうところ」を伝え広める
「1.17希望の灯り」の分灯を行う(1月10日～17日)分灯先:60箇所
震災モニュメント交流ウォークの開催
3月(明石市)、6月(神戸市中央区)、9月(神戸市灘区)、11月(伊丹市)
- 2005年 いのちの大切さを伝えるフォーラムin東京の開催 日本青年館
*このほかに、神戸を訪れる修学旅行生への震災語り部活動、また全国各地で開催される講演会等への語り部の派遣などを実施しています



震災モニュメント交流ウォーク



「1.17希望の灯り」の分灯

わたしたちの これから

人のつながりこそが防災

1995年1月17日午前5時46分阪神淡路大震災。震災は、理不尽にも数多くの尊い命を、そして仕事を団欒を地域を奪い去りました。あの日から10年…風水害、地震、津波、そして事件、事故など悲しい出来事も続発しています。神戸市中央区の東遊園地に建立されている「1.17希望の灯り」の碑文に次の言葉を刻みました。

「…たった1秒先が予知できない人間の限界…」

この言葉は、震災で命を奪われた方々を通して「可能性としての自分」を見てほしいとの思いを含めています。「いつ・どこで・何が起こるかわからない」現実生きる私たち。だからこそ、「いのち」「人のやさしさ・お互いに支えあうところ」の大切さを、世代や場所を超えて多くの方々へ広めて生きたいと思えます。

特定非営利活動法人 阪神高齢者・障害者支援ネットワーク

■ 所在地 〒651-2109
神戸市西区前開南町1-2-1
■ 電 話 078-976-5050
■ F A X 078-977-0224
■ E-mail hks-sien-net@h8.dion.ne.jp

[設立年月日] 当初立ち上げ日:1995年6月15日 [会員数] 112名+5団体
法人設立日:2004年10月29日

[活動内容]

仮設住宅支援を通じて浮上した、高齢者問題・障害者問題を軸として、新しい型の地域福祉社会を作るための様々な取り組みをしている。*伊川谷工房・あじさいの家(集いの場、仕事場、デイサービス)の運営 *公営住宅支援(お茶会、健康相談) *生活全般に亘る相談



新たな地域福祉社会構築のために、現状では不足するしくみづくりをしなければならない。また、しくみがあってもなお漏れてしまうところをどのようにフォローするのかを、常に「いのち」に視点を置いて活動している。・行政-市民-企業の連携 ・医療-保健-福祉の連携 をたて糸に「地域」と「暮らし」を一体化させたものをよこ糸として織り成すことを考えている。

(代表 黒田 裕子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 灯りをいつまでも
[実施年月日] 2005年1月17日
[実施場所] 長田区 県営フレール長田大道住宅隣接公園
[内容] 500基の手作りの灯ろうで文字をつくり、慰霊を行うとともにこれからの10年に対して、「95年1.17」を深めて迎える日とする。踊り、楽器演奏、炊き出しを予定*灯ろうは、材料を画用紙、ベニヤ板とし、画用紙には長田区の小学生、当団体関連の高齢者の方々がそれぞれに思いをこめて描き、これをフレール長田大道住宅の方々とスタッフとで組みたてた。



手づくりの灯ろうで「2005.1.17 10年いのち」の文字

わたしたちの これまで

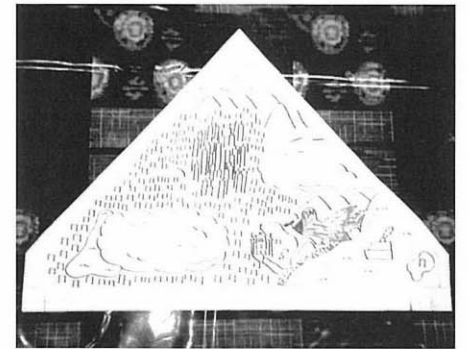
灯りをいつまでも(実施日:毎年1月17日)

- 1995年 実施場所:西神第7仮設住宅 毎年1月17日にて慰霊をする
1999年
1998年 実施場所:岩岡住宅(西区) 「1.17のつどい」の支援を行う 98~00年は当団体が灯ろう設置、炊き出しを行った
2000年 実施場所:元西神第7仮設住宅跡地 仮設住宅は解消となり、西神第7仮設住宅跡地の広い敷地も空き地が大きくなった。この一角を利用して仮設住宅で亡くなられた方々もあわせて慰霊した 公営住宅から多くの人々が、また、近隣の住宅からも参加があった
2001年 実施場所:西神南駅東側ひろば 多数の復興住宅の人々と被災
2002年 の小さかったニュータウンの人々がともに慰霊した ニュータウンの人には、小学生を伴ってきた人が数人あった
2003年 実施場所:県営・フレール長田大道 同住宅への支援を縁に、長
2004年 田区の実行委員会に参加する形で隣接する公園にて行う

※手作り灯ろう '00年より手作り灯ろうに工夫を凝らしペットボトル・画用紙などを使用する その灯ろうには春日台小学校、榎野台小学校、五位の池小学校の児童、つぐみ保育園の園児、伊川谷工房、公営住宅の高齢者による心のこもった絵が描かれた



伊川谷工房で灯ろうの製作がすすむ



灯ろうには、こうして絵が描かれて

団体の活動

- 1995年 西神第7仮設住宅及び西区内約3000世帯の仮設住宅支援を24時間体制で行う。制度上の様々な課題解決のため、また「いのち」を重んじるための工夫、仮設住宅内のグループハウスの運営などを行う。
1999年 仮設住宅終了後も引き続き課題解決のために、加えて、現実の時間を持たない高齢者の方々への対応をおこない現在に至る。
2004年 10月29日 特定非営利活動法人となる。

わたしたちの これから

灯りをいつまでも 看取りの家をめざして

あれから10年、この10年間に世界各国で様々な自然災害があり事件が起きた。日本では阪神・淡路大震災の10年検証が進められる中、新潟中越地震が起きた。このことは10年検証の意味を問いかけているように考える。「何が出来たのか」「その事から何が変わったのか」「変革したならばその事をどのように目指すのか」をしっかりと、見られているのではないかと思う。

毎年1月17日は、犠牲者となられた6,433名の皆様に灯りをささげることで、残されている者も今、ここで生ききる事を誓ってきた。

今後は、地域住民が安心・安全のまちづくりをはかり、快適にらせる地域社会を作ることが大切である。「意識改革」「思った事、考えた事を意味づけしての実行」「実行した事の評価」を一人一人が心したいものである。そして、ロウソクの炎のように暖かな光を放つ「看取りの家」の実現に力を注ぎたい。

特定非営利活動法人 東灘地域助け合いネットワーク

■ 所在地 〒658-0046
神戸市東灘区御影本町6丁目15-17
御影旨水館(御影市場)

■ 電 話 078-843-4029

■ F A X 078-842-2907

■ E-mail kobetasukeai@nifty.com

[設立年月日] 1995年2月2日

[会員数] 884名

[活動内容]

(1)保健、医療、福祉 (2)社会教育 (3)まちづくり (4)学術、文化、芸術、スポーツ
(5)環境保全 (6)地域安全運動 (7)こどもの健全育成 (8)その他



震災は失うことばかりではありませんでした。震災を機にさまざまな出会いがあり、見知らぬ人とも心をひとつにして助け合い、被災した住民どうしのふれあいが芽生えました。

振り返れば6年前に御影旨水館の空き店舗に拠点を移したことが、団体の大きな転機となっています。被災地が少しずつ落ち着きをとるもどしかけたこの頃、私たちの活動も震災ボランティアとしての活動から、地域密着型の活動に広がるチャンスとなったのです。

これまで市場の中に高齢者・障害者の方々が趣味や仲間づくりを通じて自立を促進する交流拠点を創りました。また安心した在宅生活が送れるように移送サービスや日常生活支援を行ってきました。活動はすべて震災直後の心のケアや助け合いの経験を生かしたものばかり。震災は地域の助け合いがなくとも不自由なく生活できる現代社会から、コミュニティの大切さを問い直す機会になりました。10年で培った助け合いの精神をさらに育て、伝えていくことが私たちの役割です。 (代表 理事長 村山 メイチ)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 震災を忘れない、市民による追悼
- [実施年月日] 2005年2月2日(水) 1:30~3:30
- [実施場所] 御影公会堂
- [内容]
- ・震災を語り伝えるためのビデオ上映
 - ・銭太鼓
 - ・クラリネット演奏
 - ・劇(11匹の猫)
 - ・酒造りの歌
 - ・炊き出し(ぜんざい)350食
 - ・お楽しみ抽選会(旨水館の金券が当たる)



わたしたちの これまで

- 1995年 被災地の緊急支援と復興を目的に設立
緊急支援、水汲み、心のケア、安否確認、仮設巡回、ふれあいセンター運営8箇所
ふれあいサロン運営15箇所、移送サービス、引越しの手伝いなど
- 1997年 5箇所の復興住宅の巡回訪問や交流活動
- 1998年 御影旨水館に拠点を移し、共栄共存めざす
福祉車両を使用した移送サービスを有償でスタート
- 1999年 空き店舗で各種カルチャー、パソコン、生きがい対応型ミニデイサービス
- 2000年 パソコン教室として2件目の空き店舗を借り、事業拡充を図る
NPO法人格取得
- 2001年 視覚障害者のための音声パソコン指導スタート
- 2002年 日常生活支援有償でスタート
- 2003年 リサイクルショップとして3件目の空き店舗を借りる
- 2004年 環境保全啓発活動・子どもの健全育成・地域の安全活動
東灘区民のためのミニコミ誌「東灘ぱらボラ」17000部発行



御影旨水館の事務所



BK大阪の見学

わたしたちの これから

これまで介護保険の枠外サービスを中心にお手伝いしてきましたが、ニーズが多様で、ひとつの団体では担いきれないことがたくさんあり、お断りするケースが度々ありました。高齢になって体力が落ちて、周りの支援を受けながら自分らしくありたいと望んでいる方々の自立を地域で応援することが求められています。

家族機能の低下と介護保険制度の大幅な見直しが進むなかで地域の組織と福祉系NPOが協力し合い、連携すれば、解決できることがたくさんあるはずです。

そのために私たちはもっと日頃から、自治会をはじめとする地域の方たちと顔見知りの関係を作る必要性を感じています。そのきっかけ作りとして、「茶話やか広場(交流拠点)」が今まで以上に住民のみなさんの気軽集える交流の場、情報交換の場になるように務めたいと思っています。地域が一体となって、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めていくなかで私たちも得意分野を担っていけるような力をつけていきたいと思っています。

特定非営利活動法人 被災地障害者センター

■ 所在地 〒653-0811

神戸市長田区大塚町6-1-1-1F

■ 電 話 078-642-0142

■ F A X 078-642-0942

■ URL <http://www.warp.or.jp/~takuto/>

[設立年月日] 1996年2月2日

[会員数] 運営会員38個人、3団体／協力会員101個人、
17団体／賛助会員個人295口、団体25口
(2004年3月末日現在)

[活動内容]

- 障害者・障害をもつ高齢者の生活支援
 - ・事業所「たくと」の障害者ホームヘルプ事業(身体・知的・児童・精神)
 - ・介護保険(えがおの窓口、訪問介護) ・ホームヘルパー養成講座(訪問介護員養成研修／障害者日常生活支援・知的外出従業員養成研修)など
- ボランティア活動
 - ・「移送サービス」(会員制)
 - ・交流の場づくり(たまり場／レクレーション／様々な企画)
 - ・生活支援ボランティアコーディネート ・ヒューマンセミナー(学習活動)など
- 開発・研究
 - ・「生活の場サポートセンターひょうご」の運営＝小規模作業所などの体力アップ
 - ・障害をもつ子どもの支援事業「よりみちクラブ」 ・障害者生活支援センター事業をめざしてなど
- 提言・発信
 - ・権利擁護(相談・情報提供・提言)活動 ・通信『拓人(たくと)』発行(隔月に12000部)、ホームページなどの情報発信 ・障害者団体や市民団体等とのネットワークなど



被災地障害者センターは、阪神・淡路大震災を契機に、地域の障害者や団体・関係者の救援・支援活動に取り組むため、1995年2月に生まれました。活動の目標は、障害者や、障害をもつ高齢者の権利の実現です。私たちはみんなに支えられてつくってきた活動と事業を継続し発展させ、被災地から全国の関係者にメッセージを発するため、1999年10月に非特定営利法人(NPO法人)となりました。

その活動の基本方針は以下のようになっています。

- ①地域に根ざした恒常的な活動を行い、障害者市民活動のスタイルをめざします。
- ②草の根のネットワークを大切に、「顔の見える関係」を基本にします。
- ③障害者発の情報発信をしっかりと行います。
- ④市民に開かれ、共感を生み、参加できるいろんな事業を生み出します。

(代表 福永 年久)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 1.17 KOBEに灯りを in ながた
(実行委員会のとりくみに参加)
- [実施年月日] 2005年1月17日
- [実施場所] 新長田駅前広場(JR新長田駅南側)
- [内容] 鎮魂への思い、復興への思い、支えあう市民社会づくり、「10年」から次の「10年へ」



「草の根を紡ぐ」、私たちはやり続けることを、心にとしかめあった。

わたしたちの これまで

- 1995年 兵庫区で開始。安否確認と、「復活・救援活動」として、①生活支援、②作業所支援、③情報発信を柱に行う 緊急生活の場も自前で建設し運営 県・神戸市に「復興」に関する要望書提出
- 1996年 1月16日から17日、被災者・協働した障害者団体・NPO・県下全域の友人たちと「いやしと点検行動」。一人一人の生活づくり、一つ一つの作業所再建支援 12月に全国の仲間を迎えて交流集会 長田区に移転
- 1997年 移送サービス準備 市民と障害者の出会い・共感・協働を求めて「ボランティア講座／セミナー」開始 小規模作業所体力アップ「ゆめ風プロジェクト」事業開始
- 1998年 仮設住宅住まいの方対象に「なんでも相談」(5日間、計50件) 「活動報告・検証・提言集」発行。NPO法人化に向けて内外で大論議を行う
- 1999年 NPO法人設立総会、認証を受ける 知的障害者外出支援制度化(復興福祉施策ではあがっていた)するため、モデル実施。
- 2000年 市民版ホームヘルパー養成講座(NPO・ボランティア団体と共同)、介護保険事業、障害者ホームヘルプ事業開始 知的障害者ガイドヘルパー養成講座モデル的实施 「生活の場サポートセンターひょうご」事業開始
- 2001年 長田中央市場空店舗で長田区中心の小規模作業所の「いちばで元気」が店を出し、長田神社前商店街との共同事業、小学校総合学習との共同「こども市場」に発展 防災コミュニティがつくられてきている
- 2002年 支援費制度(障害者福祉制度が大きな変化をする)を前に、「自分らしく生きたい発見プロジェクト」をたちあげ、全県キャラバンで学習・研修・交流企画を持ち、地域で自主的な事業所も支えた 事務所移転(同、長田区)
- 2003年 人、もの、金、情報、いろんな面で試練の年であった。みんなの応援で思わぬほど大きくなった活動／事業、再び「けんしょう」が求められた が、NPO…、手法もわからぬままに、まずはリーフレット作り
- 2004年 支援費制度が始まり指定を受け、事業体制を変更した 障害者日常生活支援・知的外出従業者養成研修の事業を始めた 「制度」に振り回される昨今、「生活現場に腰をすえた活動／事業」を語り続ける私たち



2000年8月12日こうべ市民交流センターで市民版ホームヘルパー養成講座修了式



2004年10月29日長田中央市場で商店街と小学校総合学習の共同の取り組み「こども市場」

わたしたちの これから

支えあえる市民社会をめざして

私達には「石の上にも3年」が2度来た。そう、震災直後のボランティア活動期「荒海での遭難」気分時と、NPO法人になって「砂漠嵐でどっちが北や」気分の時と。そして、今「10年から10年」の「秋」(とき)になっている。去年(2004年)1月からの通信では(「リレーエッセイ欄」)、また5月の理事会・職員会議などからは、「次の10年」をテーマにしている。いや、台風23号・新潟中越地震は10年前を否が応でも思い起こさせられ、そしてみなさん10年の苦難の積み重ねの意味を…。いや、この新しい災害でも私たちは「センター」的役割なのだ…。ともあれ、『支えあえる市民社会をめざして』のテーマは、私たちが10年前に「起(た)った」ときのもの。NPO法人になり、障害者グループを事業者にもある意味でひっぱりついてきた時にも、その事業者に誠意をもつことが一番大切だという時にもこの言葉だ。そして今も、地べたで汗と泥まみれを選んで「人として生きたい」と、職員にも登録ヘルパーにも関係者にも、カンパをしてくれる人にもボランティアにも言うのが、説明するのがこの表現だ。

そして今、活動／事業の継続発展に、仲間への応援に、議論と構想は続いている。仏教用に聞いたが「老若男女みんなようせいよ」って、ええね、ほんま。とりわけ、若者の感性とエネルギーも、たいせつだ。

特定非営利活動法人 福祉ネット寿 (寿ボランティアグループ)

■ 所在地 〒657-0024
神戸市灘区楠丘町2丁目1番1号
■ 電話/FAX 078-821-2330
■ E-mail kotyobuki-bora@muabiglobe.ne.jp

[設立年月日] 2004年4月23日 [会員数] 43名
(1995年5月23日)

[活動内容]

1. 高齢者・障害者・難病者の移動及び送迎に係る事業
2. 生きがい対応型デイサービスに係る事業
3. 高齢者・障害者・難病者に対する配食サービスに係る事業
4. 地域コミュニティ助け合いに係る事業
5. 「寿ふれあいの家」で障害者と地域住民・青少年との交流
6. 身体障害者福祉法に基づく居宅介護など事業及びデイサービス事業
7. 知的障害者福祉法に基づく居宅介護など事業及びデイサービス事業
8. 介護保険法に基づく居宅介護支援事業
9. 介護保険法に基づく居宅サービス事業

高齢者・障害者・難病者など社会生活に困っている方々に対して助け合いの精神に基づき、地域の元
気な住民一人一人が持っている時間や技術や知恵を出し合い、共同で送迎支援、配食サービスなど地域
福祉サービスを行い、住み慣れた地域で最後まで尊厳を持って住み暮らし続けられるよう、福祉の増進
に寄与することを目的として活動を継続している。 (代表 姫野 操子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] ルミナリエ点灯式見学
[実施年月日] 2004年12月9日 18:00～19:30
[内容] ●身体障害者・知的障害者を福祉車両にて東公園まで移動送迎

[行事名] 震災10周年1.17ひょうごメモリアルウォーク
復興の歩みバスツアー
[実施年月日] 2005年1月17日 10:30～14:30
[実施場所] 灘区内
[内容] ●各復興住宅被災者が人と防災未来センター等を見学
●交流広場での被災者、高齢者との出会い

[行事名] 講演
[実施年月日] 2005年1月17日
[実施場所] 東京都北区防災センター
「あの時私は」、「減災で大切な命を守る」



東京での講演会会場

わたしたちの これまで

- 1995年 1月 救援活動・救援物資の配付
4月～ 地域型仮設住宅住民と地域住宅被災者とのふれあいイベント・交流会(ふれあい喫茶・手芸等趣味講座・友愛訪問等)
12月 地域型仮設住宅支援餅つき大会実施
- 1996年 4月～ 地域コミュニティ助け合い事業開始(寿ふれあいサロン)
8月 震災追悼劇「光跡」の上演(灘区民ホール)
- 1997年 8月 震災追悼劇「ひとり芝居 光跡」の上演(灘区民ホール)
- 1998年 5月～ 復興住宅への引越し支援(荷造り・荷解き・行政手続・買い物介助・通院介助・薬とり等)
- 1999年 復興住宅住民に対するアンケート調査・友愛訪問・コミュニティ作り支援(ふれあいサロン)
- 2000年 8月～ 地域交流拠点(つどいの家)開設準備開始
- 2001年 4月～ 生きがい対応型デイサービスに係る事業開始
- 2002年 1月～ 高齢者・障害者・難病者に対する配食サービス開始
4月～ 灘北第2復興住宅コミュニティ作り支援(元気アップ活動)
- 2003年 1月～ 高齢者・障害者・難病者の移動及び送迎サービス開始
- 2004年 4月 NPO法人設立
6月～ 新在家南復興住宅コミュニティ作り支援(元気アップ活動)
8月～ 各復興住宅間の交流の場設定支援
10月 介護保険・支援費制度事業所認可

わたしたちの これから

震災10周年を迎えて

私にとって1995年1月17日は、忘れようにも忘れられない日です。

あの朝も、六甲山のふもとにある一王山十善寺に向かって早朝登山を日課としていました。

午前5時46分の地震体験は、今でもその光景は脳裏から離れることはありません…。

何秒かの地震で生と死に分かれ、生かされている自分が何が出来るかを見極め、相手の立場になって考えながら、生活支援と心のケアに重点をおきニーズに対応しながら活動を続けております。

震災で1番感じたことは、「自分がここに住んでるよ～！困ったとき助けて」とお互いが言える地域のコミュニティの大切さと災害弱者への見守りを中心にこれからも、高齢者・障害者への生活の質の向上に向けて、お1人お1人のニーズに対応し、社会資源をトータル的に考え、制度利用と制度枠外の中で息切れしない程度にボランティア活動もふくめ、NPOの役割を忘れること無く継続できるようスタッフ一同がんばりたいと思います。

特定非営利活動法人 ヤンヤンのうち

■ 所在地 〒651-1212
神戸市北区筑紫が丘3丁目7-6
■ 電話 078-583-6893
■ FAX 078-583-4377
■ URL
http://members.at.infoseek.co.jp/npo_yanyan/

[設立年月日] 1991年4月(団体発足) [会員数] 12名
2002年3月5日(法人設立)

[活動内容] 地域における障害者(児)と住民の交流を通じて共生社会を実現する



阪神・淡路大震災は、私たちに都市社会の脆弱さと、そこに住む人々の人間関係の希薄さを実感させてくれました。大きな災害は、障害者や高齢者など社会的弱者により大きくのしかかって来ました。日々の生活の中で、私たちは社会的弱者の存在に中々気付きません。また、自身がその立場になることを中々実感できません。私たちは、大きな災害の時だけでなく、日ごろからお互いに交流を持ち、お互いの存在を実感しておく必要があります。それが共に生きていく社会を創っていく第一歩だと考えています。

(代表世話係 李 義昭)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 2005年震災を読む見る
[実施年月日] 2005年1月17日
[実施場所] 障害者交流センター「ヤンヤンのうち」
[内容] 震災当時の新聞を読む、ビデオを見る

わたしたちの これまで

- 1991年 (財)こうべ市民福祉振興協会の福祉学級として発足
- 1992年 ユネスコライブラリー100により世界の子どもを理解するための子ども文庫開設
- 1994年 地域における健常児と障害児の交流・理解を目的に障害者交流センター「ヤンヤンのうち」開設
- 1996年 地域主婦ボランティアによるお話会開始
人形劇出張公演開始 兵庫県広報番組サンテレビ取材
- 1997年 地域小学校生活科「町たんけん」来訪開始
兵庫県「こうのとりの賞」受賞
- 2000年 兵庫教育大学において現役大学生と障害児(者)および親・支援者との交流講義開始
- 2002年 特定非営利活動法人「ヤンヤンのうち」設立
- 2004年 兵庫県社会福祉協議会H14年地域通貨実践事業により、ありがたいの気持ちを表すための地域通貨「100 yan yan」を発行(特)ヤンヤンのうち地域共生社会実現事業として、障害のある人も、お年よりも、子育て中の人も、子育てが終わった人も、現役で働いている人も、現役をリタイアした人も、大人も、子どももみんなが集まって、交じり合って、共に生きていける場所「共生塾」を開設



読み聞かせ



人形劇

わたしたちの これから

あの日から学ぶために

私たちは、大きな障害にぶつかった時に多くの事を学びます。阪神・淡路大震災は、まさにその時でした。人々は自然の脅威の前では、自分たちがいかに小さな存在であるかに気付きました。そして、障害者や高齢者、さまざまな困難を抱えている人々の大変さに気付いたのではないのでしょうか？ 私たちは、日々の生活の中で、障害のある人も、お年よりも、子育て中の人も、子育てが終わった人も、現役で働いている人も、現役をリタイアした人も、大人も、子どももみんなが集まって、交じり合って、共に支え合い、生きていくことをめざします。そして、お互いが学び、それぞれの人にそれぞれの困難がある事を知り、お互いの存在を認め実感したいと思います。そのような常日頃の交流こそが、人々の相互意識を深め、地域社会の活力を高め、人々が安心して暮らし、その人の夢が実現できる、そんな豊かな社会を創る原点なのではないかと考えています。

特定非営利活動法人 留学生ホストファミリー交流センター

■ 所在地 〒653-0835 神戸市長田区細田町7丁目1-9
神戸アジア交流プラザ(4F)内
事務局 神戸クロスカルチャラルセンター

■ 電話 078-646-7100
■ F A X 078-646-7200
■ E-mail kccc@gaea.ocn.ne.jp

[設立年月日] 1983年3月1日

[会員数] 1,500名

[活動内容]

・留学生1対ホストファミリー1の交流を核とする。(毎年春秋2回の対面式) ・ヨコの連帯感をつなぐ合同イベントー年4回ー ・留学生と市民の交流情報誌“こすもす”の発行(隔月) ・国際フォーラム、チャリティーコンサート、アジア映画の集い、児童館への留学生派遣 他 ・カウンセリング・サービス



あの大震災時、外国人(特に留学生)は被災弱者と捉えられがちであったが、大半の留学生(アジア諸国からの)は全・半壊した文化アパートや下宿から自力で脱出し、隣人の生存者の生き埋めからの救出、火災地の消火活動など身を賭して日本人市民と協力していた。彼らが口を揃えて“あの極限状態の中で混乱や略奪や虐殺もなかったばかりか、ぼくたち外国人にも差別なく人間同志として付き合ってくれた神戸市民はスゴイ!彼らと共にぜひ私達も神戸の復興に役立ちたい”と言ってくれた。私たちが長年目指してきた“多文化共生”はあの極限状況の中で築かれていた。

(代表 理事長 砂野 耕一)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名]

阪神淡路大震災10周年記念事業ー鎮魂から再生へー
＜被災留学生による語り部と癒しのコンサート＞

[実施年月日]

2005年1月30日(日) 13:00～16:30

[実施場所]

ピフレホール(神戸市長田区)

[内容]

“被災留学生による語り部”

被災しながらもそれぞれの立場で日本人市民と協力しあった体験を中国(2人)、韓国(1人)、ミャンマー(1人)、トルコ(1人)の当時留学生ー現在、日本で大学や病院で勤務中ー5人が語る。

“癒しのコンサート”六車智香の歌曲とイラン伝統楽器サントゥールの演奏をプーリー・アナビアン(イラン人)さんに託す。

阪神淡路大震災10周年記念事業
ー鎮魂から再生へー
被災留学生による語り部と
癒しのコンサート

**六車智香の歌う
歌曲の調べと**

演奏曲目
歌の唄に「モンゼラズゾーン」
私の大好きなお父様に「ブッシャーニ」
夢に生きたるに「ブッシャーニ」
アヴェマリア「マズルカ」
上を向いて参ろう 他

サントゥール演奏(イラン伝統楽器)
プーリー アナビアン

日時:2005年1月30日(日)午後1時30分開演
場所:ピフレホール(神戸市長田区) 1F「美し田舎」南側

前売券 2,000円 当日券 2,500円
留学生 1,000円 学生 1,500円 6歳以下 無料

主催 神戸市国際交流センター 留学生のホストファミリー交流センター
協賛 阪神・淡路大震災10周年記念事業推進協議会
後援 神戸市 兵庫県 兵庫県人権推進委員会
特別後援 中野力コンパニオン会 神戸市国際交流協会
特別後援 兵庫県国際交流協会

わたしたちの これまで

- 1983年 『留学生ホストファミリープログラム委員会』として設立 官学民一体の街ぐるみ支援体制
『事務局』を神戸YMCAクロスカルチュラルセンターに置く
- 1986年 第1回 神戸国際交流賞受賞 他に中内記念会賞(1985年)
国際交流ホスピタリティトラスト賞(1987年)
- 1989年 兵庫県社会賞と井植文化賞を受賞
- 1991年 湾岸戦争即時停戦署名3,500人集める
- 1992年 国際交流基金地域交流振興賞を受賞
創立10周年記念写真展『われら地球家族』
- 1994年 留学生のための「生活ガイドブック」発刊(4ヵ国語__日英中韓)
兵庫県婦人会館ユネスコ基金助成金を受賞
- 1995年 阪神淡路大震災で被災した留学生のための支援を募る(¥23,000,000)
留学生支援復興バザー
チェルノブイリ写真展(本橋成一氏)
- 1996年 被災留学生住居差額援助
シンガーソング・ライター浜田省吾氏よりのCDの印税(¥10,000,000)を活用
サハリン沖地震支援へ車椅子10台寄付(ロシア総領事館を通して)
- 1998年 日本国際教育協会「モデル推進事業」として選出される(¥12,000,000)3年間
国際コミュニケーション基金を受賞
- 2000年 特定非営利法人格(NPO)取得
「留学生ホストファミリー交流センター」と改称、新発足
- 2001年 文部科学大臣賞を受賞
- 2003年 4月事務局を担う『神戸クロスカルチュラルセンター』がYMCAより独立
新しい活動拠点『神戸アジア交流プラザ』に移転したのに伴い、神戸市長田区(現在地)に移転

わたしたちの これから

“多文化共生”を風化させず歩み始めよう

あの震災で私達はあまりにも多くのものを失った。が、得たものも大きかった。国籍、文化、年令などの差を越えて“共生”が生まれた。とくに長年 私達の活動の目標にあった“多文化共生”、人間同志としての協け合いが あの極限状態の中で芽生え、お互いを支え合うことが出来た。震災直後、大学を卒業して帰国した留学生たちも“この眼で神戸の復興を確かめなくては”と約束した5年後に10数人 神戸に戻り街の再生に安堵してくれた。しかし10周年を間近に迎える今日この頃あの震災時に発揚した“多文化共生”の熱い思いが風化しかけている危惧を覚える。居留地時代以来、神戸はどの都市よりも先駆けて多民族多文化共生の歴史があり、それが市民意識を水面下で成熟させてきた。少子化の進む日本が国の活性化を維持するために外国人労働者の受け入れが加速化する事を避けられないだろう。さあ震災時に発揚できた多文化共生都市の真の実現を目指して歩み出す時が来ている。

21世紀あしや生涯学習

■ 所在地 〒658-0051
神戸市東灘区住吉本町1-10-30

■ 電話/FAX 078-811-3949

[設立年月日] 1994年10月1日

[会員数] 10名

[活動内容]

震災直後から避難所の炊出し、仮設住宅のボランティア活動を経て、市民センターを拠点に市民主催の講座活動を継続中。



被災者の心のサポートをつづけながら思ったことは強い人間が弱者を助けるのではなく、常にボランティアとボランティアを受ける側との間に垣根を作らないことでした。目線は同じか、むしろ下に置くように心がけてきました。すべての経験が学習であって、ボランティアも私自身の生涯学習の一環と認識して今日に至りました。9年経た今もお互いに温かい心の交流がつづいている事を有難く思っています。

(代表 村尾 美恵)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 芦屋モダニズム文化の復興、震災追悼コンサート
- [実施年月日] 2005年1月14日 13:00～15:30
- [実施場所] 芦屋ルナホール
- [内容]
- 1部 講演 『細雪』とその時代～芦屋と阪神文化の復興
講師 武庫川女子大学教授 たつみ都志氏
 - 2部 パンフルート&シンセサイザー・ピア
フランス印象派デュオ Pan・des・deux、
ウオルティ・ブヘリ&ユキ
演奏曲目 G線上のアリア(バッハ)、
月の光(ドビュッシー)、
ボレロ(ラヴェル)他

日時 平成17年1月14日(金)
午後1時～3時半

場所 芦屋市・ルナホール(定員600名)
芦屋市東平町8-24
TEL 0797-31-4905
(芦屋市民センター受付)

参加費用 1,000円
(注: 上記は一般の参加費。被災者・ボランティアは無料)

主催 21世紀あしや生涯学習
(兵庫県ボランティア団体「くすのき」受託)

後援 兵庫県、阪神・淡路大震災10周年事業、
芦屋市、教育委員会

協賛 PONTEVECCHIO
コープデイズ芦屋

司会 司会者 2名
司会者 2名
司会者 2名

講師 講演 『細雪』とその時代～芦屋と阪神文化の復興～
講師 武庫川女子大学教授 たつみ都志氏
(15分)

演奏 パンフルート&シンセサイザー・ピア
フランス印象派デュオ Pan・des・deux
ウオルティ・ブヘリ&ユキ
演奏曲目: G線上のアリア(バッハ)、
月の光(ドビュッシー)、
ボレロ(ラヴェル)他

震災追悼コンサート

芦屋モダニズム文化の復興

お申し込み方法 往復はがきにて住所・氏名をご記入の上、下記宛にお申し込みください。

締切 12月30日(木) 当日消印有効

お申し込み先 〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町1-10-30
21世紀あしや生涯学習 事務局

お問い合わせ先 TEL 078-811-3949 (受付 9時～18時)

わたしたちの これまで

- 1995年 3月～5月末まで避難所(精道小学校)の炊出し、6月～翌年3月末まで高浜ふれあいセンター、仮設住宅(650戸)への支援
●5月5日子供の日開催●お花のプレゼント(650戸)●たそがれコンサート●七夕まつり●夏休み宿題おたすけ隊●8月夏祭り、夜店、盆踊り大会など●12月子供クリスマス●バレンタインデープレゼント650戸へ配る
- 1996年 ●3月3日ひな祭り行事●俳句会、短歌会など芦屋市民センターで生涯学習をテーマとする市民講座(哲学・自然科学・文学など)を開催
- 1998年 自然科学・文学など)を開催
- 1999年 7月9日「二年が過ぎて」冊子発行
- 2003年 1月3日馬頭琴コンサート
- 2004年 2月1日ルナホール操りと語りの青春 三原高校生の人形演劇上映

わたしたちの これから

あの未曾有の大震災から、まもなく10年目を迎えようとしています。前年に偶然、芦屋市の社会福祉課の支援によるボランティア講座を受講していた私たちでしたが、講座終了後(10月1日)にグループを結成し、いよいよ活動という矢先に、阪神・淡路大震災に遭遇しました。

避難所への炊出し、仮設住宅へのボランティア活動を経験して、その後は、芦屋市の市民センターを拠点に、「哲学・自然科学史・文学」などの教養講座を自主開催し、現在にいたっています。10年目の節目には、ルナホールで記念事業を開催しますが、その後は、これまで得た経験を生かして、地域への活動の輪を広げてまいりたいと考えています。ボランティア活動によって得たものは、これからの未来へよりつよく、前向きに人生を生きようというエネルギーとなっていることを、痛感しています。

■ 所在地 〒652-0054
神戸市兵庫区氷室町1-11-25 行守寺内
■ 電話 078-511-9691
■ F A X 078-515-2770
■ E-mail kyoshin@da2.so-net.ne.jp

日蓮宗兵庫県東部宗務所

[設立年月日]

宗教法人「日蓮宗」は、宗祖日蓮大聖人の立教開宗(1253年)を源とする。「日蓮宗」の公称許可(1876年)。兵庫県東部宗務所としては、宗務所規定の施行が1958年4月28日となっている。

[会員数] 寺院教会結社 70ヶ寺
教師数 110名
(2005年1月1日現在)

[活動内容]

当団体は宗教法人「日蓮宗」の地方事務所として、兵庫県東部管区の宗務行政を司る組織です。私たちのほとんどの寺院も地震によって全壊や半壊の大きな打撃を受けました。僧侶も1名亡くなり、檀信徒においては100名以上の物故者が出ました。しかし自らの寺院の復興や檀信徒の追善行事だけにとどまることなく、全国の日蓮宗の手助けをいただきながら、多くの物故者の供養と被災地区の復興祈念を中心に、活動を続けてまいりました。現在も「お題目で安らかに」をテーマに掲げ、被災地区の行脚と法要を毎年1月17日に行っています。



私たちの宗祖日蓮大聖人の代表的な著作に『立正安国論』という書物があります。そこにある冒頭部の著述描写は、まさに私たちが受けた阪神大震災直後の光景とまったく同じものです。なぜなら宗祖の述作の動機が、正嘉元年の鎌倉大地震にあったからです。その書物の中で宗祖は「天変地妖が頻発するのは、世の中の人心の乱れによるものである。釈尊の本当の教え『法華経』の精神、お題目の心によって初めて安穏な平和が訪れる」と、説かれています。私たち日蓮宗は、この宗祖の精神を受け継ぎ、黙祷だけで祈るのではなく、佛さまの救いの手が、お題目の力によって差しのべられる事を信じて活動を行っています。当団体の活動記録は、平成15年1月17日に『佛の御手を垂れ』という冊子にまとめました。
(代表 宗務所長 清水 教信)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 阪神淡路大震災物故者追善法要

[実施年月日] 2005年1月17日

①5:20～5:46

②14:00～15:00

[実施場所] ①中央区東遊園地雪地蔵前

②日蓮宗兵庫県東部宗務所(兵庫区氷室町・行守寺内)

[内容] ①については、当宗務所内の青年会(若手僧侶)を中心に、5:46に合わせて、東遊園地の雪地蔵前に於いて静かな読経の法要。

②については、震災後毎年行っている定例の法要。

2002年からは、宗務所で法要を行っている。一般参列可。



青年会を中心に雪地蔵前でお題目を唱える

わたしたちの これまで

※震災関連年表、日蓮宗と総本山久遠寺、東部宗務所の主だったものののみ記載(ボランティア関係の活動記録は省略)

- | | | |
|-------|-------|--|
| 1995年 | 1月17日 | 「阪神大震災日蓮宗救援対策本部」を宗務院に設置 |
| | 2月3日 | 身延山久遠寺、身延山病院医師ら医療班を派遣し、被災地の巡回診療。被災寺院の見舞 |
| | 2月15日 | 身延山久遠寺、震災物故者追善法要を行う |
| | 3月6日 | 日蓮宗、震災物故者七七日忌被災地唱題行脚(長田区～西宮市6コース) |
| | 4月25日 | 日蓮宗、阪神大震災物故者百力日忌法要(兵庫区・法蓮寺)
被災地唱題行脚(長田区～西宮市2日間6コース) |
| | 6月6日 | 青年会、被災仏具お焚き上げ(丹波市・本妙寺) |
| | 7月19日 | 兵庫東部青年会と九州日青と合同で被災地唱題行脚(市内3コース) |
| 1996年 | 1月17日 | 日蓮宗、阪神大震災物故者1周忌追善法要(神戸市中央体育館)
被災地唱題行脚(2日間市内3コース) |
| | 4月21日 | 兵庫東部護法運動本部、第28回護法大会「阪神大震災復興祈願大会」(神戸文化ホール) |
| 1997年 | 1月17日 | 兵庫東部宗務所、阪神大震災物故者第3回忌追善法要(灘区民ホール)
被災地唱題行脚(中央区・灘区2コース) |
| 1998年 | 1月17日 | 兵庫東部宗務所、阪神大震災物故者第4回忌追善法要(宝塚市・天光院)
被災地唱題行脚(宝塚市・西宮市3コース) |
| 1999年 | 1月17日 | 兵庫東部宗務所、阪神大震災物故者第5回忌追善法要(明石市・本松寺)
被災地唱題行脚(明石市・垂水区2コース) |
| 2000年 | 1月17日 | 兵庫東部宗務所、阪神大震災物故者第6回忌追善法要(長田区・泰信寺)
被災地唱題行脚(須磨区・長田区・兵庫区2コース) |
| 2001年 | 1月17日 | 兵庫東部宗務所、阪神大震災物故者第7回忌追善法要(兵庫区・法蓮寺)
被災地唱題行脚(長田区・兵庫区2コース) |
| 2002年 | 1月17日 | 兵庫東部宗務所、阪神大震災物故者第8回忌追善法要(兵庫区・行守寺)
青年会、市民の集い(中央区・東遊園地)参列と被災地唱題行脚(兵庫区) |
| 2003年 | 1月17日 | 兵庫東部宗務所、阪神大震災物故者第9回忌追善法要(兵庫区・行守寺)
青年会、市民の集い(中央区・東遊園地)参列と追善法要(兵庫区・妙法華院)並びに被災地唱題行脚(兵庫区) |
| 2004年 | 1月17日 | 兵庫東部宗務所、阪神大震災物故者第10回忌追善法要(兵庫区・行守寺)
青年会、市民の集い(中央区・東遊園地)参列と被災地唱題行脚(中央区・兵庫区) |



日蓮宗の活動記録をまとめた『佛の御手を垂れ』
(2003年1月17日発行)



毎年1月17日は被災地区を行脚している日蓮宗

わたしたちの これから

私たち日蓮宗兵庫県東部宗務所は、宗派に関係なく震災で犠牲となられた方々へ、法華経による供養と復興への祈りの活動を中心に行ってきました。これからも、これらは大切な活動として続けてまいりたいと考えています。しかしそれは、宗教者としては当たり前の行動にしかすぎません。しかし今、現実を直視したならば、平成16年の出来事を振り返っただけでも、数々の台風で土砂崩れや浸水の被害が各地で起こり、新潟に至っては私たちと同じ規模の大地震が直撃する等、自然災害は次々と発生し、10年前の私たちと同じような被災者が、たくさん生まれています。阪神大震災の被災地区としてお助け戴いたご恩返しのご気持ちから、経験を活かした復旧支援体制の組織作りをめざしています。なぜなら宗教は亡くなった方の供養の為だけにあるのではなく、こうした苦しみのある娑婆世界に生きる私たちを救う為にあるのですから……



日本イエス・キリスト教団 神戸中央教会

■ 所在地 〒652-0801
神戸市兵庫区中道通1-3-7
■ 電 話 078-576-2449
■ F A X 078-578-3213
■ U R L <http://www.kinpouden.com/kcc>

[設立年月日] 1946年12月1日

[会員数] 587名

[活動内容] 地域を愛し、地域に神の愛を伝え、地域社会の精神的向上と安定のために祈りを捧げている。



設立当初より、地域の平安と向上を祈り、神様の祝福があるように願い、宗教行事としての一般公開を原則とした礼拝を守ると共に文化講演やコンサートを開催して来ました。

教会が地域の方々の心のよりどころとなるように心掛けています。

(代表者 福田 勝敏)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 震災10周年記念礼拝及び記念会

[実施年月日] 2005年1月16日

[実施場所] 日本イエス・キリスト教団神戸中央教会

[内容] 1部 礼拝 聖書の中から震災に遭われた方々の慰めを祈り、神に祝福を求めます。牧師の説教と聖歌隊の賛美歌の合唱があります。
2部 記念会 震災体験者の体験談を聞きあの日を想い、共に励まし合う時を持ちます。



「しあわせ運べるように」を合唱する
教会の子どもたちを中心にしたメンバー

わたしたちの これまで

1996年 震災1周年記念礼拝、追悼記念会

1997年 震災記念礼拝

2004年

わたしたちの これから

地域に在る教会の役割

あの大震災の犠牲者は教会の在る地域にも教会に通う信徒家族にもありました。

当時を知る者たちの共通の認識は、教会が地域に何が出来るか、何をなすべきかと言う事です。

そこで、現在教会では10周年を期に災害時に教会がどのような対応をするべきかを検討し合い、マニュアル作りを作成しようとしています。

同時に、教会だから出来る事を考え、現代の世相を憂え、幼児期から命の大切さと自分自身を愛し、同時に他者を愛する事を聖書を通して教育して行く目的で、教会学校を地域に開催して行きます。

現在は中道通、上沢通、熊野町の3ヶ所で開催しています。

今後は、子どもたちに震災の記憶を継承させる事と人と人が愛し合い、助け合う事の尊さを教えられればと願っています。

日本基督教団 神戸栄光教会

■ 所在地 〒650-0011
神戸市中央区下山手通4-16-1

■ 電 話 078-331-2286

■ F A X 078-333-9484

[設立年月日] 1886年(明治19年)9月17日 [会員数] 594名

[活動内容] 聖書に基づいた福音宣教 教会活動 社会奉仕

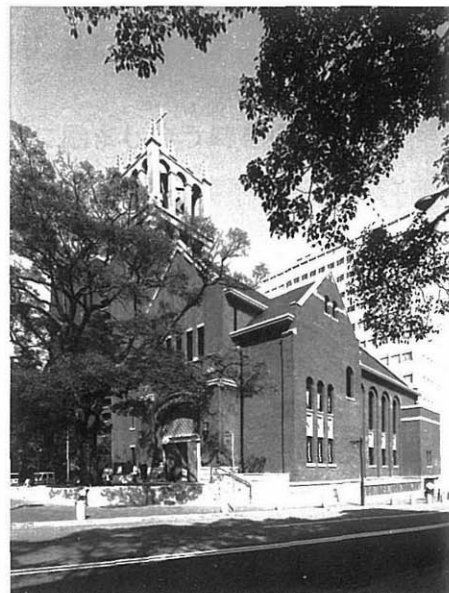


阪神・淡路大震災で神戸栄光教会員3人の方が尊い生命を失いました。そして、神戸栄光教会教会堂は倒壊しました。教会堂は1923年に建造されましたが、兵庫県公館と共に景観を構成して多くの方々に愛されてきました。その教会堂を再建するために10年近い歳月を要しました。再建に当たって心がけたことは多くありますが、その中の3つは次の通りです。

①兵庫教区が大切にしたい“地域の復興なくして教会の復興はない”を神戸栄光教会も大切にする ②震災に強い建物を建てる ③外観は震災で倒壊した教会堂のイメージを継承する。教会内外の多くの方々の支援を得て2004年9月30日に竣工しました。やっとスタートラインに立ったという思いです。
(代表 牧師 相浦 和生)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 日本基督教団兵庫教区主催 全逝去者記念礼拝
- [実施年月日] 2005年1月17日
- [実施場所] 神戸栄光教会
- [内容]
- ・キリスト教の礼拝。メッセージ「被災から10年・いま見えてきたことは」松蔭女子大学教授 勝村弘也氏 他に、被災教区の震災5年目の宣教に当たっての告白
 - ・1月17日人と自然の共存を祈る祈り
 - ・追悼演奏「今、この街に希望を」東神戸教会牧師 川上盾氏
 - ・賛美 あの日、きょう、あした(2001年こども追悼コンサートより)
 - ・献金 インドネシア・スマトラ島沖大地震(インド洋大津波) 災害被災者支援
- 兵庫教区被災者生活支援・長田センターの働きを覚えて
※神戸栄光教会は震災が発生した午前5時46分と、正午に塔の鐘を鳴らし、黙祷をささげました。



2004年9月に竣工した礼拝堂

わたしたちの これまで

団体設立以来の活動は119年にわたるので膨大になります。ここでは阪神・淡路大震災以降の活動についてのアンケートと理解しますが、年別には書ききれませんので活動内容を文章で記します。

阪神・淡路大震災が発生した1月17日の次の日曜日、即ち1月22日の日曜日、神戸栄光教会は教会堂が使えないのでパルモア学院講堂を借りて主日礼拝を守りました。未曾有の大地震で逝去された方々を追悼し、怪我をされた方々の回復をいのりました。と同時に、倒壊した教会堂の再建への決意が祈られました。3カ月後の4月、更地となった敷地にテントの礼拝堂を建てました。神戸栄光教会はこのテントの礼拝堂で8年間礼拝を守り、教会活動をいたしました。

教会堂建築計画は慎重に慎重を重ねました。また、募金活動は困難ではありましたが、教会員はもとより、日本基督教団、日本基督教団兵庫教区の諸教会・伝道所、そして国内外の方々のご支援をいただいて建築金額を満たすことができました。

神戸栄光教会が教会堂再建にかけた理由のひとつは、倒壊しなければ避難所としてご奉仕ができたのという思いです。完成した教会堂の基礎には狭い敷地に51本の杭が打ち込まれています。建物は耐震構造です。震災復興ですから当然のことかも知れませんが、あってはならないことですが、そのような時にはお役にたてればと願っています。



8年間使用したテントの礼拝堂



再建についての新聞記事

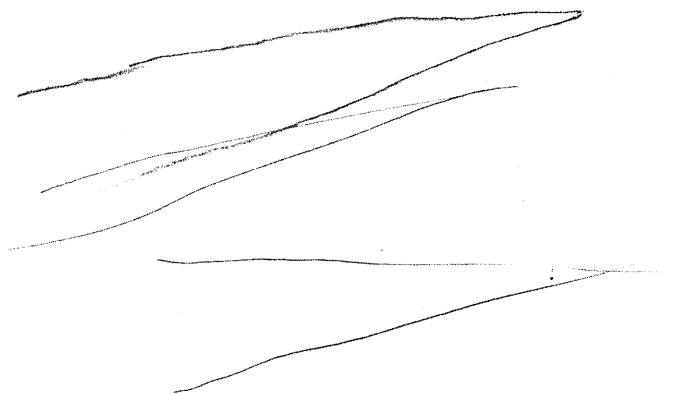
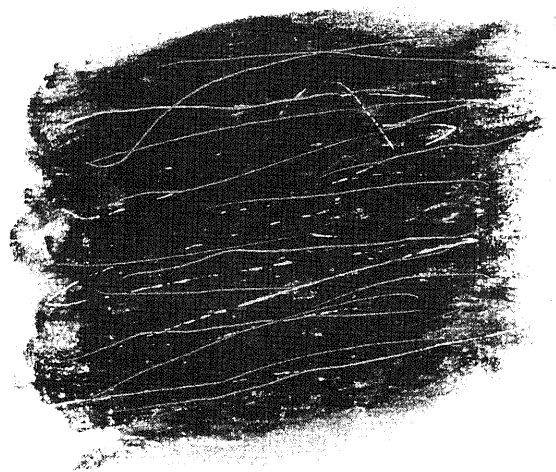


倒壊した礼拝堂

わたしたちの これから

震災によって失われた尊い命は二度と帰ることはありません。ご遺族の方々の悲しみが無くなることは決してありません。また被災によって大きく傷ついた心が簡単に癒されることもありません。被災地の町並みは一見復興したようには見えます。しかし、そうではありません。復興した側面と未復興の側面の間には大きな段差があります。阪神・淡路大震災10年目を迎えるに際して、わたしたちは復興した側面だけに心を注ぐのではなく、むしろ未復興の側面に思いを向けていきたいと思います。

神戸栄光教会教会堂は震災で倒壊した旧会堂も、再建した新会堂も多くの方々に愛されています。建物だけではなく、わたしたちはキリスト教信仰に基づいて人々の「魂の救い」「魂の安らぎ」に貢献できる働きをしていきたいと願っています。



繁栄自治会

■ 所在地 〒658-0012

神戸市東灘区本庄町1丁目2番14号

■ 電話/FAX 078-411-9335

[設立年月日] 1966年4月1日

[会員数] 1,300世帯(約3,000人)

[活動内容]

自治会地域内の生活環境の整備、コミュニティづくり、美化運動、交通・防犯活動、福祉活動等



阪神淡路大震災では、一自治会として大変多くの犠牲者(犠牲者98名・家屋の全半壊1,190戸46%)を出してしまった地域であることを深く反省し、平成7年2月20日には、繁栄自治会と遺族との合同慰霊祭(65名)を実施、平成9年3月17日には宝島池公園に慰霊碑を建立し98名の御霊をお祀りし、毎年追悼慰霊祭を挙行しています。

なお、犠牲者の気持ちや被災の現状を後世に残したいとの想いで記念誌を作成し銘板を設置しました。

(代表 佐野 末夫)

阪神・淡路大震災を体験して

昭和56年度(1981)に、繁栄自治会副会長として自治会活動に参加させて頂き、それ以来、自治会活動の重要性を学び、人と人の輪を大切に、皆さんのご協力を得ながら、地域活動に邁進してまいりました。

ふと、振り返ってみると20数年が過ぎようとしています。この間、会長として20年間、繁栄自治会地域の人々に何ができたのだろうか。

まずは、平成7年1月17日午前5時46分に地を裂くような阪神淡路大震災。未曾有の恐怖を体験し、地域の崩壊を目のあたりにした時は、何がなんだか判らない内に、東灘区役所まで自転車を飛ばし区長に地域の現状を報告したことを今でも思い出すことがあります。

あの時は、本当に「何もいらない、命さえあれば」と、皆がそのように思われたのではないのでしょうか。

ちょうど、連休明けで仕入れの為に、目をさまし起きようとしていた矢先の午前5時46分、不気味な地鳴りとともに身体の伝わって来たあの振動。一瞬にして地震だと、頭からふとんをかぶったその瞬間身体が宙に舞うような気がするとともに、屋根瓦の落ちる音、物が倒れる音などで、何がどのようになったのか判らなくなっていました。

長い地震だと思ったが、あれで20秒だったとは。地震がおさまったので電気を付けようと思い手を伸ばしたがスイッチがありません。部屋は真っ暗でした。家内が1階に降りていたので、大声で安否を確認し「絶対外に出るなよ」と言って手探りで1階に降り、真っ暗な中で服を着ていると、「火事だ」と言う叫び声が外から聞こえ、取急ぎ消火器を持って外に出ましたが、もうその時には、火の手は2～3軒隣まで来ていました。

消防署に連絡をしなければいけないと思い、家の中に入りいつも置いている電話機を探したが見当たりません。急いで近くの公衆電話まで走ったが、カードでは電話が通じなかったし、連絡のしようが無いために、単車で走っていた若者に、消防署まで行って「本庄町1丁目が火事やと連絡してほしい」と頼んだところ、「OK」と言って走ってくれました。

火は勢いを増して、次から次へと炎が移り、次は我が家が炎に包まれる番となったが、一向に消防車のサイレンが聞こえません。「消防署はなにしとるんや」待つ時間の長さや燃え広がる時間の早さ、何もせずに見ているしか無かった悔しさ。

その間にも1階部分が潰れている家の人たちを救い出すこともできた。火災が近隣を燃やし尽くしたのが6時50分頃だった。周りは少し明るさが差して来ていました。

その時になって、やっと周りを見ることができた様な気がします。気がつくとも木造住宅がぺちゃんこになっているのでは無いですか。

これは大変と思ったのがその時です。店が市場にあるので、急いで市場まで行って、又びっくり、長屋的市場が横倒しになっているではありませんか。市場の人たちとも声を掛け合い無事を確認するころには、近所の人々が寄り集まって、家屋の中から人を助け出す風景も目のあたりにするようになりました。

これはいけないと思い、区役所に自転車で駆け付けたところ、区長と係長しか来ていなくて、ただ地域の情報をお伝えするだけの状況で、再び市場に帰って来たのが、10時頃だった。

自治会の中がどのようになっているのかを見て廻るのに、家屋は道路にまではみだして倒れ、電柱は横倒し道路を塞いでいるので歩いて廻るしかなく「家の中の人に声をかけてあげてね」と頼みながら廻ったような気がします。

12時前に東灘小学校に行くと、避難者のみなさんが次々集まり、不安を隠しきれない表情で校庭に集まっていたのが印象的です。

学校も校舎の中の教室は地震で金魚鉢の水が散乱し、金魚が床を這い回っているような現状で、机や椅子を片付けながら避難者の人たちに入って頂きました。(当時も学校施設開放委員)

夜になって、道路の交通整理(地域の交通指導員を委嘱されていた)をしながら、感じたのが寒さでした。足の爪が痺れて感覚がありません。その時はじめて寒さを感じ、校庭で焚かれている火のそばに足を投げ出したことまでは覚えています。

私が当繁栄自治会長として関わらせて頂いた時が、昭和60年で、丁度自治会発足20年目を迎えることとなり、簡単な20周年記念誌を創ったり、神戸港に船を浮かべて納涼大会をやったことを思い出しています。

自治会活動とは、何をすればよいのかも判らない内に、はちまきを締めて走りだした感があったと思いますし、今もって手探りのままの活動しかできない不甲斐無さを実感しています。

私は、総会などで、常に申し上げていることは、隣近所が仲良くコミュニケーションがとれる地域づくりにしていきたい、これは、地域社会を形成して行く原点であると信じています。

幼児虐待や青少年の問題も隣近所がスクラムを組むことで守られていくのです。それが「相互扶助精神」の根源だと思います。

震災後、当自治会内に来られた方も、以前からこの地域にお住まいの方も共に手を取り合って、明るく楽しい日々を送れるように、ちょっとだけ我慢するところは我慢して、住みよい地域づくりに互いに協力しあうことが大切だと信じています。



1.17震災時に火災が発生し焼失した家屋



平成9年3月17日に建立された慰霊碑

阪神・淡路コミュニティ基金

[設立年月日] 1996年5月21日

[活動内容] 震災復興ボランティア団体に対する資金助成



阪神・淡路コミュニティ基金は、当時のパンフレットの文言のとおり、「被災市民の自立のため緊急援助活動を支援するとともに、広く新しい市民社会の建設に向けて先駆的・実験的な民間公益活動に取り組む市民グループ・ボランティアグループを支援することより、いわば新しい社会の仕組みづくりのお手伝いをする」ことをめざしていた。（代表 今田 忠）

わたしたちの これまで

1996年 ボランティア団体等に対する助成金100件、5億3162万円、各種イベントに対応する協賛金82件、1,348万円
1999年

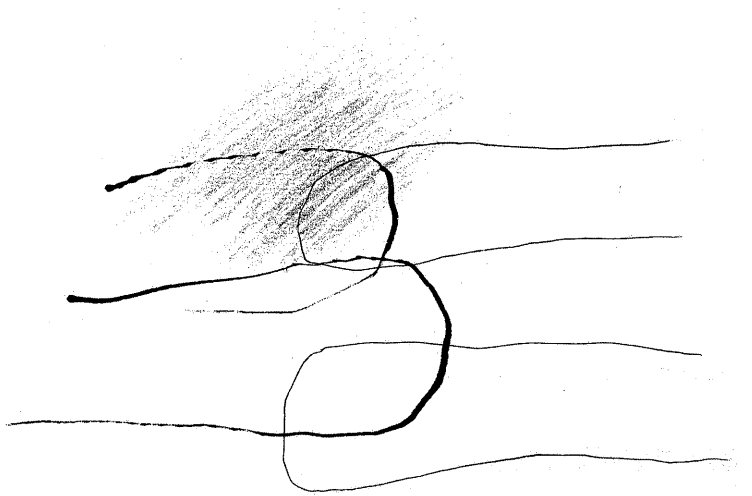
1997年 NPOマネジメントスクールの開催 兵庫県、コミュニティサポート・センター神戸と共催
1998年

1997年 公開シンポジウム「市民社会構築に向けて
NPOの果たす役割」カレル・ヴァン・ウォルフレン、
出口正之、倉光弘己、本間正明、星野昌子各氏
市民活動制度連絡会、NPO研究フォーラムと共催

1999年 5月6日 解散



阪神・淡路コミュニティ基金設立記念発表



阪神・淡路大震災犠牲者11回忌 御菅地区合同慰霊法要実行委員会

■ 所在地 〒653-0014
神戸市長田区御蔵通5-92-2-101
■ 電 話 078-578-1100
■ F A X 078-576-7961

[設立年月日] 2001年6月

[会員数] 300世帯

[活動内容]

1995年の阪神・淡路大震災で、当自治会は活動停止を余儀なくされ、解散状態が続いていました。住民が復興に取り組む中で、2001年6月、自治会を再建しました。以来、住民の交流事業として、盆踊りや餅つき、防犯活動、まちの清掃、公園管理、自治会館の建設、運営等に取り組んでいます。自治会再建以降は慰霊祭実行委員会を中心として慰霊祭も取り組んでいます。

震災では地区全体が甚大な被害を被り、多くの犠牲者も出ました。自治会という住民のコミュニティの中心としての組織を再建して以来、震災の教訓を生かしたまちづくりに取り組んでいます。なにより、住民を助けたのは住民という教訓を大切にし、お互いに助け合えるまちを目指しています。そのために自分たちでできることは自分たちであることを基本にまちづくり、コミュニティづくりに取り組んでいます。
(代表 柴本 宏幸)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 阪神・淡路大震災犠牲者11回忌御菅地区合同慰霊法要
[実施年月日] 2005年1月16日 10:00～
[実施場所] 御蔵北公園(神戸市長田区御蔵通5丁目)
[内容] 慰霊法要 焼香 法話

[行事名] 1.17ろうそくによる追悼行事
[実施年月日] 2005年1月17日
・1回目 5:00～ ・2回目 17:00～
[実施場所] 御蔵北公園
[内容] ペットボトルに立てたろうそく1000本を
配置し、参列者による点灯、黙祷、焼香を行う



ろうそく法要

わたしたちの これまで

1996年	1月17日	阪神・淡路大震災犠牲者1周忌御菅地区合同慰霊法要(御蔵通4丁目菅原市場跡地)
1997年	1月15日	阪神・淡路大震災犠牲者3回忌御菅地区合同慰霊法要・鐘楼流し(御蔵小学校)
1998年	1月17日	阪神・淡路大震災犠牲者4回忌御菅地区合同慰霊法要(御蔵通4丁目菅原市場跡地)
1999年	1月17日	阪神・淡路大震災犠牲者5回忌御菅地区合同慰霊法要(御蔵通4丁目菅原市場跡地)
2000年	1月17日	阪神・淡路大震災犠牲者6回忌御菅地区合同慰霊法要(御蔵北公園)
2001年	1月14日	阪神・淡路大震災犠牲者7回忌御菅地区合同慰霊法要(御蔵北公園)
	1月17日	ろうそくによる追悼行事(御蔵北公園)
2002年	1月14日	阪神・淡路大震災犠牲者8回忌御菅地区合同慰霊法要(御蔵北公園)
	1月17日	ろうそくによる追悼行事(御蔵北公園)
2003年	1月13日	阪神・淡路大震災犠牲者9回忌御菅地区合同慰霊法要(御蔵北公園)
	1月17日	ろうそくによる追悼行事(御蔵北公園)
2004年	1月17日	阪神・淡路大震災犠牲者10回忌御菅地区合同慰霊法要(御蔵北公園)
	1月17日	ろうそくによる追悼行事(御蔵北公園)

わたしたちの これから

多くの犠牲者が出た当地区は、今後もできる限り毎年の追悼行事を継続したいと思っています。犠牲者の御霊に応える為にも、また震災の教訓をこれからのまちづくりに生かす為にも、続けることが大切だと考えています。

11回忌に際しましては、ご遺族の方が声を掛け合ってご参加頂けることになりました。今後も多くのみな様にご協力いただける体制を作り、震災を語り継ぐ大切な機会にします。

また、慰霊祭当日だけでなく、若い世代の方々にも被災地の現実を伝える場として、全国の学校から修学旅行や研修で当地区においで下さる学生のみな様にも被災者自ら積極的に震災の事実を伝える取り組みを今後も続けて参ります。

■ FAX 078-371-5789

わたしたちの これまで

- 2000年 国連社会法規的委員会へ要請でスイスに行く 3月政府・国会への要請のため上京 8月政府要請に上京
2001年 兵庫県、神戸市などが追悼式をとりやめる事になったので、それでは市民の手でやろうと、HAT神戸
脇浜公園集会所で第1回手づくり市民追悼式を行う 参加400人
2002年 国連顧問を招いて被災者の人権を守る集まりを実施 第2回手づくり市民追悼式を神戸市勤労会館
大ホールで行う
2003年 第3回手づくり市民追悼式を神戸市勤労会館大ホール 5月—政府、国会へ要請行動
12月から財務省へ陳情



街頭募金とチラシ宣伝一行動する老人集団—

わたしたちの これから

運動のさらなる持続を

震災で全てを失ったとき「助かった命、皆で生きよう」と人々は優しく思いやりがありました。一枚の毛布を掛合って寝ました。しかし、日がたつにつれ「どうやって生きよう」「家や仕事は？」と不安が日毎に大きくなりました。こんな時、国や行政の力強い支援を期待しました。「個人財産は補償できない」国の一言は立ち上がろうとする被災者を、打ちのめしました。弱肉強食の危険さえありました。仮設住宅の暮しで被災者は思いやりと協力を取りもどしました。孤独死や栄養失調死に無念の涙を流しました。

復興住宅の暮しも高齢者には、安穩なものとはなりません。孤独死381人(自殺50人)—1998年—2004年10月—家賃が払えず強制退去もふえています。震災で受けた市民の傷は10年20年で消える事はないのです。これからも地道に被災者運動を続けます。被害を少なくするために。

阪神大震災を記録しつづける会

■ 所在地 〒651-2242

神戸市西区井吹台東町1-10-10

■ 電 話 078-992-1890

■ F A X 078-997-0159

[設立年月日] 1995年2月23日

[会員数] 50名

[活動内容]

阪神大震災の一次及び二次災害とその後遺症や復興の記録を収集する。その成果を本の出版とホームページによって発信する。



被害の大きさや文章のよしあしではなく記録としての価値を基準にして選抜しました。

手記には筆者が自己責任でプライバシーを開示するという性格があります。市井の人々の個別的、具体的な体験記は「未来の被災者」への分かりやすく共感しやすい教訓になるのではないかと考えます。

(代表 故高森 一徳)

※高森さんは2004年12月6日、最終巻の出版を目前に急逝されました。

代表は香都子夫人に引き継がれました。謹んでご冥福をお祈りいたします。(事務局)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 震災体験手記集 最終巻(第10巻)『阪神大震災から10年
未来の被災者へのメッセージ』の出版

[実施年月日] 2005年1月10日

[実施場所] 兵庫県民会館(福の間)

[内容] 出版記念会(本の出版は2004年12月下旬)



出版記念会

わたしたちの これまで

- 1995年 第1巻『阪神大震災 被災した私たちの記録』出版
1996年 第2巻『阪神大震災 もう1年、まだ1年』出版
1997年 第3巻『まだ遠い春 阪神大震災3年目の報告』出版
1998年 第4巻『今、まだ、やっと 阪神大震災それぞれの4年目』出版
1999年 第5巻『阪神大震災 私たちが語る5年目』出版
2000年 第6巻『阪神大震災 2000日の記録』出版
2001年 第7巻『阪神大震災 7年目の真実』出版
2002年 第8巻『阪神大震災体験手記 記憶の風化と浄化』出版
2003年 第9巻『阪神大震災体験手記 記録と記憶』出版



既刊9巻

わたしたちの これから

未来の被災者へのメッセージ

この10年間に収集した手記データを、英語・中国語・朝鮮語に翻訳し世界へ発信する。

寄せられた1134編中、106編は外国人からの投稿。外国の人には同国人の記録が、共感しやすいし、興味を持てるはずです。

姫路こころのケアネットワーク

■ 所在地 〒671-2223
姫路市青山南3丁目12-15
■ 電話/FAX 0792-66-3529
■ E-mail ANA75727@nifty.com

[設立年月日] 1995年4月1日

[会員数] 15名

[活動内容]

(元)姫路仮設住宅で戸別訪問(こころのサポート) (元)姫路仮設住宅在住者とのふれあい交流会 神戸市長田区内(2ヶ所)でふれあい絵てがみ教室 被災児童とこのころの広場事業 子育て支援(セミナー・遊び・イベント等) 防災学習支援



私は阪神淡路大震災の翌日に給水応援のため被災地(芦屋市)に入りました。未曾有の被害に心が凍りつきました。ボランティア経験のない私でも自然にからだ動き日中は給水応援、夜は避難所でこころのサポートをしていました。ただひたすら話を聴き悲しみを共有しました。この時の経験がその後の活動にいかされています。

日常生活では出会えない諸問題に立ち向かい縛れた糸を解していく中でボランティアの不思議な魅力に取りつかれました。活動は危機介入の連続で緊張感もありました。

今後は、体験と実践から学んだことを地域社会で伝え、関係者と協力しながら活動していくことが私の責務と思います。フットワークの良さと何事にも関心を持つように心掛けていきたいです。

私達の活動はマイノリティーですが、活動から知り得た情報を積極的に情報発信し一人でも多くの賛同者を得るよう努力していきたいです。

「自分達の出来ることは自分達の出来る事だけ」と今後も無理せず拘りを持って被災者とのふれあいと子育て支援を主活動にしていきたいと思っています。(代表 岸岡 孝昭)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 神戸の街からありがとう
[実施年月日] 2005年1月11日～1月22日
[実施場所] 神戸市長田区御蔵通5・6・7丁目集会所
[内容] 神戸市長田区御蔵ふれあい絵てがみ教室生の作品集から「神戸の街からありがとう」のメッセージで絵てがみ展をする。また、他の教室生にも呼びかけ10年目を迎えた思いをメッセージにして協働作品展をする。



絵てがみ展

わたしたちの これまで

- 1995年 仮設住宅で安否確認、生活相談、環境整備を仮設閉鎖まで継続する 季節にあったイベントの開催(夏祭り・餅つき・年越しそば等) 2ヶ所の仮設住宅で自治会を立ち上げる 地域自治会とのふれあい交流会・子どもたちへこころの支援
1996年 コミュニケーションを考慮した様々なイベント開催 忘れられた仮設住宅の実情を積極的に神戸で発信する 季節にあったイベントを実施・住民主体の自治会を側面的に協力

- 1997年 行政に先駆けて復興住宅説明会(3ヶ所)行政に先駆けて復興住宅見学会 (2回) 専門家を交え勉強会の開催(こころのケア・アルコール依存症等々)地域の学生ボランティアと連携した支援活動
- 1998年 厳しい仮設住宅環境で毎日戸別活動 季節にあったイベント(餅つき・コンサート・クリスマス会等)環境整備のためにプランターに季節の花一杯運動の展開 取り残される住民に復興住宅募集説明会 姫路市内唯一の復興住宅(30戸)で餅つき大会
- 1999年 1月17日姫路市玉手仮設住宅で追悼祈念イベントお別れイベント・引越しボランティア 引越し者へ「お元気ですか?」と絵てがみによるふれあい通信 神戸市内の児童館でふれあい子育て支援
- 2000年 引越し者へ「お元気ですか?」と絵てがみによるふれあい通信 神戸市内の児童館でこころの広場事業 HAT神戸でふれあい交流会・復興住宅引越し者へ戸別訪問活動
- 2001年 親子ふれあいサマーキャンプ・HAT神戸でふれあい交流会 長田区内の被災児童とこころの広場事業 神戸市長田区内で毎月1回ふれあい絵てがみ教室
- 2002年 神戸市長田区御蔵で絵てがみ展・「親子自然ふれあい体験学習」バリアフリー絵本展&講演会 わくわく子育てセミナー毎月1回(12回シリーズ) 神戸市長田区内で毎月1回ふれあい絵てがみ教室 神戸市内の児童館でこころの広場事業・HAT神戸でふれあい交流会
- 2003年 神戸市長田区内で毎月2回ふれあい絵てがみ教室【打って・食べて・見て体験しよう】被災児童のこころの広場事業 わくわく子育てセミナー毎月1回(12回シリーズ) HAT神戸でふれあい交流会・神戸市内の児童館でこころの広場事業
- 2004年 わくわくちびっ子自然体験(3回シリーズ) 神戸市長田区内で毎月2回ふれあい絵てがみ教室 わくわく子育てセミナー毎月1回(12回シリーズ) 児童養護施設で毎月1回アートセラピー



1996年4月
姫路市玉手仮設住宅での戸別訪問



1997年1月 子どもを対象にしたこころのケア風景

わたしたちのこれから

地域に目を向けて

私達のグループは、阪神淡路大震災の被災者支援のために立上げ、活動拠点は姫路市内の仮設住宅でした。最後の一人が復興住宅へ退去(1999年7月24日)するまで戸別訪問、こころのサポート、季節にあったイベントと様々な活動を展開してきました。活動から学んだ貴重な体験を仮設住宅閉鎖後、子育て支援活動を通じて地域で実践しています。2000年4月から毎月1回産婦人科病院の協力を得て「わくわく子育てセミナー」という溜まり場づくりをしています。託児ボランティアとして地域の高校生とプラチナ年齢と幅広い人たちの協力を得ています。2001年4月からは児童養護施設で毎月1回「ふれあい絵てがみ教室」をとおして子どもたちとの関りを持っています。毎回新発見の連続で子どもたちから元気をもらっています。同じ時期に小さなコミュニティーを対象に遊びを中心にした活動もあります。毎回就学前児童家庭を訪問しチラシを手渡します。社会資源及び地域ボランティアとの連携、戸別訪問活動による顔の見える関係づくりと活動から出会った人との情報交換は実践の一つです。

中播磨地域は、地縁ネットワークは誇れますが、関心ネットワークは弱く「個」としての活動にはバリアーがあり、こころ痛む時があります。障害があっても「あの時(仮設住宅)」の熱い思いを忘れず、地道に子育て支援を中心にした活動を続けて行きたいと思っています。

「聴くことから始まるボランティア」が私たちのスタイルで、関心のある人はご協力をお願いします。

[設立年月日] 1995年10月1日

[会員数] 10名

[活動内容] ○ ボランティアコーディネーター ○ 相談業務 ○ 地域活性事業協

○顔の見える関係 ○場の共有 ○相互益

方針は依頼の件があったとき互いに拒否権ありの世界です。出来ること出来ないことを詰めて行き一つずつ解決して活動しています。

(代表 ^{すがのきいち}菅野喜一)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] ありがとう 長田っ子コンサート(実行委員参加)
[実施年月日] 2005年1月17日
[実施場所] 駒ヶ林中学校
[内容] 佐渡裕氏の指揮で長田区6中学校吹奏楽部129人の
合同演奏会
ゲスト:五木ひろし氏、高石ともや氏

わたしたちの これまで

- 1996年 8月3日(土) 子ども歌舞伎が長田にやってくる
南光町子ども歌舞伎クラブ,朝鮮初中級学校,ぐるーぷour・KOBÉ, 陽泉会,玉城流玉扇会子ども会(防災コミュニティーセンター)
- 1997年 10月26日(日) 企画 渡辺和子さんが語る「愛をこめて生きる～一人一人が人生の旅人」
(コープこうべ生活文化センター)
10月26日(日)～11月9日(日) 沖守弘氏の「マザーテレサ写真展」マザーテレサ死去 (新長田図書館)
- 1999年 1月17日 冷たいけど心の温かい贈り物によって集い癒しの場創り「神戸に十勝岳の雪がやってくる！」
市立葺合高等学校すぎな会, 県立神戸商業高等学校生徒会, 吹奏楽部, 私立神戸常盤女子高等学校ボランティア部, 愛知県私立弥富高等学校有志, 聖ラファエル幼稚園 約80人の高校生の運営で雪, 雪だるまとジャガイモを通行人に配布(三宮駅前 フェニックスプラザ前)
11月 神戸に北海道十勝岳山ろく野菜村より34箇所ジャガイモプレゼント
- 2000年 1月17日 兵庫区浜山小学校に北海道十勝岳山ろく野菜村より 雪と雪だるまのプレゼント
6月13日(日)～26日(日) 宮崎幸子の絵画展「小指と薬指の描く夢」(コープこうべ生活文化センター)
- 2001年 1月17日 新長田駅ピフレ前広場に北海道十勝岳山ろく野菜村より雪と雪だるまのプレゼント(新長田駅前)
- 2002年 1月17日 兵庫区小河保育所に北海道十勝岳山ろく野菜村より 雪と雪だるまのプレゼント
- 2003年 1月17日 兵庫・大開小学校に北海道十勝岳山ろく野菜村より 雪と雪だるまのプレゼント
- 2004年 6月～8月 震災10年「死を通して学ぶ生き方」連続講座(神戸福祉交流センター)
講師 6月 なごみの里代表 柴田久美子氏
7月 関西学院社会学部助教授 藤井美和氏
8月 六甲病院緩和病棟チャプラー 沼野尚美氏

わたしたちの これから

活動の基本

- 「貴方のこと気にしてますよ」と伝えること
 - 表情がある町(あそこへ行けば何かが有る)
 - 地域福祉から地域看取り社会へ
- この3点を活動の基本にしています。

わたしたちの これまで

- 1995年 2月18日 フォーラム『みんなできりひらこう震災復興』(神戸海員会館)
3月17日 『みんなできりひらこう震災復興』発行
6月17日 『論集 震災復興への道』発行
10月14～15日 『「災害・人間・復興」全国交流集会』(神戸市産業振興センター)
機関紙『震災研究センター』発行(2004年現在No.110まで発行)
- 1996年 5月17日 『生活再建への課題』発行
10月17日 『大震災と人間復興』発行
- 2000年 5月17日 『大震災いまだ終わらず』発行
- 2001年 4月 会員制に移行
- 2002年 10月17日 『大震災100の教訓』発行
- 2005年 1月17日 『大震災10年と災害列島』発行
1月17日 『LESSONS FROM THE GREAT HANSHIN EARTHQUAKE』発行

わたしたちの これから

引き続き、被災者救済策の充実に取り組みます

大震災から10年経って、この国は被災者救済策として「被災者生活再建支援法」による生活支援金の支給と「居住安全支援制度」をつくったのみである。被災者救済策を拡充していく課題は大きくて重いものである。

被災を体験した人間として、この課題に引き続き取り組み、全国の災害対策に寄与していきたい。

兵庫県被災者連絡会

■ 所在地 〒652-0834
神戸市兵庫区本町1-1-18
■ 電話 078-651-0259
■ F A X 078-682-9045
■ E-mail honmachi@xmail.plala.or.jp

[設立年月日] 1995年2月12日

[会員数] 事務局10名と支援者40名程で運営
全ての被災者が会員と考えている

[活動内容]

1995・1・19兵庫区の本町公園避難所設置より、3百余名の避難生活を守る発言と要求行動の中で、被災者の救済と生活再建を第一義としない政治と行政の本性を見た。以来、生活再建と被災地の真の復興を求める発言と要求行動を続ける。避難所・仮設住宅の実態調査と生活環境整備要求及び追い立て阻止並びに救援物資届け、仮設・復興住宅の建設と入居への提言、災害救助法の徹底適用要求が当初の主たるものであった。以降は前記事項に加えて日常的に、住居・生活保護・多重債務等の相談と対処、連帯と抗議の集い開催、兵庫県や神戸市等行政への要求・提言・申し入れなどを続けている。

“千年に一度、未曾有の大惨事！行政の力の限界を超えている”というのが、政府と被災地自治体の逃げを如実に示す考えであった。

“大自然への畏れと共存。命と人権尊重”が政治・行政の基本理念に欠落していたことが災害の原因の一つであり、被災者の生活再建を阻害している要因であると言わねばならない。連続する大災害の被災住民が声を挙げ、人々の知恵と力を寄せ合い流れを変えていこう！
(代表 河村 宗治郎)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

- [行事名] 1・17追悼・連帯・抗議の集い
- [実施年月日] 2005年1月16日～17日
- [実施場所] 神戸市役所1号館2号館前一带
- [内容] 16日(日) お焼香 献花 記帳 5:00～19:00
展示コーナー(10年目の実態など) 11:00～16:00
シンポジウム“大震災の教訓とは” 13:00～18:00
発言者 鎌田 慧さん他
甘酒 ぜんざい(無料) 11:00～18:00
17日(日) お焼香 献花 記帳 5:00～19:00
展示コーナー(10年目の実態など) 11:00～16:00
ステージ 13:00～18:00
発言 歌 演奏
甘酒 ぜんざい(無料) 11:00～17:00

わたしたちの これまで

- 1995年 1月19日、兵庫区の本町公園にテントを50張設置し『本町公園避難所』を立ちあげ、長期覚悟の避難所生活に入る避難生活を守る諸作業を始める。 2月12日、『兵庫県被災者連絡会』を結成、神戸市長への要望書作成。 2月14日、神戸市長へ前記要望書提出(後に、無視したことを知る)。 避難所での生活保護受給につき県及び神戸市と交渉(11月に実現)。 2月末から3月中旬に避難所実態調査実施。結果を受け、神戸市長へ申し入れ。 要求に止まらず支援施策への提言として、県及び神戸市へ繰り返し申し入れた。 県の対応には多少の前進が見られたが、神戸市は一顧だにしないと言うべき対応であった。 避難所の使用期限・仮設住宅の建設地・避難生活への生活環境条件整備等の諸要求に、言を左右に応じようとはしなかった。 6月16～18日、市役所泊り込み抗議。 8月14日、災害救助法適用打ち切りによる『避難所閉鎖、待機所設置』方針への抗議と交渉。 15日、『一切の交渉を拒否する』との文書掲示。 交渉は完全に決裂した。市役所1号館前にテントを張り、昼夜を問わない抗議態勢に入った。 旧避難所との呼称になった避難所と待機所への訪問を強化し、避難者の生活支援に努める
- 1996年 1月初旬、市役所から「誠意を以って話し合いをするので、テントを除けて欲しい」との申し入れ、交渉再開が保証されるなら、16日に撤収した。以降内容は別に交渉拒否は起こっていない。しかし問題は矢張り内容である。再起を求め、情報伝達・相談・物資配布等、避難所と仮設住宅訪問を続けた。避難所・仮設住宅・公営住宅暫定入居・民間住宅一時入居・復興住宅入居について、被災者の選択権を認めよと要求し、県から『認める』との確答を得た。 自立支援金支給に当り、仮設住宅居住者には支給しないとの県の方針を11日間に及ぶ県庁泊り込み抗議行動の結果、一部支給が実現した。 7万円の家賃補助による民間住宅一時入居制度を引き出したのもこの頃であった。 神戸市前野助役との交渉で『今後とも、被災者の生活再建支援を続ける』との回答を得たので、00年4月22日に本町公園避難所を閉じ撤収した
- 2000年 生活再建のための「よろず相談」開設。 生活保護受給、多重債務、家賃滞納による住居明け渡し請求等々相談は増え続ける。相談に乗ることは、解決をさせることでもある。 何の希望も楽しみも無く、ただ「お迎えを待つ」姿をそのままにしてはならない。『命と人権』のために努め続ける
- 2004年

年	簡単な内容(行事名、実施日、実施場所)	
1995年	3月19日 被災地の集い”一気に一揆”	東遊園地
	12月17日 ”地震 年越しまつり”	神戸市役所前
1996年	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	3月17日 ”3・17 地震まつり”	同
	8月17日 ”地震 怒りのまつり”	同
	5月20日	
1997年	12月15日 ”地震 年越しまつり”	同
	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	8月17日 ”地震 まつり”	同
	12月23日 ”地震 年越しまつり”	同
1998年	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	8月23日 ”地震 まつり”	同
	12月23日 ”被災地年越しまつり”	同
1999年	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	8月22日 ”8・22 被災地の集い”	同
2000年	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	8月20日 ”8・20 被災地の集い”	同
2001年	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	8月12日 ”8・12 被災地の集い”	同
2002年	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	8月17日 ”8・17 被災地の集い”	同
2003年	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	8月17日 ”8・17 被災地の集い”	同
2004年	1月17日 ”1・17 追悼・連帯・抗議の集い”	同
	8月28日 ”8・28 被災地の集い”	同

8月の集いは、95年8月20日、200ヶ所を超える避難所に、一万人余の避難者が居る状況で災害救助法の適用を打ち切り、避難所を閉鎖した神戸市等への抗議で始めた集いである。

大震災の教訓

大震災一月半後頃、“自立”との言葉が宙に舞った。後に“自律”と変わった。いずれも被災者に何かを促し励ましているつもりらしい。最近“大震災の教訓”が頻発されている。同様に、被災者を含めた一般大衆に向けての発言と思われる。

『自立＝助けを待たずに自分でやれ。』

『自律＝多くを求めず程度を知れ。』

『大震災の教訓＝災害に備えることは個々の責任』、ということと思われる。

社会基盤を揺るがす大災害の救援救済に生活再建支援は、政治行政の責務である。勿論防災問題も同様である。阪神・淡路大震災はその防災不備を明白に示し、且つ、救援救済の遅れと支援施策の不適正さを浮き彫りにした。それこそ“大震災の教訓”そのものでないか。大震災から十年、“教訓”を生かすことなく手を拱いて来た反省を求めよう。

被災者の生活復興・被災地の真の復興のための、発言と行動を続けることを宣言する。

兵庫県南部クリスチャン連合

■ 所在地 〒653-0845
神戸市長田区戸崎通3丁目9-12
■ 電話 078-612-5511
■ F A X 078-612-5513

[設立年月日] 1995年1月15日

[会員数] 1,000名

[活動内容] キリスト教精神に従った追悼記念と希望のメッセージの集い



被災者全員への追悼・励まし・癒し・新たな希望へのサポート・メッセージ
を中心に活動して来ました

(代表 ^{すが はら} 菅原 ^{わたる} 亘)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 阪神大震災メモリアル集会
[実施年月日] 2005年1月15日
[実施場所] 神戸国際ホール
[内容] 賛美、演奏、ダンス(タンバリン) 聖書からのメッセージ

「最終回」チャリティー(飢餓に苦しむ世界の子どもたちへ)
第10回阪神大震災メモリアル集会
入場整理券
おひとり 1,500円
(2歳以下 無料)
【特別企画】
★賛美集会(午後5時～6時30分)
賛美上・力の限り祈りをたてよう・入場無料自由参加
★マーチ・フォー・ピース
集合: 1月15日午前10時、神戸市中央区三宮
出発: 午前10時30分(神戸駅～三宮まで)
神戸国際ホールまで行進
参加要請あり
日時: 2005年
1月15日(土)午後1時～4時30分
会場: 神戸国際会館(こくさいホール)
(神戸市中央区磯山通5丁目1番 TEL: 078-231-8182)
主 催: 兵庫県南部クリスチャン連合 ● 事務局: 神戸キリスト栄光教会

わたしたちの これまで

1995年 シーガルホールと行進(元町→三宮)
1996年 シーガルホール
1997年 シーガルホール
1998年 松方ホール
1999年 ポートピアホール
2000年 神戸キリスト栄光教会
2004年

やまとボランティア

■ 所在地 〒657-0031

神戸市灘区大和町3-1-20

サポート・ステーション灘「つどいの家」

■ 電 話 078-842-4365

■ F A X 078-842-4363

[設立年月日] 1995年11月7日

[会員数] 8名

[活動内容]

- 定例行事(対象-高齢者、障害者、毎週火曜日13:30~15:30)・ふれあい喫茶、手作り、歌、ゲーム、朗読 ・月1回やまと仮設住民との同窓会 ・復興住宅への安否確認
- 季節行事-昔ながらの伝承行事を共に楽しむ。
- 特別行事-区民行事や「つどいの家」行事に参加、子育て支援に協力する。



私達は、ボランティア入門講座の修了生を主体とし、一人ひとりの個性を生かし、活動への位置づけを重視、継続している。

「私達に何ができるだろうか」「どのように言葉をかけたらよいのだろうか」改めて震災への悲惨な思いが胸に込み上げてきた。月日が流れ、被災者の新しい生活での仲間づくりや、日々の交流にも少しずつ笑顔と話し合える声に生きている喜びを感じるようになった。

歳月も過ぎ去り、復興住宅への転出者も多くなり、次第に居室者にも焦りと不安が重なり、心身の疲労が深まってくる。

ふれあいセンターの閉鎖に伴い、現在の場所で活動を開始、継続している。高齢者、障害者、子ども達との出会いに、私達も大変うれしく、共に生きている喜びと命の尊さ、生きる事の大切さを学ぶことができた。

これからも、10年の道程を振り返り、ボランティア活動へと続けていきたいと思います。

(代表 泉本 勝子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 震災10周年の教訓と想いを胸に

[実施年月日] 2005年1月16日

[実施場所] サポート・ステーション灘「つどいの家」

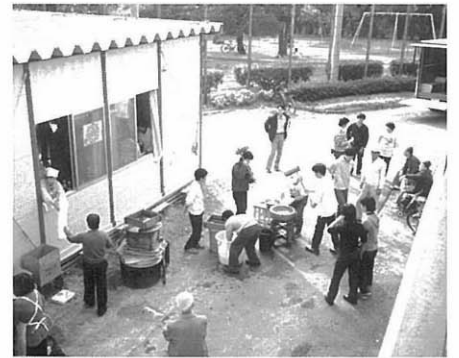
[内容] 鎮魂のつどい 15時より

- 1部・子ども達と語る-震災にまつわる記憶を子ども達に伝え、語り合い、震災での教訓と経験を継承する。
- ・歌のつどい-参加者・子ども達と歌う
- 2部・黙祷-会場において竹筒にローソクを立て点灯し、17:46に黙祷を捧げる。
- ・演奏-尺八による演奏
- ・お茶を交わしながら参加者とのふれあいをもち交流を深める。



わたしたちの これまで

- 1995年 11月●グループ結成。大和公園仮設住宅にて活動開始 ●ふれあいセンターでの定時活動(お茶会) ●参加者との話し合い ●居室者への安否確認 ●ボランティアグループ同士の情報交換
- 1996年 10月神戸市灘区社会福祉協議会、灘区ボランティアセンター主催による『1年間の活動の思い』を記念誌として発刊
11月やまとボランティア活動1周年記念行事-住民の感謝会に感動
- 1997年 3月やまと仮設自治会解散し、ふれあいセンター運営委員会を構成
●神戸市役員との交流会 ●兵庫県被災者復興支援会議(井戸端フォーラム開始)
- 1998年 ●復興住宅などへの転居も進み、残されている住民達の不安も募る 10月3周年記念行事を兼ね、「第1回やまと仮設同窓会」を開く 復興住宅からも多数来会者ある
- 1999年 1月やまと仮設最終住人の復興住宅や病院への転出者を送る 7月次期、活動予定場所を展開する 12月サポート・ステーション灘「つどいの家」に場所を置く
- 2000年 ●復興住宅や病院などへの友愛訪問を強化し、安否を確認する ●地域への呼びかけやビラ配りを行い、活動の拠点を知らせる 11月神戸市社会福祉協議会より表彰を受ける
- 2001年 2月神戸市灘区社会福祉協議会●灘区ボランティアセンター主催による『各ボランティアグループ紹介』を記念誌として発刊する ●ボランティア同志の交流も深まり、参加者にも明るい元気な声が聞こえる
- 2002年 5月サポート・ステーション灘「つどいの家」によるグループ間の「1年間のあゆみ」を発刊 テーマを「共に学び、共に歩む仲間づくり」とし、活動を継続する
- 2003年 ●参加者の人数も多くなり、おしゃべりや色々な手作りを楽しむ
●季節行事を伝承行事とし、語り合い、楽器を使って楽しむ
●毎月1回を「やまと仮設同窓会」とし、各復興住宅からの参加者も増える
- 2004年 1月神戸市社会福祉協議会のホームページに掲載 ●「つどいの家」行事に参加し、子ども達と手作りをし遊び子育て支援に協力する 10月『灘区ふれあい秋まつり』に参加し、子ども達と一緒に手作りをし、交流を深める



やまと仮設住宅の方々と楽しいもちつき



「新年のつどい」今年も元気でネ!

わたしたちの これから

共に学び、共に歩む仲間づくり

♪♪めだかの学校は川のなか、誰が生徒か先生か・・・♪♪ 今日は何作る! 誰が先生! 私が教えてあげる! 狭い部屋にも元気な声と明るい笑いの花で一ぱいになる。

“また来週ね!、楽しみに待って下さる声に大変うれしく喜んでおります。私達も設立10周年を迎えることになりました。振り返れば発足時は不安や戸惑いもありましたが、震災で受けた心の傷が同じ人間として、生きている喜びと生きることの大切さ、お互いを思いやる心をも教えてくれました。やがて10年の歳月が流れ共に喜び、悲しく涙した数々のことも思い出となり今は参加者の表情にも、生きようとする力強いものをも感じるようになりました。

“共に学び、共に歩む仲間づくり、私達の歩いてきた“活動の道、を教訓とし、経験を生かしボランティア活動への参加と地域社会、子ども達への関わりなど、よりよい実践活動へと展開していきたいと思います。

ゆりの会

■ 所在地 〒662-0815
西宮市仁川百合野町2-33

■ 電話/FAX 0798-52-8693

[設立年月日] 1988年2月

[会員数] 360世帯

[活動内容]

毎年、追悼コンサートを地すべり資料館で開催しています。又被災跡地約1,000㎡での花づくりやお花畑で野外コンサートもしています。



1988年(昭和63年)より資源ゴミ回収を通して自然環境保護に協力している団体です。震災で当地域から34名の犠牲者が出ました。7年目から亡くなった方々を忘れないためにコンサートが続けています。又、被災地跡の荒地を見かねて花づくりを始めました。毎月花の手入れに地域ボランティア40人が協力していただいております。(代表 高橋 光子)

阪神・淡路大震災10年目の追悼行事

[行事名] 第4回追悼コンサート
[実施年月日] 2005年1月16日
[実施場所] 地すべり資料館
[内容] ロス・シエロス(5人)の演奏で
南米民族音楽(フォルクローレ)です。

[行事名] 鎮魂の太鼓演奏
[実施年月日] 2005年1月17日
[実施場所] 慰霊碑前
[内容] 松山の右手寺からのメンバー
「打てば響く会」



慰霊碑前での鎮魂の太鼓演奏

わたしたちの これまで

- 2000年 3月 映画会「学校Ⅲ」上映(西宮市甲東ホール)
- 2002年 1月17日 第1回追悼コンサート クレーカルテットによる弦楽四重奏(地すべり資料館)
8月17日 夜、オカリナの調べを聞く会。吉田まり子氏演奏(慰霊碑広場で)
- 2003年 1月17日 第2回追悼コンサート 野田千晶さんのハーブ演奏(地すべり資料館)
6月1日 ホタルの夕べとして上西頼彦さんのケーナ演奏(慰霊碑前広場)
10月19日 コスモスの花畑で花見会として上西頼彦さんのケーナ演奏
- 2004年 1月17日 第3回追悼コンサート 野田千晶さんのハーブ演奏(地すべり資料館)
1月18日 「打てば響く会」松山市の石手寺から来西、太鼓演奏。後、資料館内で交流会
10月30日 「仁川フラワーガーデン」のコスモスの花見会としてロス・シエロスの南米民族音楽を演奏



1回目追悼コンサート女性だけの弦楽四重奏



コスモス畑でロス・シエロスの皆さん

わたしたちの これから

資源回収奨励金で賄っている小さなグループが、追悼コンサートや花づくりを通してたくさんの人たちとの交流が出来ました。満開のコスモスを見ながら美しい音楽を楽しめる喜びをこれからも続けていきたいと思っています。

■ 所在地 〒655-0864

神戸市垂水区塩屋台1-20-19

■ 電話 090-4302-8231

リメンバー神戸プロジェクト

[設立年月日] 1995年2月17日

[会員数] 36名

[活動内容]

震災直後「震災から得た教訓を忘れず、伝え、改善する」ため、市民・芸術家でリメンバー神戸プロジェクトを発足。「物質的語り部、被災物の保存」を目標として運動を展開。戦災と震災で残った市場の防火壁を「神戸の壁」と命名。保存活動の結果、4ヶ所に永久保存された。この運動から、市民のコミュニティー・文化・芸術が生まれた。



決して忘れない、1995年1月17日午前5時46分。震災の時「近代文明はどうなってるんや」と叫んだこと。「安心で豊かな復興」を願ったこと。被災地で出会った人は「地震さんが悪い」と言う。私はこの一言で終わらせてはならないと強く感じた。震災を体験した者は「この悲惨な出来事を決して忘れず、世界の人々に、震災から得た教訓を伝え、改善する」責務であると思った。震災直後「風化しない形ある被災物の保存」を目標にリメンバー神戸プロジェクトを発足させた。8年におよぶ活動で震災の生き証人として「神戸の壁」を4ヶ所保存したことで市民のコミュニティー、文化芸術を生んだ。この活動が実ったのは、参加、支援者の信念と勇気ある行動の賜まものであります。心より感謝申し上げます。（代表 三原 泰治）

阪神・淡路大震災10年目の記念行事

[行事名]

淡路島・津名町からの発信

阪神・淡路大震災の記録「神戸の壁」絵図展

[実施年月日]

2005年1月7日～17日 10:00～18:00

[実施場所]

津名町立しづかホール

(兵庫県津名郡津名町志筑新島5-4 TEL0799-62-2001)

[内容]

阪神・淡路大震災時に建ち残った防壁「神戸の壁」と命名、そして、津名町に移転、永久保存された。活動で生まれたドラマをリメンバー神戸プロジェクト代表、三原泰治(現代美術家)が絵図として制作、原画67点、「神戸の壁」フロッタージュ、「神戸の壁」の隠れ文字の瓦礫片(津名町保存現物)、活動記録パネル、ビデオの放映。

(主催:津名町、リメンバー神戸プロジェクト 後援:兵庫県、神戸市、阪神・淡路大震災10周年記念事業推進会議) 併催として期間中しづかホール野外ステージに移転された「神戸に壁」をライトアップ(17:30～22:00)

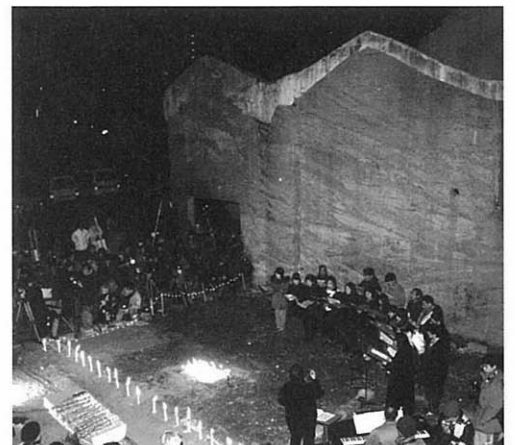


「神戸の壁の歌」ミニコンサート
(2005年1月15日)

- [行事名] 淡路島・津名町からの発信
伝えよう!!あの時のことを…「神戸の壁」ミニコンサート
- [実施年月日] 2005年1月15日 17:00
- [実施場所] 第1部 津名町立しづかホールホワイエ
第2部 津名町立しづかホール野外ステージ
- [内容] 阪神・淡路大震災の生き証人「神戸の壁」保存活動の中でそのときの思いを歌にし皆で歌った。その歌も12曲になりCDを制作した。神戸から「神戸の壁」が移転して5周年を迎えるに当たって、神戸の壁のある津名町で淡路島と神戸のメンバーによって6曲を演奏する。(主催:津名町、リメンバー神戸プロジェクト 後援:兵庫県、神戸市、阪神・淡路大震災10周年記念事業推進会議)
- [行事名] 静岡県地震防災強化月間関連事業自主防災活動推進大会
阪神・淡路大震災を語る「神戸の壁絵図展と体験談」
- [実施年月日] 2004年11月21日 10:00～17:00
- [実施場所] 静岡県伊豆市「修善寺生き生きプラザ」
- [内容] 防災活動が進んでいる静岡県は毎年、自主防災組織の活性化のため記念行事、表彰などを行なう「自主防災活動推進大会」を催されている。阪神・淡路大震災を語ると題して、リメンバー神戸プロジェクト代表三原泰治制作の「神戸の壁絵図」の展示と「震災体験談」を講演する。神戸の壁絵図41点と神戸の壁保存活動記録パネルを展示。(主催:静岡県 協力:リメンバー神戸プロジェクト)

わたしたちの これまで

- 1995年 ●リメンバー神戸プロジェクト発足集会。リメンバー神戸宣言震災の教訓を忘れないため被災物の保存を訴えてパフォーマン(2月26日長田区大国公園)●震災の生き証人「神戸の壁」保存実行委員会発足集会 神戸の壁保存宣言、神戸の壁を舞台に鎮魂と保存を訴えてコンサートとパフォーマンス(11月19日長田区若松町3丁目)●「神戸の壁」ライトアップの集い 鎮魂と復興を願って震災の日に備える(12月28日～1996年1月17日長田区若松町3丁目)
- 1996年 「神戸の壁」追悼の集い 鎮魂、復興と神戸の壁の保存をテーマに神戸の壁前広場で催す(1月17日5:20～6:00長田区若松町3丁目)
- 1997年 「神戸の壁」ライトアップの集い(1月7日～17日長田区若松町3丁目)
- 1998年 「神戸の壁」追悼の集い 鎮魂、復興と神戸の壁の保存をテーマに神戸の壁前広場で催す(1月17日5:20～6:00長田区若松町3丁目)
- 1999年 ●「神戸の壁」神戸での最後の追悼の集い 鎮魂、復興と神戸の壁、津名町へ譲渡記録を津名町柏木和三郎町長に手渡す(1月17日5:00～6:00長田区若松町3丁目)●「神戸の壁」津名町への移転起工式 神戸の壁旅立ちの集い 神戸の壁永久保存宣言津名町と神戸の壁保存実行委員会共催(2月11日長田区若松町3丁目)●「神戸の壁ベンチ」モニュメント除幕式 神戸の壁の基礎を背もたれにしたベンチを制作、設置(11月21日長田区アスタくにづか1,2番館地下)
- 2000年 ●「神戸の壁」津名町へ移転工事竣工式 新たなる出発の集い震災の前日に神戸の壁移転セレモニー、コンサート(1月16日津名町立しづかホール)●「神戸の壁の跡広場」追悼の集い 神戸の壁解体の跡広場にて鎮魂と復興をテーマで催す(1月17日長田区若松町3丁目)



震災4周年「神戸の壁」追悼の集い
(1999年1月17日)



「神戸の壁の歌」CD完成記念演奏の集い
(2004年1月11日)

- 2001年 ●「神戸の壁跡広場」追悼の集い(1月17日長田区若松町3丁目)●「大若復興の集い」神戸の壁の基礎を台座とした記念碑の「明日へわがまち」の除幕式(6月24日長田区若松町3丁目)
- 2002年 ●「大若」神戸の壁跡1.17の集い 復興記念碑「明日へわがまち」の前での追悼の集い リメンバー神戸プロジェクトとして協力参加(1月17日長田区若松町3丁目)●阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターの野外に神戸の壁の基礎を背もたれにした「神戸の壁のベンチ」設置 兵庫県支援(3月20日中央区脇浜海岸通1丁目)
- 2003年 ●「大若」神戸の壁跡1.17の集い 復興記念碑「明日へわがまち」の前での追悼の集い リメンバー神戸プロジェクトとして協力参加(1月17日長田区若松町3丁目)●阪神・淡路大震災の記録「神戸の壁絵図展」「神戸の壁」保存活動のその時の思いを三原泰治が描いた原画を展示(1月16日～21日中央区アートホール神戸、兵庫県学校厚生会館)
- 2004年 ●阪神・淡路大震災9周年あの日を忘れない!!「神戸の壁の歌」CD完成記念演奏の集い「神戸の壁」保存活動のその時の思いを歌ったものが12曲になりCD化した(1月11日長田区シューズプラザ)●「大若」神戸の壁跡1.17の集い 復興記念碑「明日へわがまち」の前での追悼の集い リメンバー神戸プロジェクトとして協力参加(1月17日長田区若松町3丁目)

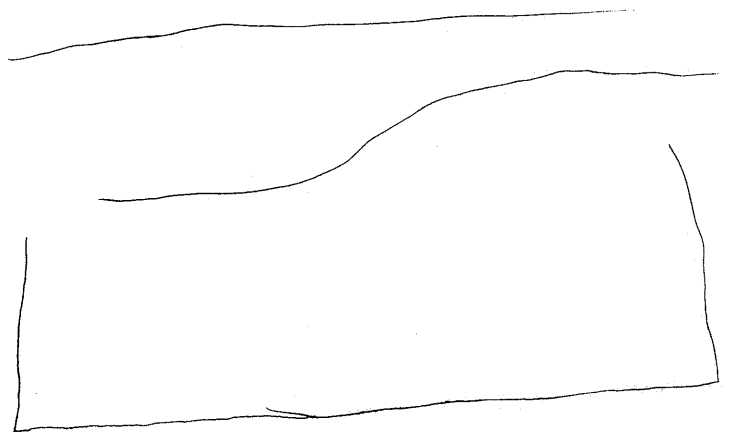
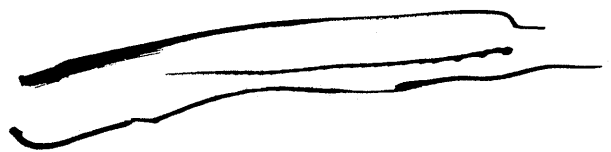
わたしたちのこれから

阪神・淡路大震災で亡くなった人々の悔しさに報いること

決して忘れてはならないのは1995年1月17日、午前5時46分。10年を迎えるが震災で得た教訓を今までに「人間として何をしてきたか、しなかった」。自問。被災地のそれぞれのふるさとは、以前のふるさとより安全で安心で豊かな街になったでしょうか。又犠牲になられた方々の悔しさに報いたことをしたでしょうか。震災を体験した人達はまず1月17日に祈り、震災を伝承する活動を推進したい。

そして震災から10年経過した今、ソフト面、精神的、評論的なことばが先行している中で、ハード面、防災、減災の対する備えの面を確立する活動を推進したいと思っている。

「人は死なせない、怪我をさせない、安全で安心で豊かな世界」に向かって、1歩1歩行動したいと思っています。



あとがき

「市民による追悼行事を考える会」に参加され、これまでに追悼行事を行ってきた市民団体は昨年で162を数えました。私たちは本誌の編集、出版に際し、そのすべての団体の10年の活動を記録としてまとめたいと思い、参加を呼びかけました。

次いで、これら以外の団体やグループが震災直後に被災地の各所で開催された追悼行事も、歳月を数えるうちに中止されたものが少なくありませんが、現在となってはその記録を探すことが大変難しくなっています。そうした団体の記録も収録したいと考え、それらの一グループ、一団体を、かつての新聞記事をさがし、インターネットで調べたほか、神戸新聞社及びラジオ関西のご協力で、紙面と電波でも呼びかけました。

その結果、すでに解散している団体からも、原稿を寄せていただくことができ合計65団体の記録が集まりました。しかし、まだまだ多くの活動が本誌からもれています。これからも地道にその足跡をたどり、一団体でも多くの記録を残していく必要性を痛感しています。

ところで、編集作業を進めるなかで気付いたことは、追悼行事といっても、心を和ませるもの、励ますもの、落ち着かせるものなど、さまざまな形があることでした。これは、それぞれが、自分たちならできるところを実施してきたという結果であり、これがそのまま、これからの活動に活かしていくことに繋がっていくものだといえます。

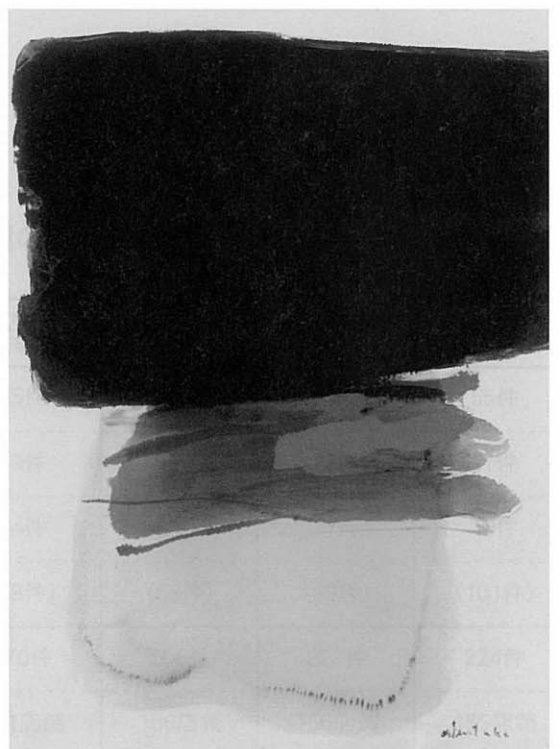
また、それぞれの行事の記録や写真ひとつ一つを眺めつつ、その行間に浮かんでくる震災当時の情景や感情、多くの失ったものと、与えられたたくさんの大切なもの、くじけそうになる気持ちを支えてくれた人の情けと、そのつながりに涙ぐみ、幾度も作業の手が止まりました。

例年になく自然災害や人間の愚かさを実感する事件が続いた昨年でした。私たちはいまあらためて、このような大惨事を避ける“防災と減災”に努める決意を固めたいものです。本誌が、そのための一助になればと願っています。

編集委員 「市民による追悼行事を考える会」世話人一同

編集ボランティア

足立隆子	今枝幸子	河田智江子	北村圭	小林篤子
鈴木啓子	中野千寿子	野村佳子	三浦真弓	吉田邦子



—表紙について—

無題 津高和一

津高和一先生は阪神・淡路大震災の時に西宮のご自宅が倒壊して、奥様と共に亡くなられた。享年82才。もともと若き日は詩人として活動されたので、絵画作品も日本的な詩的空間と気品を感じさせるものが多い。表紙に使われている作品は、1971年にブラジル、サンパウロでの個展に出品された作品で、没後10年を期して故郷に戻ってきた作品16点のうちの1点。2005年1月15日から27日までギャラリー島田で展示されたあと、県下の美術館に収蔵される予定。

本文挿絵は津高和一著『鳥の眼』から転載